ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 03-5351-9410
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 03-3356-6303

受付時間 10:00～18:00（土・日・祝日定休）

下記ホームページでもデジタル製品に関する情報を提供しております。
http://www.dimage.minolta.co.jp/

9223-2770-61 PR-B108

The essentials of imaging

www.minolta.com

DiMAGE S304

J 使用説明書

使用電池について

この度はミノルタ製品をご購入いただきまして誠にありがとうございます。
DiMAGE S304のご使用にあたり、使用電池について以下の点についてご注意下さい。

撮影にはニッケル水素電池のご使用をおすすめします。
本製品にはアルカリ電池を同梱しておりますが、アルカリ電池はその特性上、急激に電池容量が低下します。アルカリ電池は、動作確認・テスト用や緊急時のみに使われることをおすすめします。
通常のご使用に際しては、ニッケル水素電池を十分に充電してお使いください。
ニッケル水素電池の使用に関しては、以下の点にご注意下さい。

- 電池の両電極を乾いた布でよく拭き、汚れを取り除いてからご使用下さい。※
- 充電池には「メモリー効果」と呼ばれる現象があり、十分に使い切らないうちに充電を繰り返すと、完全に充電されたように見えても容量は少なくなります。十分に放電した(電池容量がなくなるまで使い切った)後、充電を行なうことをおすすめします。

ニッケル水素電池(1600mAh)をフル充電した場合の撮影可能コマ数
約280コマ(液晶モニター消灯)　約150コマ(液晶モニター点灯)
(当社試験条件において:アフタービユーなし、ボイスメモなし、フラッシュ使用50%)

※電池の清掃について
アルカリ電池、ニッケル水素電池に関わらず、電池の+/−両電極が汚れていると接触が悪くなり、すぐに電池が使えなくなる場合があります。新品電池でも汚れにより接触が悪くなっていることがありますので、すぐに電池が消耗する場合(が点滅)は、電池の両電極を乾いた布でよく拭いてからお使いください。

ご不明な点がございましたら、本書裏表紙に記載の弊社フォトサポートセンターまでお問い合わせください。

目次

目次

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発熱注意）

⚠警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- 指定された電池以外は使わないでください。
- 電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
- 表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。
- 電池のショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。
- 新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池、充電状態の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- アルカリ電池は充電しないでください。
- 充電式電池を充電する場合は、専用の充電器をご使用ください。
- 万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

警告

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

警告

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご連絡ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

ACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、アダプター本体を持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに交換をご依頼ください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分注意してください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

⚠注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やコンパクトフラッシュ(CF)カードを取り出さないでください。
熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

⚠注意

ACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時にアダプターが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

製品上のマークについて

このマークは、この装置が情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置であることを示しています。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

このマーク(CEマーキング)は、本製品が電気安全・電波障害に関するEU(欧州連合)の要求基準に適合していることを示すものです。CEとは、フランス語の Conformité Européenne(ヨーロッパ認定)の頭文字です。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
この製品は、有効画素数317万画素(総画素334万画素)のCCDに、広角35㎜から望遠140㎜まで(35㎜フィルム換算)の4倍ズームレンズを搭載した、コンパクトタイプのデジタルカメラです。4倍ズームレンズを搭載しながらもコンパクトで携帯性に優れ、ミノルタ独自の画像処理システム“CxProcess”の搭載により、風景から人物、遠くの被写体まであらゆる撮影領域に対応します。誰でも簡単に快適に使えるAUTO撮影に加えて、マニュアル撮影、ボイスメモ等、画質や機能にこだわる方にも満足してお使いいただける機能も搭載しています。

ご使用前にこの使用説明書をよくお読みいただき、末長く本製品をご愛用ください。

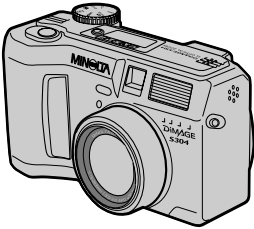
この使用説明書は2001年7月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーと組み合わせた場合の使用方法については、本書裏表紙に記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

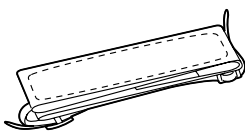
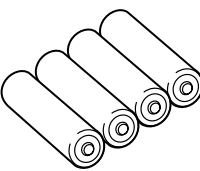
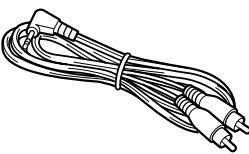
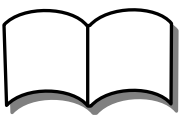
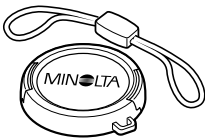
ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。
同梱されているユーザー登録カードに必要事項を記入して送付いただくか、弊社ホームページのユーザー登録ページでのオンライン登録(アクセス先はユーザー登録カードに記載されています)にて登録をお済ませください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ本体（DiMAGE S304）

レンズキャップ（LF-236）

ネックストラップ（NS-DG304）

AVケーブル（AVC-100）

8MBコンパクトフラッシュ(CF)カード

単3型アルカリ乾電池（4本）

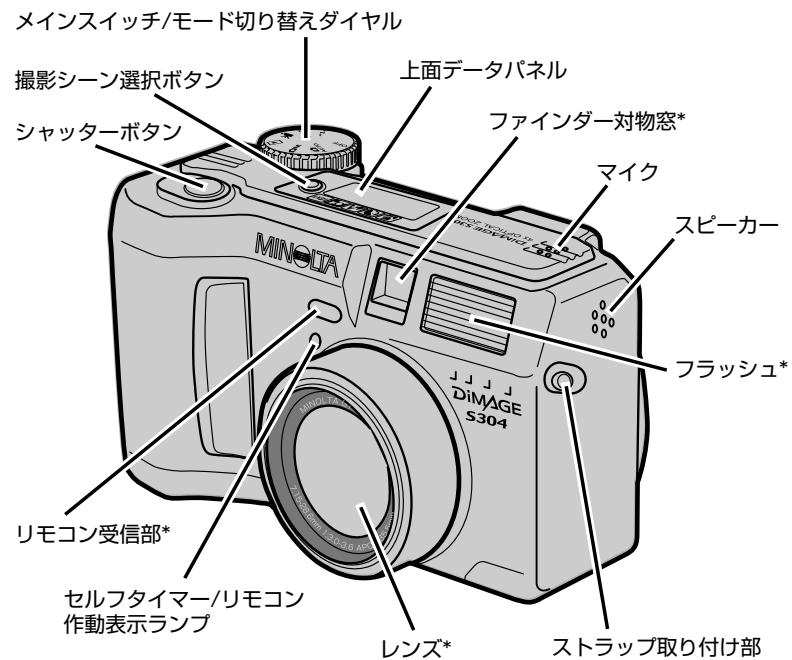
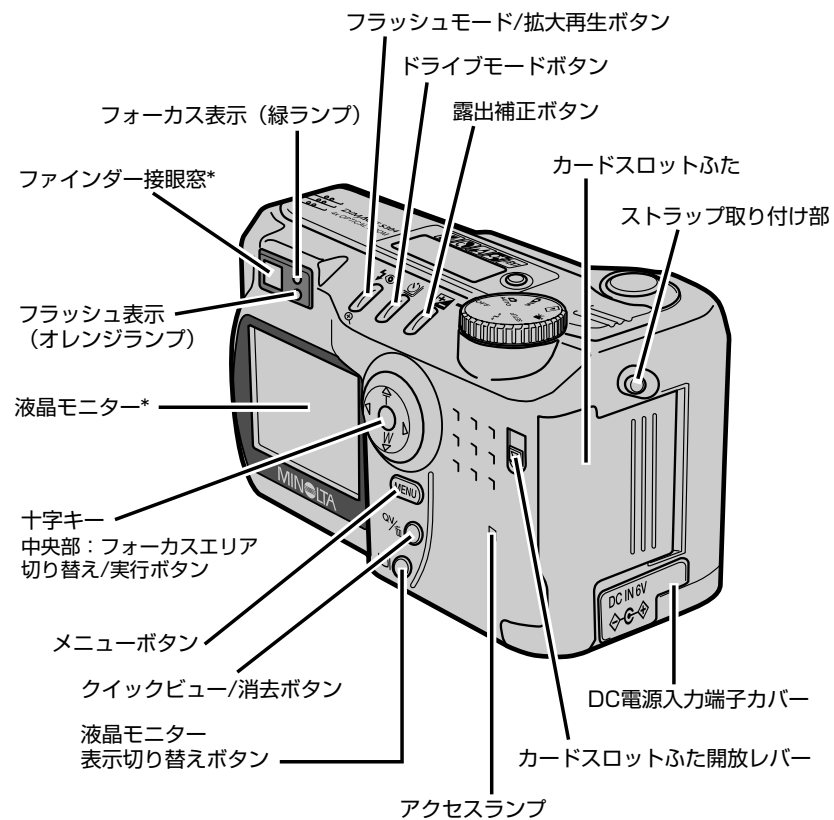
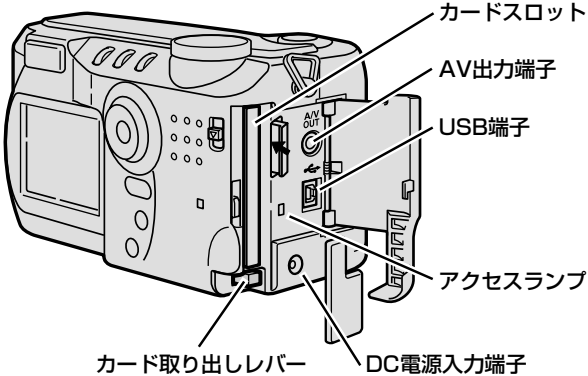
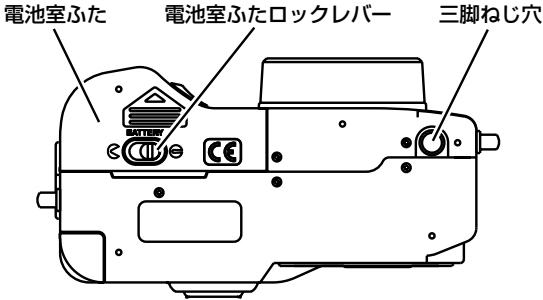
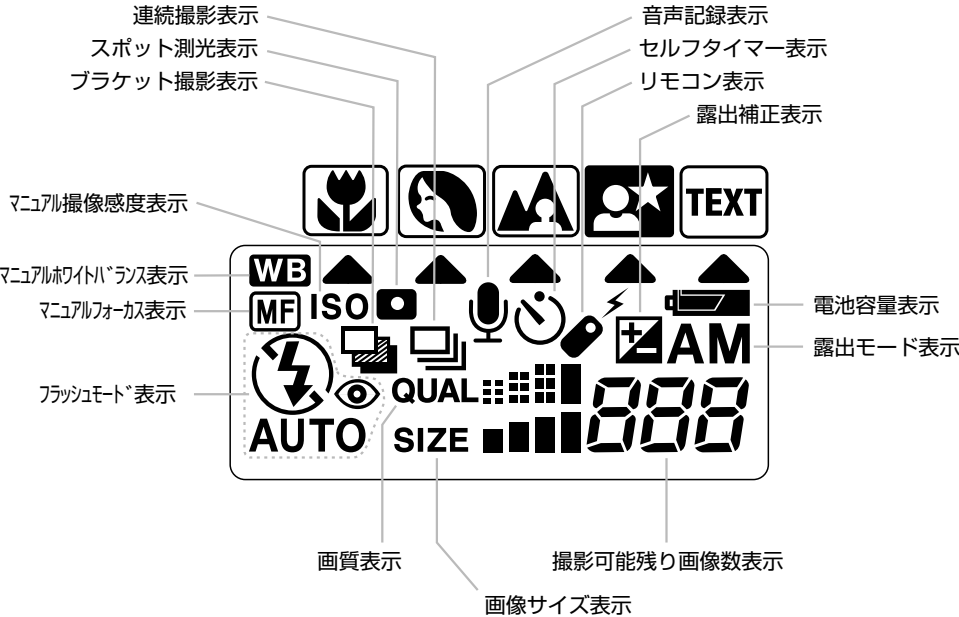
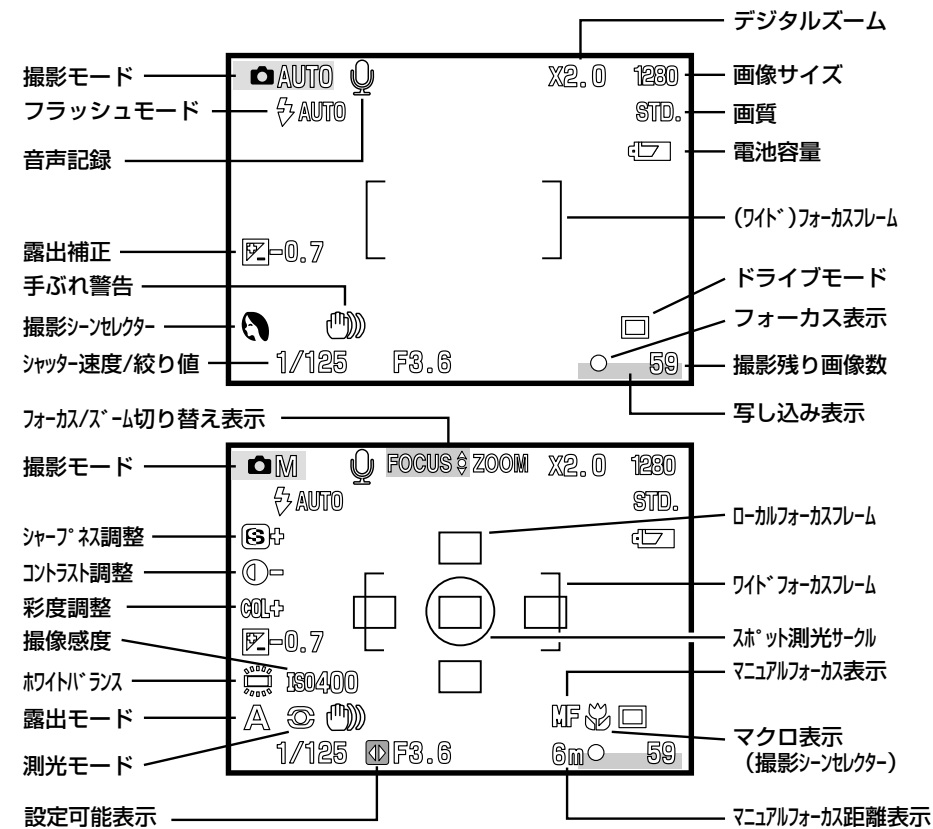
カメラ本体使用説明書（本書）

アフターサービスのご案内
ユーザー登録カード

別売の「ディマージュインターフェースキット IF-DG304」には以下のものが梱包されています。
- ディマージュソフトウェアCD-ROM（DiMAGE S304用）
（画像表示/フォトレタッチソフトウェア DiMAGE Image Viewer Utility（DiMAGE S304用）、Windows®98/98 Second Edition用USBドライバ、QuickTime™ for Windows® の3点のインストールが可）
- USBケーブル USB-200
- DiMAGE Image Viewer Utility（DiMAGE S304用）使用説明書
- ArcSoft PhotoImpression CD-ROM（Windows®版/Macintosh版）

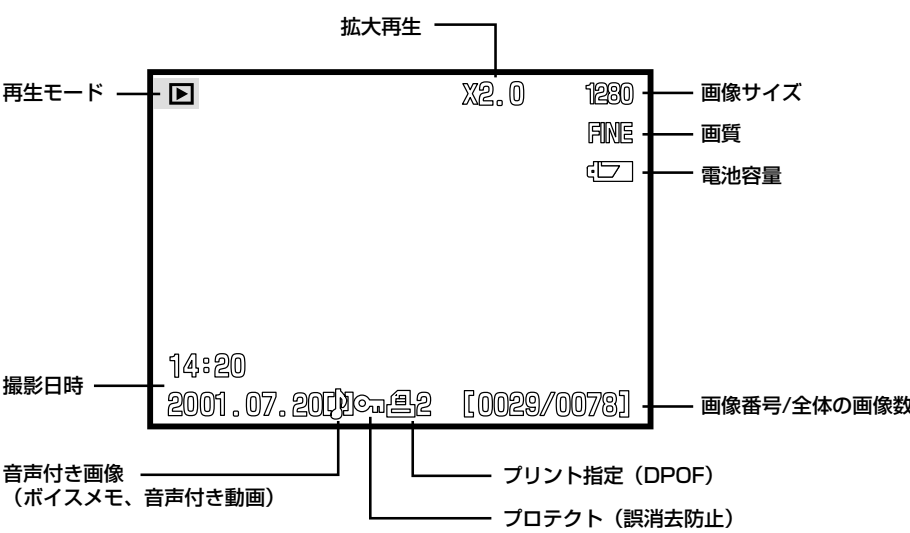
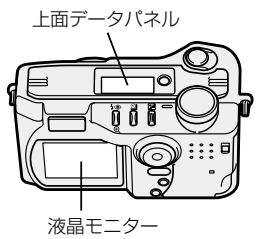
各部の名称

*の付いたところは直接手や指で触れないでください。

ボディ前面

ボディ背面

カードスロットふた内部（ボディ側面）

ボディ底面

上面データパネル

液晶モニター（上：AUTO撮影時、下：マニュアル撮影時）

液晶モニター（再生モード、1コマ再生時）

パワーセーブ（操作しないでいると表示が自動的に消えます）

上面データパネル

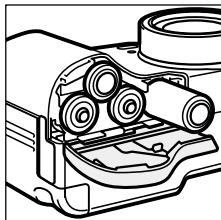
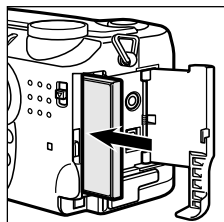
液晶モニター

このデジタルカメラは、約30秒以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に液晶モニターが消灯します。また約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に上面データパネルも消灯します（パワーセーブ）。シャッターボタン以外のボタンを押すか、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを回せば、操作が再開できます。

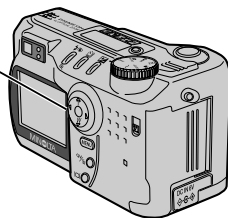
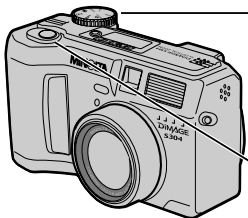
- パワーセーブまでの時間（初期設定は1分）を変更することができます。→P. 126

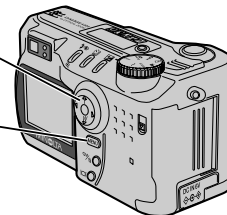
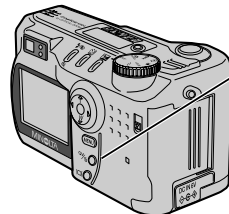
操作早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

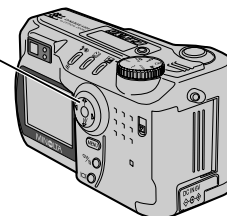
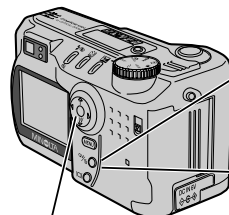
準備をする

1. 電池を入れます。→ P. 22

2. コンパクトフラッシュカードを入れます。→ P. 24

撮影する

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを AUTO に合わせます。→ P. 29
2. 上下の十字キーで、撮りたいものの大きさを決めます。→ P. 29
3. シャッターボタンを半押しします。→ P. 27、29
4. シャッターボタンを押し込んで撮影します。→ P. 30

撮影した画像を確認する（クイックビュー） → P. 34

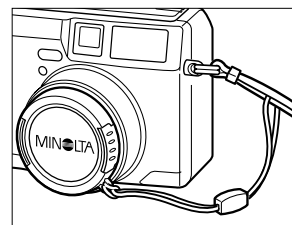
1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。
2. 左右の十字キーで、見たい画像を選びます。
3. メニューボタンを押すと元の撮影モードにもどります。

撮影した画像を消去する → P. 34、35

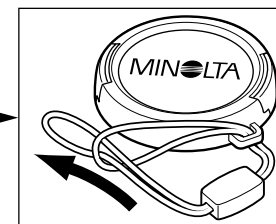
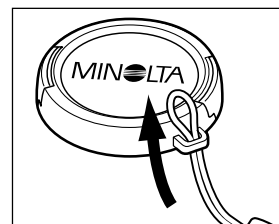
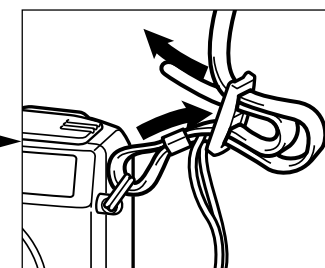
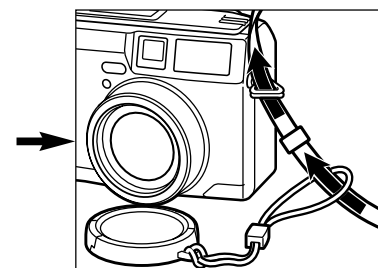
1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。
2. 左右の十字キーで、消去したい画像を選びます。
3. もう一度クイックビュー/消去ボタンを押します。

4. 右の画面が出た後、十字キーの左側で「はい」を選び、十字キーの中央を押すと消去されます。

● 「いいえ」のままで十字キーの中央を押すと消去されません。

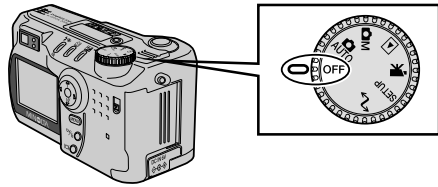
5. シャッターボタンの半押し、または、メニューボタンで元の撮影モードにもどります。

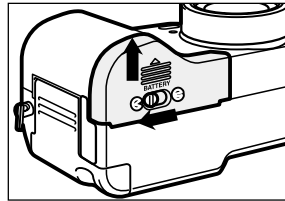
準備編

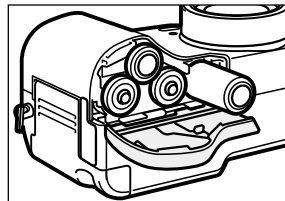
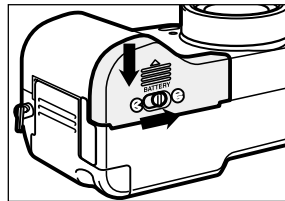
ストラップとレンズキャップ

ストラップ取り付け部は 2 カ所あります。ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。
レンズキャップは、落下や紛失防止のため、ストラップ取り付けの際に付属のひもで図のようにストラップに通しておくことをおすすめします。

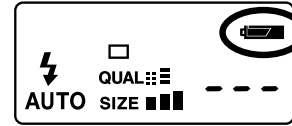
①ひもの輪の一端をレンズキャップの突起部に通し、もう一端をその輪に通します

②ストラップを上記①でレンズキャップに付けたひもに通し、カメラに向かって右側（フラッシュに近い側）のストラップ取り付け部にストラップの先端を通して、下図のように取り付けます。
●グリップに近い側の取り付け部にも同様に取り付けます。

電池の入れ方

単3形ニッケル水素電池 4本、または、単3形アルカリ電池 4本 を使用します。

●ニッケル水素電池の使用を推奨します。指定の充電器でフル充電してからお使いください。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFに合わせます。

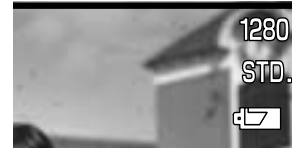
●電池を入れる前に、かならずメインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFに合わせてください。

2. 電池室ふたロックレバーを に合わせ、電池室ふたを図の矢印の方向に少しスライドさせます。

●電池室ふたから指を離すと、ふたが自動的に開きます。

3. 電池室内部の＋/－表示にしたがって電池を入れます。

4. 電池室ふたを閉じ、そのままふたを矢印の方向に止まるまでスライドさせ、ロックレバーを に合わせます。

電池容量の確認

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFF 以外に合わせると、電池の容量が上面データパネルと液晶モニター画面右上に表示されます。

点灯　電池容量は十分です。
（液晶モニターの表示は5秒後に消えます。）

点灯　電池の交換をおすすめします。

のみ点滅（上面データパネルのみ）
新しい電池と交換してください。
シャッターは切れません。

●**このカメラをご購入後はじめてご使用になる場合は、「日付/時刻を設定してください」というメッセージが液晶モニターに約3秒間表示されます。本書136ページの手順に沿って正しい日時を設定してください（正しい日時を設定しないと、撮影される画像の日付データが正しく設定されません）。**

●何も表示されないときは、電池の向き（＋/－）を確認してください。

●ご購入時には新品電池を入れておりますが、一般にデジタルカメラは電池の消耗が早く、アルカリ電池は短時間で消耗してしまうことがあります。ニッケル水素電池の使用をおすすめします。

●長時間の撮影や再生には、別売のACアダプター AC-1L や 外部電源パック EBP-100の使用をおすすめします。→P. 153

●電池が消耗した場合（ のみ上面データパネルで点滅した場合）、その消耗した電池はカメラから抜いてください。古い電池を入れたままACアダプターや外部電源パックを接続してもお使いになれません。

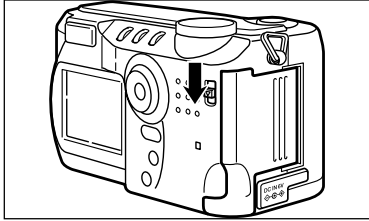
●電池が消耗して（ のみ上面データパネルで点滅）、新しい電池と交換する、または、ACアダプターや外部電源パックを接続する際は、消耗した電池をカメラから抜いてメインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFにしてから**30秒ほど待ってください**。すぐに新しい電池を入れたりACアダプターや外部電源パックを接続してもお使いになれません。

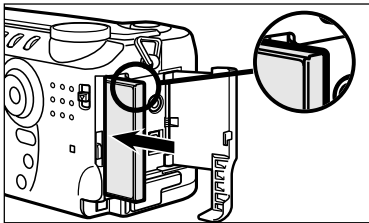
●電池を交換したときは、日時が出荷時の状態（2001.01.01　00：00）にリセットされる場合がありますので、日時を確認してください。→P. 136

コンパクトフラッシュカードの入れ方/取り出し方

入れ方

画像を記録するには、コンパクトフラッシュカード（以下 CFカード または カード）が必要です。付属のCFカードは、そのままこのデジタルカメラに入れてお使いいただけます。

●市販のCFカードをお使いの場合は、P.125の要領でフォーマットしてからお使いください。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFに合わせ、アクセスランプが消えていることを確認して、カードスロットふた開放レバーを押し下げます。

●カードスロットのふたが自動的に開きます。

2. CFカードの▲マークのある面をレンズ側に、細長い突起部分を図の向きにして、スロットにカードを差し込みます。

●カード取り出しレバーが出てくるまで、中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。

●カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードを差し込む向きを確かめてください。

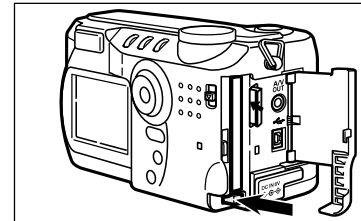
3. カードスロットふたを元通り「カチッ」と音がするまで閉じます。

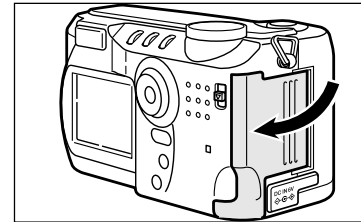
※カードを入れてメインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFF以外に合わせたときに、液晶モニターにメッセージが表示される場合は →P. 155

取り出し方

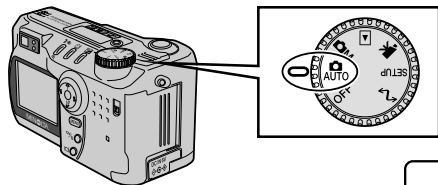
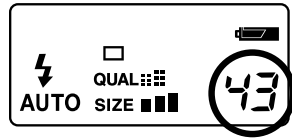
1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFに合わせ、アクセスランプが消えていることを確認して、カードスロットふた開放レバーを押し下げます。

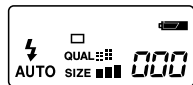
●カードスロットのふたが自動的に開きます。

アクセスランプ点灯中はCFカードを取り出さないでください。CFカード内のデータが破損する原因となります。

2. カード取り出しレバーを、中に押し込みます。

●カードが少し飛び出します。

3. カードを取り出し、カードスロットふたを元通り「カチッ」と音がするまで閉じます。

●長時間使用した直後のCFカードは熱くなっていますので、CFカードに触れる際はご注意ください。

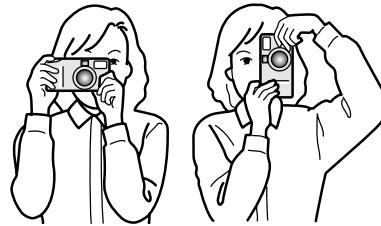
撮影残り画像数の見方

CFカードを入れて、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを AUTO または M に合わせると、上面データパネルと液晶モニター右下に撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のCFカードに記録できる画像数は、カードの容量やデジタルカメラで設定された画像サイズ、画質によって異なります。付属のCFカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約8枚になります（カード容量8MB、画像サイズFULL、画質スタンダード）。

●異なる容量のCFカードを使用した場合や画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影を行った場合は、撮影残り画像数は大きく変わります。

●000 が表示されたときは、CFカードがいっぱいです。他のCFカードに交換するか、CFカード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できる場合もあります。

●ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては表示されている残り画像数が多少上下することがあります。

●残り画像数が999枚を超える場合は、999と表示されます。999枚以下になるとカウントが始まります。

カメラの構え方/シャッターボタンの「半押し」

ファインダーを見て撮影する

ファインダーを覗いて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

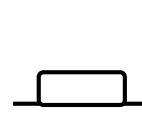
●脇を閉め、両手でしっかりと構えます。
●縦位置で撮影するときは、フラッシュを上にして構えてください。
●レンズやフラッシュ、ファインダー対物窓などカメラの前面に、指や髪の毛、ストラップ等がかからないようにしてください。
●暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

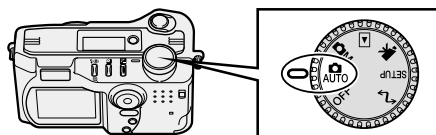
●広角側で1.0mより近いもの、望遠側で3.0mより近いものを撮影するときは、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲とに差があるので、液晶モニターで構図を決めてください。

液晶モニターを見て撮影する

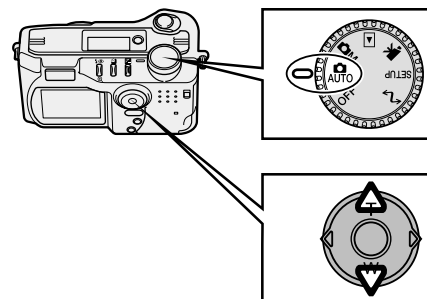
基本的な構え方は、ファインダーを見て撮影する場合と同じです。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

シャッターボタンの「半押し」

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

押す前　　半押し　　押し込んだ状態

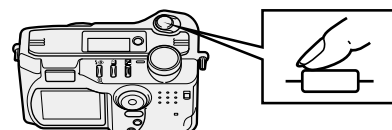
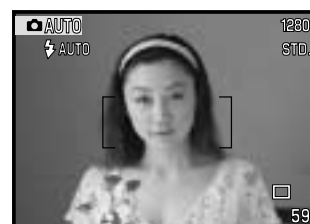
簡単に撮影できます
AUTO撮影編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが AUTO 位置にあるときの各種設定について説明しています。

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを AUTO 位置にしていると、液晶モニター画面左上に AUTO が現れます。

基本的な撮影

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを AUTO に合わせます。

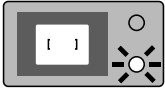
2. 液晶モニターまたはファインダーを見ながら、上下の十字キーで写したいものの大きさを決めます。

●上の十字キーを押すと望遠になり、より大きく写ります。下の十字キーを押すと広角になり、より広い範囲のものが写ります。

●液晶モニター画面の表示を切り替えることもできます。→P.36

3. ピントを合わせたいものに[　]を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

●半押しするとピントが合います。ピントが合って固定されると、ピント合わせに使われたセンサーが一瞬赤く表示され、ピントの合っている位置をお知らせします。ピントが合うと、液晶モニター画面の右下に白い○が点灯します（ファインダーのフォーカス表示（緑ランプ）も点灯します）。

（次ページに続く ☞）

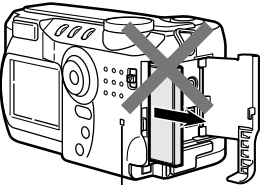
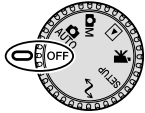
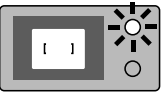
●シャッターボタンを半押ししたときファインダーのフラッシュ表示（オレンジランプ）がすばやく点滅する場合は、フラッシュが充電中です。オレンジランプが点滅から点灯に変わるまで待ってから撮影してください。

アクセスランプ

4. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●撮影された画像が自動的にCFカードに記録(保存)されます。CFカードへの書き込み中はアクセスランプが点灯しますので、その間はCFカードや電池を抜かないでください。

●デジタルカメラから約50㎝以上離れたもの（もっとも望遠側では約90㎝以上離れたもの）にピントが合います。それより近くを撮影するときは、デジタル撮影シーンセレクターの「マクロ」をお使いください。→P.52

●撮影後は、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFに合わせてカメラの電源を切ってください。

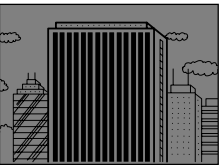
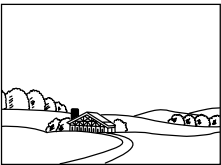
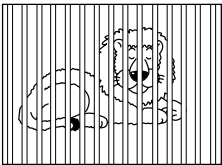
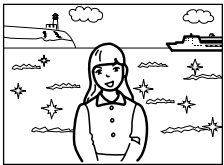
AUTO撮影時のピント合わせ

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われます。ピントが合って固定されると、フォーカスエリア［　］の中でピント合わせに使われたセンサーが一瞬赤く表示されます。
同時に、液晶モニター画面右下の○とファインダー横のフォーカス表示（緑ランプ）がピントの状態をお知らせします。

○（白色）点灯 緑ランプ　点灯	ピントが合っています。
●（赤色）点灯 緑ランプ　点滅	ピントが合っていません。

●（赤色）が点灯したとき・緑ランプが点滅したときは、被写体がデジタルカメラから50㎝以上（もっとも望遠側では90㎝以上）離れているか、または、オートフォーカスの苦手な被写体（以下）を撮影しようとしていないか確認してください。そのまま撮影すると、フラッシュが発光するときは3～3.8m（ズーム位置による)、フラッシュが発光しないときは（ほぼ）無限遠にピントが合います。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合はフォーカスロック撮影をおすすめします。→ 次ページ

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

［　］の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように明るいもの、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

AUTO撮影時のピント合わせ

被写体が［　］に入らないときは（フォーカスロック撮影）

ピントを合わせたいものが［　］に入らないとき（左の写真のようなとき）に、そのまま撮影すると、［　］と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

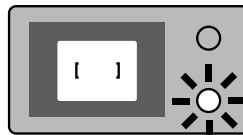
●画面右下に白い○が点灯し、ファインダー横のフォーカス表示（緑ランプ）が点灯します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図にもどします。

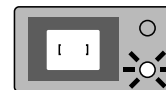
3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●ピントと同時に露出も固定されます。シャッター速度と絞り値が黒く反転してお知らせします。
●ピント合わせの方法として、他にも5つのローカルフォーカスフレームの中から自分のピントを合わせたいところを選ぶことができるフォーカスエリアセレクト機能（→ P. 76）や、手動によるピント合わせ（マニュアルフォーカス、→ P. 78）もあります。

AUTO撮影時のフラッシュ表示

フラッシュ表示

シャッターボタンを半押ししたときにファインダーのフラッシュ表示（オレンジランプ）が点灯すれば、フラッシュが発光します。
AUTO撮影にするとフラッシュは自動発光モードになり、暗いときや逆光のときはフラッシュが自動的に発光します。

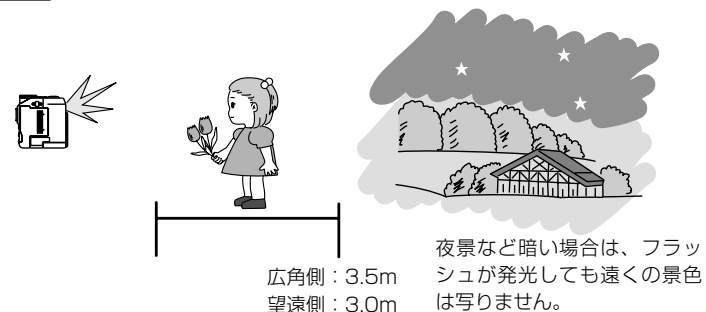
●シャッターボタンを半押ししたときファインダーのフラッシュ表示（オレンジランプ）がすばやく点滅する場合は、フラッシュが充電中です。オレンジランプが点滅から点灯に変わるまで待ってから撮影してください（フラッシュの充電時間は新品電池で約7秒です）。
●このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。
●フラッシュ光が被写体に届いたときは、撮影後、液晶モニター画面に ϟ が青色で点灯します。撮影後に液晶モニター画面に青い ϟ が現れなかった場合は、フラッシュ光が被写体に届いていません。フラッシュ光の届く距離を確認してください（下記参照）。

●自動発光モード以外のフラッシュ発光モードを選ぶこともできます。→ P. 56

フラッシュ光の届く距離

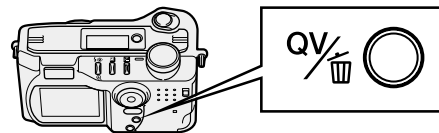
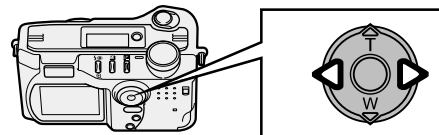
フラッシュの光が届く範囲には限度があります。
AUTO撮影では、もっとも広角側では3.5m、もっとも望遠側では3.0mを目安に撮影してください。

●広角側で1.0m未満のものをフラッシュ撮影すると、フラッシュ光がレンズでさえぎられることがあります。

広角側：3.5m
望遠側：3.0m

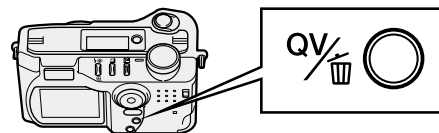
夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

撮影した画像を確認する/消去する

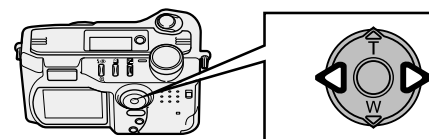
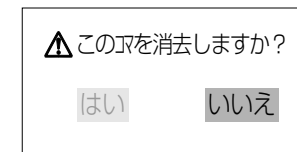
撮影した画像を確認する（クイックビュー）

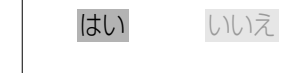
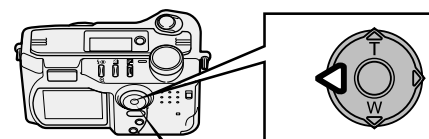
撮影した画像を簡単に見ることができます。

1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。
●直前に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

2. 左右の十字キーで見たい画像を選びます。

3. メニューボタン、または、シャッターボタンを押すと、もとの撮影モードにもどります。

画像を手早く消去する

クイックビューの状態で、画像を簡単に消去することができます。

1. 撮影後、クイックビュー/消去ボタンを押します。
●直前に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

2. 左右の十字キーで消去したい画像を選びます。

3. もう一度、クイックビュー/消去ボタンを押します。
●以下の画面が現れます。

●消去したくない場合は、上記の状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

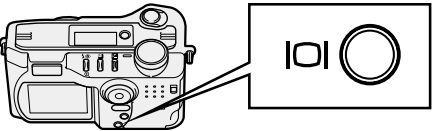
4. 左の十字キーで「はい」を選びます。

5. 十字キー中央の実行ボタンを押します。
●選んだ画像が消去されます。
●メニューボタン、または、シャッターボタンを押すと、もとの撮影モードにもどります。

※再生モードで消去するときは → P. 106

液晶モニター表示の切り替え

液晶モニター表示切り替えボタンを押します。
- ●ボタンを押すごとに、液晶モニターの表示が以下の順序で切り替わります。

モード・警告表示・撮影データ・フォーカスフレーム

ライブビュー画像のみ

液晶モニター消灯

- ●警告表示とは、赤色で表される表示のことです。
- ●この使用説明書では、すべてを表示させた状態(左端)で説明しています。

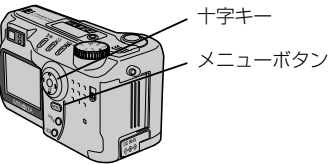
AUTO撮影モード時のメニュー設定

AUTO
基本
画像サイズ 2048×1536
画質 スタンダード
ボイスメモ なし
日付写し込み なし
デジタルズーム あり
アフタービュー なし

メニューボタンを押すと、左図のメニュー画面が現れ、以下の設定ができます。メニューボタンと十字キーとを使って設定します。
◎は、セットアップモードの「設定値リセット」(→P. 133)で設定される内容です。

タブ	項目	上面データパネル	液晶モニター	設定
基本	画像サイズ →P. 38	SIZE ■■■■	2048	◎2048×1536 (FULL)
		SIZE ■■■	1600	1600×1200 (UXGA)
		SIZE ■■	1280	1280×960 (SXGA)
		SIZE ■	640	640×480 (VGA)
	画質 →P. 40	QUAL ⠿⠿⠿⠿	S.FIN	スーパーファイン (超高画質、TIFF画像)
		QUAL ⠿⠿⠿	FINE	ファイン (高画質、JPEG画像)
		QUAL ⠿⠿	STD.	◎スタンダード (標準画質、JPEG画像)
		QUAL ⠿	ECON.	エコノミー (低画質、JPEG画像)
	ボイスメモ →P. 44	🎤	🎤	15秒
				5秒
				◎なし
	日付写し込み →P. 46		右下に黄色の横線	あり
				◎なし
	デジタルズーム →P. 48			なし
			×2.0	◎あり
	アフタービュー →P. 50		(撮影した画像)	10秒
				2秒
				◎なし

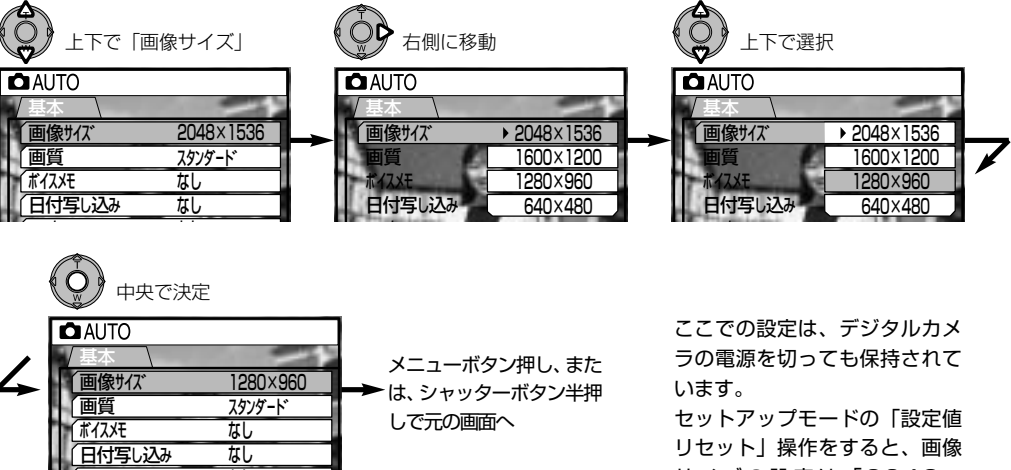
メニュー設定―画像サイズ

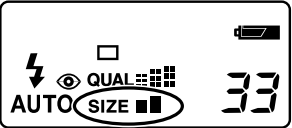
画像をパーソナルコンピュータに取り込んだときの大きさを指定できます。サイズを大きくすればするほど、1枚のCFカードに記録できる枚数は減ります。詳細は→ P.43

1. AUTO撮影モードで、メニューボタンを押します。

AUTO
基本
画像サイズ 2048×1536
画質 スタンダード
ボイスメモ なし
日付写し込み なし
デジタルズーム あり
アフタービュー なし

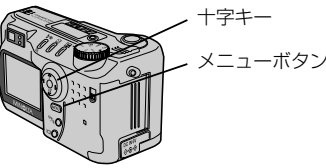
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

中央で決定

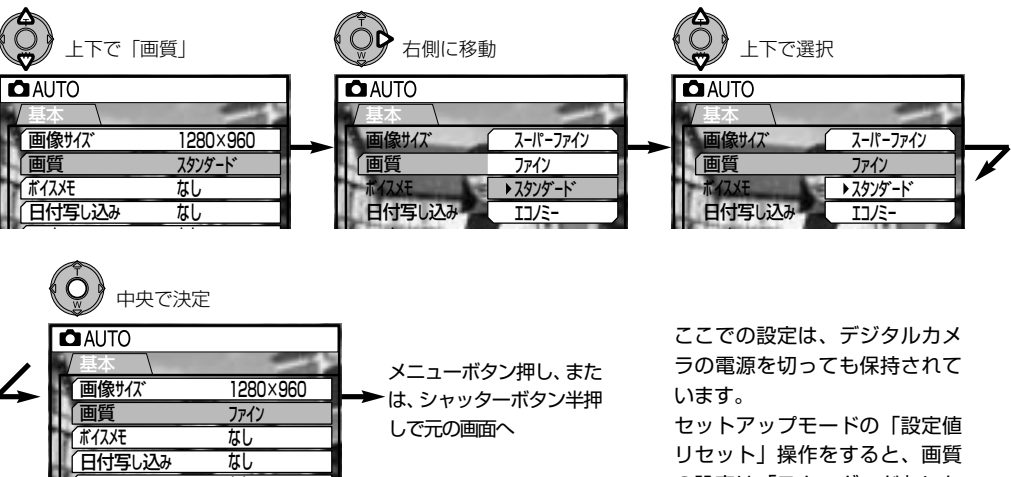
メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

ここでの設定は、デジタルカメラの電源を切っても保持されています。
セットアップモードの「設定値リセット」操作をすると、画像サイズの設定は「2048×1536」になります。

設定した画像サイズは、上面データパネルと液晶モニター画面右上に表示されます。

上面ﾃﾞｰﾀﾊﾟﾈﾙ	液晶ﾓﾆﾀｰ	画像サイズ（記録解像度、単位：ピクセル）
SIZE ■▮▮▮	2048	2048×1536（FULL）
SIZE ■▮▮	1600	1600×1200（UXGA）
SIZE ■▮	1280	1280×960（SXGA）
SIZE ■	640	640×480（VGA）

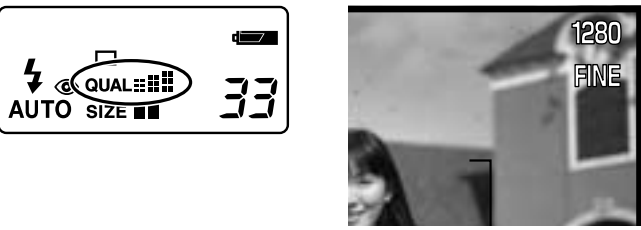
メニュー設定—画質

エコノミー（低画質）からスーパーファイン（超高画質）までの4種類から選ぶことができます。高画質になるほど、1枚のCFカードに記録できる枚数は減ります。詳細は→ P.43

1. AUTO撮影モードで、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

ここでの設定は、デジタルカメラの電源を切っても保持されています。

セットアップモードの「設定値リセット」操作をすると、画質の設定は「スタンダード」になります。

設定した画質は、上面データパネルと液晶モニター画面右上に表示されます。

上面ﾃﾞｰﾀﾊﾟﾈﾙ	液晶ﾓﾆﾀｰ	画質
QUAL	S.FIN	スーパーファイン（超高画質、TIFF画像）
QUAL	FINE	ファイン（高画質、JPEG画像）
QUAL	STD.	スタンダード（標準画質、JPEG画像）
QUAL	ECON.	エコノミー（低画質、JPEG画像）

- JPEG（ジェイペグ）は写真データとしてもっとも一般的なファイル形式で、オリジナルの画像を効率良く圧縮して容量を小さくしたものです。ファイン、スタンダード、エコノミーの違いは圧縮率の大小によるもので、ファイン→スタンダード→エコノミーの順で圧縮率が大きくなります。一方、TIFF（ティフ）は圧縮されておらず、画質は最高ですが容量は大きくなります。
- 画質をスーパーファイン（TIFF）にすると、撮影後CFカードに画像を記録するのに約50秒程度かかることがあります。記録中は液晶モニターは消灯します。

画像サイズ
デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。たとえば画像サイズ1600×1200の場合、画像は縦に1600，横に1200に分割され、その1点1点(画素)にそれぞれ色が付いて、全体として1つの写真になっています。
画像サイズとは、このように並んでいる画素の数を表し、画素 または ピクセルという単位で表されます。画像サイズを変えると、パーソナルコンピュータに取り込んだときの大きさが変化します。

画質
画質は圧縮率によって異なります。このデジタルカメラの場合、スーパーファインは非圧縮ですが、その他は圧縮されてファイルサイズが小さくなっています。
各画質でのファイル形式は右の通りです。

画質	ファイル形式
スーパーファイン	TIFF（非圧縮）
ファイン	JPEG（圧縮率 小）
スタンダード	JPEG（圧縮率 中）
エコノミー	JPEG（圧縮率 大）

撮影画像数とファイルサイズ
画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズとコンパクトフラッシュカード(CFカード)の容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。
ファイルサイズの目安と付属のCFカード(容量8MB)の撮影画像数は以下の通りです。

ファイルサイズ

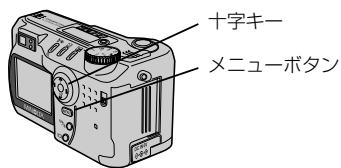
	2048×1536	1600×1200	1280×960	640×480
スーパーファイン	約9.1MB	約5.6MB	約3.6MB	約980KB
ファイン	約1.6MB	約1.0MB	約680KB	約280KB
スタンダード	約960KB	約620KB	約420KB	約200KB
エコノミー	約590KB	約390KB	約300KB	約160KB

8MB CFカード使用時の撮影画像数

	2048×1536	1600×1200	1280×960	640×480
スーパーファイン	0	約1コマ	約2コマ	約8コマ
ファイン	約4コマ	約7コマ	約11コマ	約28コマ
スタンダード	約8コマ	約12コマ	約18コマ	約40コマ
エコノミー	約13コマ	約20コマ	約26コマ	約51コマ

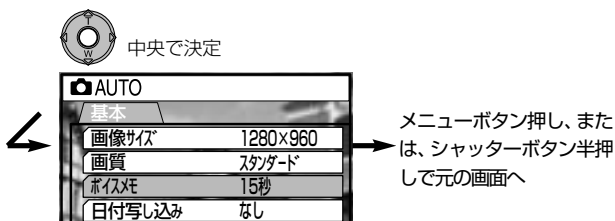
●上記の値は被写体によって異なるため、あくまで目安とお考えください。

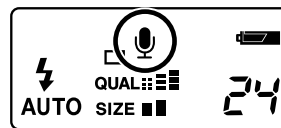
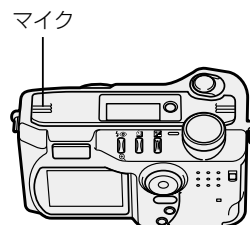
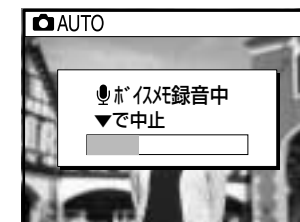
メニュー設定—ボイスメモ

撮影した画像に5秒間、または15秒間の音声メモを付けることができます。撮影時のメモ代わりなどにお使いいただけます。

1. AUTO撮影モードで、メニューボタンを押します。

AUTO	
基本	
画像サイズ	2048×1536
画質	スタンダード
ボイスメモ	なし
日付写し込み	なし
デジタルズーム	あり
アフタービュー	なし

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

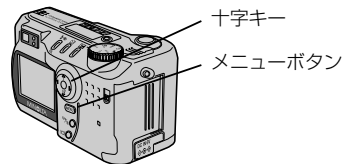
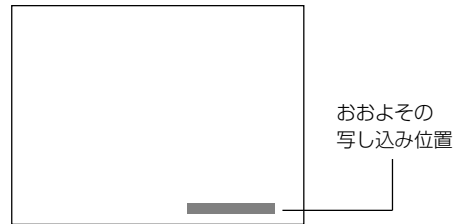
メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

ここでの設定は、デジタルカメラの電源を切っても保持されています。
セットアップモードの「設定値リセット」操作をすると、ボイスメモの設定は「なし」になります。

ボイスメモのメニュー設定で「5秒」または「15秒」を選んだときは、上面データパネルと液晶モニター画面左上に音声記録表示 🎙 が表示されます。

ボイスメモで「5秒」または「15秒」を設定しているときは、撮影後、自動的に録音が始まります。デジタルカメラのマイクに向かって、しゃべるなど音声を入力してください。

録音中は右図のような表示が現れ、図中のバーグラフで録音の進行状況をお知らせします。

●マイクから20㎝くらい離れたところから、真っすぐマイクに向かってしゃべってください。大きな声でしゃべると、再生時に音が割れることがあります。

●録音された音声は、再生モードで、十字キー中央の実行ボタンを押すと再生されます（→P. 98）。
●録音された音声は、CFカード内の、撮影した画像と同じ場所（フォルダ）に、WAVファイル*として保存されます（→P. 129）。
●録音を途中で中止したいときは、十字キーの下（▼）、または、シャッターボタンを押してください。それまで録音されていた内容もキャンセルされます。
●アフタービュー設定時（→P. 50）は、設定された時間（秒数）液晶モニターに撮った画像が表示された後に、録音が始まります。
●ボイスメモで「5秒」「15秒」を設定していても、連続撮影時（→P. 61）およびブラケット（露出ずらし）撮影時（→P. 62）にはボイスメモは機能しません。

*WAVファイル……Windows®で標準的に用いられるサウンドデータのファイル形式。WAVEファイルとも言う。通常は拡張子として .wav が付く。

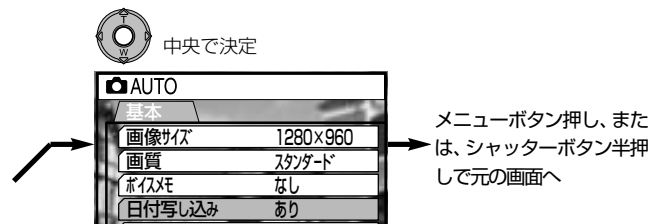
メニュー設定―日付写し込み

撮影の年月日を、画像の右下に入れることができます。

1. AUTO撮影モードで、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

中央で決定

AUTO
基本
画像サイズ 1280×960
画質 スタンダード
ボイスメモ なし
日付写し込み あり

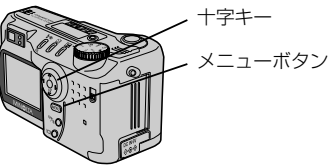
メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

ここでの設定は、デジタルカメラの電源を切っても保持されています。
セットアップモードの「設定値リセット」操作をすると、日付写し込みの設定は「なし」になります。

日付写し込み「あり」のときは、液晶モニター画面右下に黄色のバーが表示されます。

- ●日付写し込み「なし」に設定していても、撮影時の年月日・時刻は記録され、再生時には液晶モニター画面左下に表示されます。
- ●スーパーファイン（TIFF）画像、および、動画（→ P. 95）には写し込みはできません。

※年月日の並びを変更するときは → P. 137

メニュー設定―デジタルズーム

画像を2倍に拡大することができます。

1. AUTO撮影モードで、メニューボタンを押します。

AUTO
基本
画像サイズ 2048×1536
画質 スタンダード
ボイスメモ なし
日付写し込み なし
デジタルズーム あり
アフタービュー なし

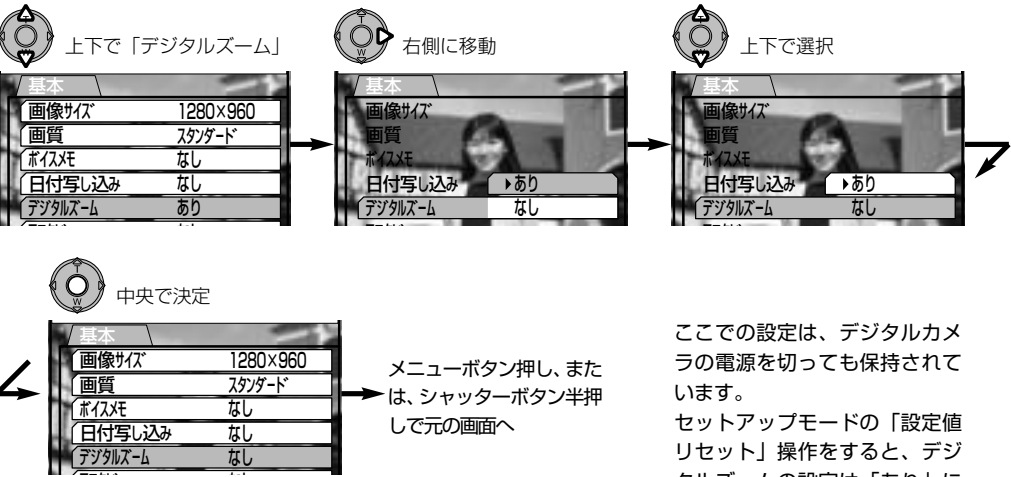
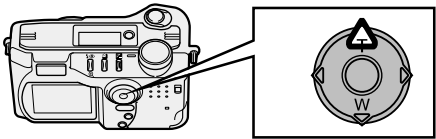
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

上下で「デジタルズーム」

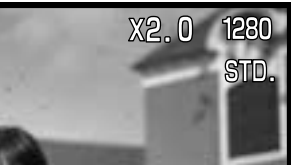
右側に移動

上下で選択

中央で決定

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

ここでの設定は、デジタルカメラの電源を切っても保持されています。
セットアップモードの「設定値リセット」操作をすると、デジタルズームの設定は「あり」になります。

1. 十字キーの上で、光学ズームの最望遠側までズームさせます。

2. いったん十字キーから指を離し、もう一度上の十字キーを1回押します。

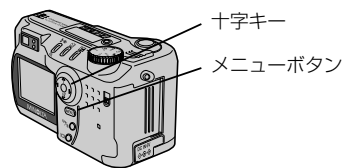
●液晶モニター画面の画像が2倍に拡大され、画面上部に×2.0が表示されます。

●ファインダーはデジタルズームには連動していません。写る範囲は液晶モニターの画面で確認してください。
●撮影後もデジタルズームのままです。解除するときは下の十字キーを1回押してください。液晶モニターの画面は、光学ズームの最望遠側にもどります。
●デジタルズーム時には、ピント位置をお知らせする赤いセンサーは表示されません。

上下の十字キーによる光学ズームでは、画像サイズを維持したまま拡大されますが、デジタルズームでは必ずしも画像サイズは維持されません。元の画像サイズに対して、以下の通りに画像サイズが変更されます。（例：640×480の場合は、デジタルズーム後も画像サイズは維持されるので光学ズームと同じ効果が得られます。フルサイズの場合だと画像サイズが半分になるので、データ上では周囲をトリミングしただけの画像となります。）

画像サイズの比較

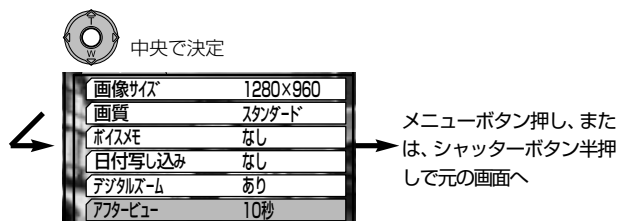
元の画像サイズ	→	デジタルズーム後の画像サイズ
2048×1536	→	1024×768
1600×1200	→	1024×768
1280×960	→	1024×768
640×480	→	640×480

メニュー設定—アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を指定時間液晶モニターに表示させます。撮影した画像を確認したり消去したりすることができます。

1. AUTO撮影モードで、メニューボタンを押します。

AUTO	
基本	
画像サイズ	2048×1536
画質	スタンダード
ボイスメモ	なし
日付写し込み	なし
デジタルズーム	あり
アフタービュー	なし

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

ここでの設定は、デジタルカメラの電源を切っても保持されています。
セットアップモードの「設定値リセット」操作をすると、アフタービューの設定は「なし」になります。

アフタービュー「なし」

撮影後、すぐに画像が保存され、ライブビュー画面(そのときにレンズが向けられている被写体が画面に表示される)にもどります。

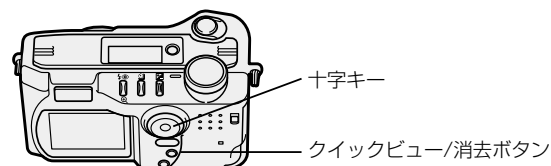
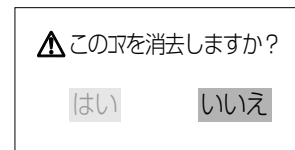
アフタービュー「2秒」「10秒」

撮影後、2秒間 または 10秒間撮影した画像が液晶モニターに表示され、その後自動的に保存されます。2秒間/10秒間に消去や保存をすることもできます。

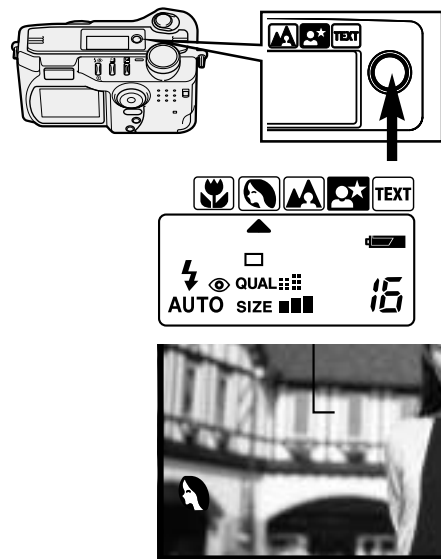
消去するときは、左の画面が現れている間にクイックビュー/消去ボタンを押してください。
右の画面が出たら、十字キーの左側で「はい」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押すと消去されます。

- 消去後は、シャッターボタンの半押し、または、メニューボタンを押すとライブビュー画面にもどります。

保存するときは、左の画面が現れている間に十字キー中央の実行ボタンを押してください。

- 2秒 または 10秒経過後、あるいは、シャッターボタンの半押しでも自動的に保存されます。

- アフタービューで「2秒」「10秒」を設定していても、連続撮影時(→P.61)およびブラケット(露出ずらし)撮影時(→P.62)にはアフタービューは機能しません。

デジタル撮影シーンセレクター

撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った写真を撮ることができます。

撮影シーン選択ボタンを押して、撮影したい場面の絵表示の下に▲を表示させます。

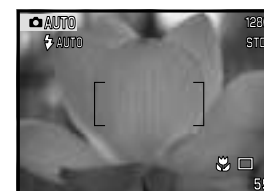
マクロ → P.53
ポートレート → P.54
風景 → P.54
夜景ポートレート・夜景 → P.55
テキスト → P.55
▲表示なし　通常撮影

- 撮影シーン選択ボタンを押すごとに、▲表示が、マクロ→ポートレート→風景→夜景ポートレート・夜景→テキストの順で絵表示の下に移動します。テキストの下に▲があるときに撮影シーン選択ボタンを押すと、▲表示が消えて通常撮影にもどります。
- 液晶モニター画面左下にも撮影シーンの絵表示が現れます。（マクロの絵表示は画面右下に現れます。→次ページ。）
- マニュアル撮影（→ P. 65）のときは、マクロのみ設定できます。そのときは、5つのローカルフォーカスフレームの中から自分のピントを合わせたいところを選ぶことができるフォーカスエリアセレクト機能(→ P. 76)や、手動によるピント合わせ(マニュアルフォーカス、→ P. 78)も使用できます。

マクロ

デジタルカメラ内のCCD*の位置から約16㎝〜60㎝（レンズ先端から約10㎝〜54㎝）の間のものを撮ることができます。

- 16㎝（レンズ先端から約10㎝）未満のものにはピントが合いません。

*CCD：デジタルカメラ内で被写体の映像を受け取る部分、すなわち通常のカメラのフィルムに相当する役割を果たす部分。CCDの位置については → P. 79

- マクロを選択すると、レンズが焦点距離15.5㎜（35㎜換算約75㎜）の位置に自動的にズームします。また、液晶モニター画面右下にマクロの絵表示が現れます。
- マクロでは、フラッシュモードが自動発光または赤目軽減自動発光のときはフラッシュは発光しません。他のフラッシュモードに変更はできます（→ .56）が、強制発光または赤目軽減強制発光で撮影すると、正しく露出制御されません。またフラッシュ光がレンズでさえぎられることがあります。
- マクロでは、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲とに差があるので、液晶モニター画面で構図を決めてください。液晶モニター表示切り替えボタンで液晶モニターを消灯させていても（→ P. 36）、マクロを選択すると液晶モニターは点灯します。

デジタル撮影シーンセレクター

ポートレート

人物を美しく浮き立たせるとともに、人の肌がなめらかに写るようなデジタル処理を行います。

●レンズの望遠側で撮影するとより効果的です。

風景

メリハリのついた画像になるようなデジタル処理で、色をより鮮やかに再現します。

●AUTO撮影とは違って、被写体が暗いときや逆光の被写体でもフラッシュは発光しません（自動発光モードのとき）。その場合、シャッター速度が遅くなり手ぶれを起こしやすいのでご注意ください（液晶モニター画面に手ぶれ警告 が表示されます）。

夜景ポートレート・夜景

ノイズ低減処理と専用ホワイトバランス設定で、黒をしっかりと再現し、光源を色鮮やかに再現します。明かりのない部分は暗く、明るい部分は明るく写し出され、美しい夜景を描写することができます。
フラッシュモードを強制発光にしたとき（→ P. 56）は自動的にスローシンクロになり、夜景も人物も両方きれいに写し出します。

●シャッター速度が遅くなりますので、三脚などにカメラを固定して撮影してください。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、声をかけて動かないように気を付けてもらってください。

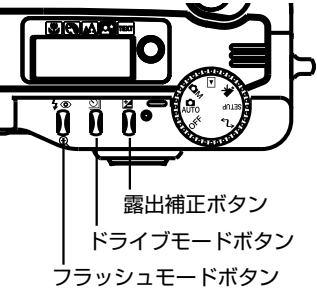
●AUTO撮影とは違って、被写体が暗いときや逆光の被写体でもフラッシュは発光しません（自動発光モードのとき）。その場合、シャッター速度が遅くなり手ぶれを起こしやすいのでご注意ください（液晶モニター画面に手ぶれ警告 が表示されます）。

テキスト

白地にかかれた文字がはっきりと見えるような撮影を行います。（通常に撮影すると白地が灰色になります。）

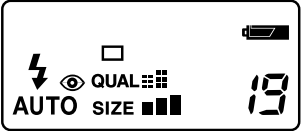
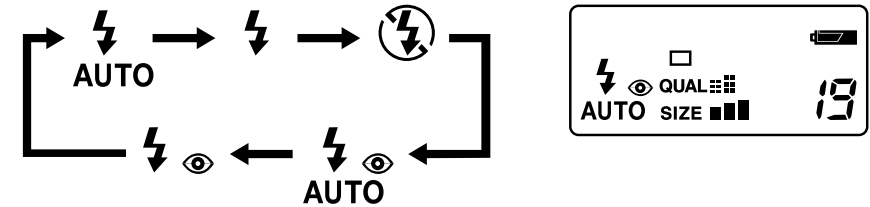
●AUTO撮影とは違って、被写体が暗いときや逆光の被写体でもフラッシュは発光しません（自動発光モードのとき）。その場合、シャッター速度が遅くなり手ぶれを起こしやすいのでご注意ください（液晶モニター画面に手ぶれ警告 が表示されます）。

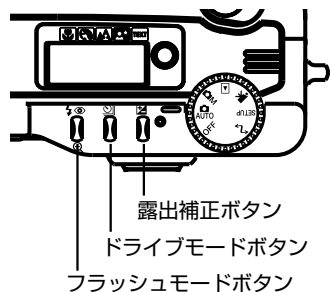
●最短撮影距離は、通常のAUTO撮影と同じです（広角側50㎝、望遠側90㎝）。

フラッシュモード/ドライブモード/露出補正

フラッシュモードの切り替え、ドライブモードの切り替え、露出補正の設定の各操作が、ボディ上面のボタンで行えます。これらは、AUTO撮影/マニュアル撮影（→ P. 65）共通の操作です。

フラッシュモードの切り替え

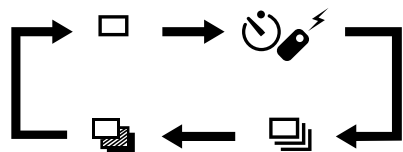
メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが AUTO または M 位置のとき、フラッシュモードボタンを押して、フラッシュモードを選びます。

●ボタンを押すごとに、以下の順で上面データパネルの表示が切り替わり、フラッシュモードが変わります。
●ボディが再生モードのとき、フラッシュモードボタンは「拡大再生ボタン」になります（→ P. 101）。

上面データパネル	液晶モニター	フラッシュモード	
AUTO	AUTO	自動発光	被写体が暗いときや逆光の場合など、必要なときに自動で発光します。
		強制発光	フラッシュはかならず発光します。屋外の人物撮影で顔にある影を和らげたいときや、水銀灯/ナトリウムランプ照明下の被写体を撮影する場合にお使いください。
		発光禁止	フラッシュは発光しません。美術館や博物館などフラッシュ撮影が禁止されている場所でお使いください。
AUTO	AUTO	赤目軽減 自動発光	撮影の直前に小光量のフラッシュが数回発光して、暗いところの人物撮影で目が赤く写る現象を和らげます（赤目軽減）。 その他は、自動発光、強制発光と同じです。
		赤目軽減 強制発光	

※自動発光、赤目軽減自動発光でフラッシュが発光しない場合や、発光禁止のとき、シャッター速度が遅くなると、液晶モニター画面に手ぶれ警告 が現れます。この場合は、ぶれた写真にならないようにご注意ください。三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします。

ドライブモードの切り替え

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが AUTO または M 位置のとき、ドライブモードボタンを押して、ドライブモードを選びます。

●ボタンを押すごとに、以下の順で上面データパネルの表示が切り替わり、ドライブモードが変わります。

（液晶モニターには
のみ表示されます）

1コマ撮影

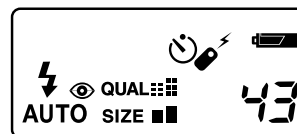
シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影で、セットアップモードの「設定値リセット」（→ P. 133）操作でも1コマ撮影にもどります。

セルフタイマー/リモコン撮影

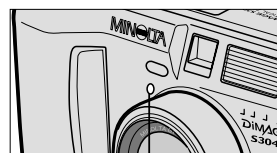
カメラのシャッターボタンを押すとセルフタイマー撮影に、リモコンの撮影ボタンを押すとリモコン撮影になります。

セルフタイマー撮影 ― シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

リモコン撮影 ― 別売アクセサリーの「IRリモコンRC-3」を使って、デジタルカメラから離れてシャッターを切ることができます。撮影者も一緒に写りたいときやカメラぶれを防ぐのにお使いください。

1. ドライブモードボタンを押して、セルフタイマー/リモコン撮影 を選びます。

液晶モニター画面には のみ表示されます。

【セルフタイマー撮影の場合】

2. 被写体にピントが合っていることを確認してから、シャッターボタンを押します。

セルフタイマー/リモコン作動表示ランプ

●セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマー/リモコン作動表示ランプが点滅します。撮影直前には素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。

●セルフタイマー動作中は、ランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます。→ P. 127

●撮影後、セルフタイマーは解除されます。

●作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを回すか、ドライブモードボタンを押してください。

【リモコン撮影の場合（別売アクセサリーのIRリモコン RC-3（下図）が必要です）】

信号送信部
2秒後撮影ボタン
撮影ボタン
MINOLTA
IR REMOTE CONTROL RC-3

2秒後撮影ボタン ― 押してから約2秒後にシャッターが切れます。撮影者は2秒の間にリモコンを拳の中や背中などに隠して写真に写ることができます。
撮影ボタン ― 押すとすぐにシャッターが切れます。シャッターボタンを押す振動によってカメラがぶれることを防いだり、シャッターを押すタイミングが重要なシーンでお使いください。

2. 撮りたいものに [　　] を合わせ、構図を決めます。

3. 左図の範囲内で、リモコンの信号送信部をカメラ（のリモコン受信部）に向け、2秒後撮影ボタンか撮影ボタンを押します。

リモコン受信部

●カメラを三脚などに取り付けてから操作してください。
●2秒後撮影ボタンを押したときは、カメラ前面のセルフタイマー/リモコン作動表示ランプが数回点滅します。撮影ボタンを押したときは、カメラ前面のセルフタイマー/リモコン作動表示ランプが1回点滅します。
●撮影後もセルフタイマー/リモコン撮影の設定のままです。解除するにはドライブモードボタンを押してセルフタイマー/リモコン表示を消してください。

※逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所では、リモコン撮影の可能な範囲が極端に短くなったり、リモコン撮影ができないことがあります。

連続撮影

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影されます。最速 約1コマ/秒 の連続撮影ができます。
●連続撮影の速度は、被写体など撮影条件によって異なります。

1. ドライブモードボタンを押して、連続撮影 を選びます。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

●スーパーファイン（TIFF）画像では連続撮影はできません。
●フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
●露出とピントの位置は1コマ目で固定されます。
●連続撮影時には、ピントの位置を表す赤いセンサーは表示されません。
●連続撮影の速度（1コマ/秒）を維持できる枚数には上限があります（以下参照）。これらの値は画像サイズや画質、被写体によって異なるため、あくまで目安とお考えください。

	画像サイズ			
	2048×1536	1600×1200	1280×960	640×480
ファイン	3	4	6	13
スタンダード	4	6	9	18
エコノミー	6	9	12	22

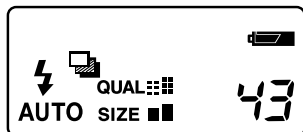
●撮影中にカードの空きがなくなると、撮影残り画像数 000 が表示されます。
●連続撮影時は、ボイスメモ（→ P. 45） および アフタービュー（→ P. 51） は機能しません。

フラッシュモード/ドライブモード/露出補正

ブラケット（露出ずらし）撮影

露出を自動的にずらした写真が3枚撮影できます。シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

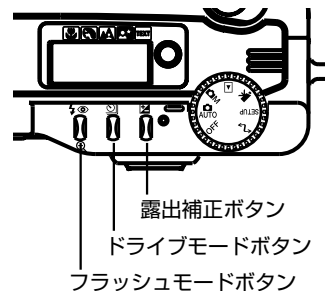
●スーパーファイン（TIFF）画質を選んでいるときは、ブラケット撮影を選択できません。

1. ドライブモードボタンを押して、ブラケット撮影 を選びます。

液晶モニター画面には の横にブラケット枚数を表す 3 が表示されます。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

●途中で指を離すとブラケット撮影は終了します。
●液晶モニター画面には、 の横にブラケットの残り枚数が表示されます。
●±0 → −0.5段 → ＋0.5段の順に撮影されます。マニュアル撮影（→ P. 65）ではずらし量を0.3段 または 1.0段に変更することも可能です（AUTO撮影ではずらし量は0.5段で固定）。変更方法は → P. 86
●露出の基準値（±0）とピントの位置は、1枚目を撮影するときに固定されます。
●撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影は行われず、ブラケット撮影は途中で終了します。

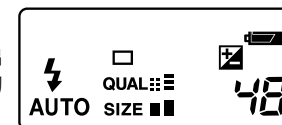
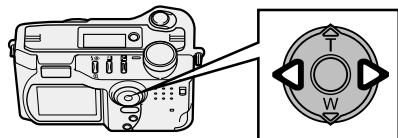
●ブラケット撮影時は、ボイスメモ（→ P. 45） および アフタービュー（→ P. 51）は機能しません。

露出補正

画面全体を明るくしたり暗くしたりします。−2.0〜＋2.0の範囲で0.3段ごとに設定できます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
−側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

露出補正＋側

露出補正−側

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが AUTO または M 位置のとき、露出補正ボタンを押します。

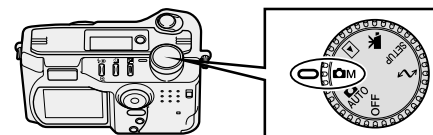
●上面データパネル および 液晶モニター画面に が現れます。
●液晶モニター表示切り替えボタンで液晶モニターを消灯させていても、露出補正ボタンを押すと液晶モニターは点灯します（その後液晶モニター表示切り替えボタンで再度消灯させることもできます）。
●マニュアル撮影（モード切り替えダイヤルが M 位置）で、露出モードとしてM（マニュアル）が選ばれているとき、露出補正ボタンは「シャッター速度←→絞り値切り替えボタン」として機能します（→ P. 70）。

（次ページに続く ☞）

2. 左右の十字キーで希望の数値を選びます。

- 右の十字キーを押すと＋側に補正がかかり、左の十字キーを押すと－側に補正されます。
- 数値設定中は、液晶モニター画面に とその横に設定値が表示されます（左図）。
- 設定に応じてライブビューの明るさも変わります。

3. 露出補正ボタンを押します。

- 補正値が確定され、液晶モニターは通常のライブビュー画面にもどります。
- 0以外に設定すると、上面データパネルには が、液晶モニター画面には と数値の両方が表示されます。
- 露出補正値が設定されているときは、フラッシュが自動発光モードであってもフラッシュは発光しません。

※AUTO撮影の場合、AUTO撮影以外のモードに切り替えたりデジタルカメラの電源を切ると、設定した補正値はキャンセルされ、0にもどります。マニュアル撮影の場合は、マニュアル撮影以外のモードに切り替えたりデジタルカメラの電源を切っても、設定した補正値は保持されています。

カメラの機能をフル活用して撮影できます マニュアル撮影編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが M 位置にあるときの各種設定について説明しています。

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを M 位置にしているときには、液晶モニター画面左上にも M が現れます。

マニュアル撮影時のメニュー画面

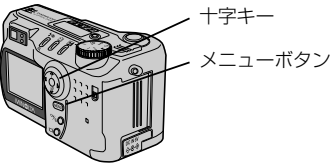
M撮影
基本 応用1 応用2
露出モード P(プログラム)
画像サイズ 2048×1536
画質 スタンダード
ホワイトバランス Auto
AF/MF切り替え AF
撮像感度 Auto

マニュアル撮影モード（メインスイッチ/モード切り替えダイヤル M位置）でメニューボタンを押すと、左図のメニュー画面が現れます。**マニュアル撮影時の大部分の項目は、メニューボタンでこのメニュー画面を呼び出して、十字キーを使って設定します。**
◎は、セットアップモードの「設定値リセット」（→ P. 133）で設定される内容です。

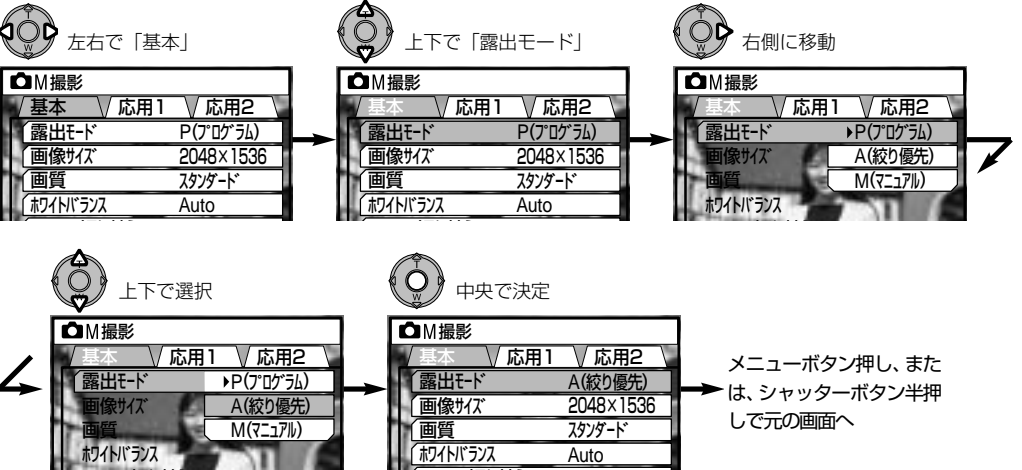
タブ	項目	設定
基本	露出モード → P.67	◎P（プログラム）、A（絞り優先）、M（マニュアル）
	画像サイズ※	（→ P.38）
	画質※	（→ P.40）
	ホワイトバランス → P.72	曇天、昼光、◎Auto、白熱灯、蛍光灯、カスタム
	AF/MF切り替え → P.78	◎AF、MF
	撮像感度 → P.80	◎Auto、100、200、400、800
応用1	フルタイムAF → P.82	あり、◎なし
	測光モード → P.84	◎多分割、スポット
	ブラケット段数 → P.86	0.3段、◎0.5段、1.0段
	デジタルズーム※	（→ P.48）
	アフタービュー※	（→ P.50）
応用2	カラーモード → P.87	◎カラー、モノクロ
	シャープネス → P.88	ハード、◎標準、ソフト
	コントラスト → P.90	強い、◎標準、弱い
	彩度 → P.92	あざやか、◎標準、おちついた
	ボイスメモ※	（→ P.44）
	日付写し込み※	（→ P.46）

※「基本」タブの画像サイズ、画質、「応用1」タブのデジタルズーム、アフタービュー、「応用2」タブのボイスメモ、日付写し込みの各項目については、AUTO撮影時のメニュー設定と同じです。そちら（本書38〜51ページ）をご覧ください。

露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、絞り値 あるいは シャッター速度と絞り値両方を自分で決めることができます。

1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

M撮影
基本 応用1 応用2
露出モード P(プログラム)
画像サイズ 2048×1536
画質 スタンダード
ホワイトバランス Auto
AF/MF切り替え AF
撮像感度 Auto

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

（次ページに続く ☞）

P（プログラム）モード

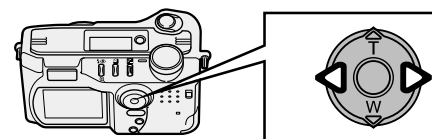
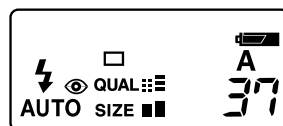
シャッター速度と絞り値とが自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。初期設定はP（プログラム）モードです。

A（絞り優先）モード

撮影者が2つの絞り値からどちらか希望の一方を決めることができます。絞りとはレンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。
絞り値を3.0などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。逆に8などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

絞り値が小さいとき

絞り値が大きいとき

A（絞り優先）モードを選ぶと、上面データパネルにAが表示されます。
また、液晶モニター画面左下に絞り値が青色で表示され、その左にが現れます。

左右の十字キーで、希望の絞り値を選びます。

- 液晶モニター画面では、絞り値は青く表示されます。以下の2つの絞り値のどちらか一方を選ぶことができます。

  ズーム広角側では、F3.0　または　F6.7 のどちらかの値
  ズーム望遠側では、F3.6　または　F8.0 のどちらかの値

- シャッターボタンを半押ししたときに、液晶モニター画面でシャッター速度が赤く点灯した場合は、デジタルカメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。シャッター速度が通常に（白く）表示されるように絞り値を変更してください。
- A（絞り優先）モードでは、フラッシュモードが自動発光モードでもフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくするとフラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さくして撮影されることをおすすめします。
- 絞り値を大きくすると、レンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります（フラッシュが発光しないときは手ぶれ警告 が表示されます）。三脚を使って撮影されることをおすすめします。

M（マニュアル）モード

撮影者がシャッター速度と絞り値の両方を自由に選ぶ（絞り値は2つの値のどちらか一方を選ぶ）ことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影する際などにお使いいただけます。

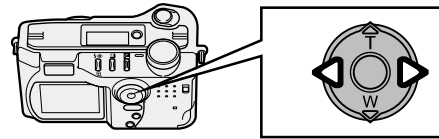
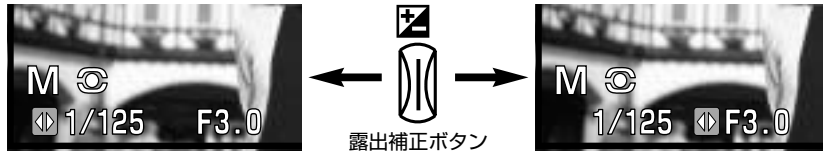
（次ページに続く ☞）

露出モード

M（マニュアル）モードを選ぶと、上面データパネルにMが表示されます。
また、液晶モニター画面左下に、シャッター速度と絞り値が表示されます。
シャッター速度と絞り値とで、数値を変えることができる方が青色で表示され、その左に が現れます。

1. 露出補正ボタンで、シャッター速度と絞り値のどちらを変更したいかを選びます。

- 露出補正ボタンを押すたびに、数値を変更できる方が青色で表示され、その左に が表示されます。

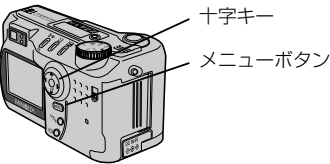
露出補正ボタン

2. 左右の十字キーで、希望の値を選びます。

【シャッター速度】
4秒～1/1000秒の範囲から選ぶことができます。

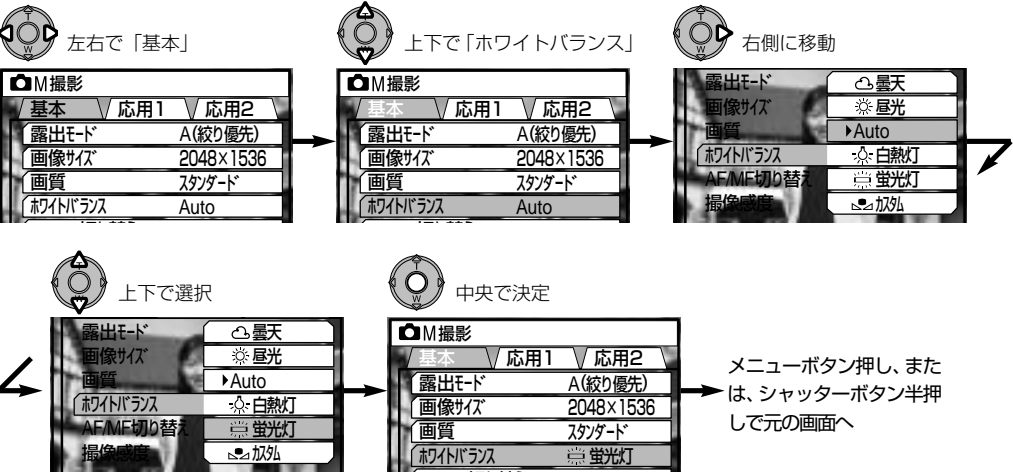
【絞り値】
ズーム広角側では、F3.0 または F6.7 のどちらかの値、ズーム望遠側では、F3.6 または F8.0 のどちらかの値を設定できます。

- 液晶モニター画面のシャッター速度で、2"、4" など「"」が出ているときは、2秒、4秒を表します。
- シャッター速度で、4"（4秒）の次に左の十字キーを押すと、bulb（バルブ撮影）が表示されます。→ P. 94
- M（マニュアル）モードでは、撮像感度（→ P. 80）をAUTOにしていると、常に ISO 100 相当に固定されます。
- M（マニュアル）モードでは、手ぶれ警告 は表示されません。
- M（マニュアル）モードでは、フラッシュモードが自動発光モードでもフラッシュは発光しません。

ホワイトバランス

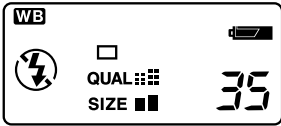
光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽく写ったりします。これが白く写るように調整するのがホワイトバランスです。初期設定であるAuto（オート）にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

M撮影	
基本 / 応用1 / 応用2	
露出モード	P(プログラム)
画像サイズ	2048×1536
画質	スタンダード
ホワイトバランス	Auto
AF/MF切り替え	AF
撮影感度	Auto

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

以下から、被写体を照明している光源を選びます。

- 曇天（曇った屋外）
- 昼光（晴れた明るい屋外）
- Auto オート（自動設定）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯
- カスタムホワイトバランス（→次ページ）

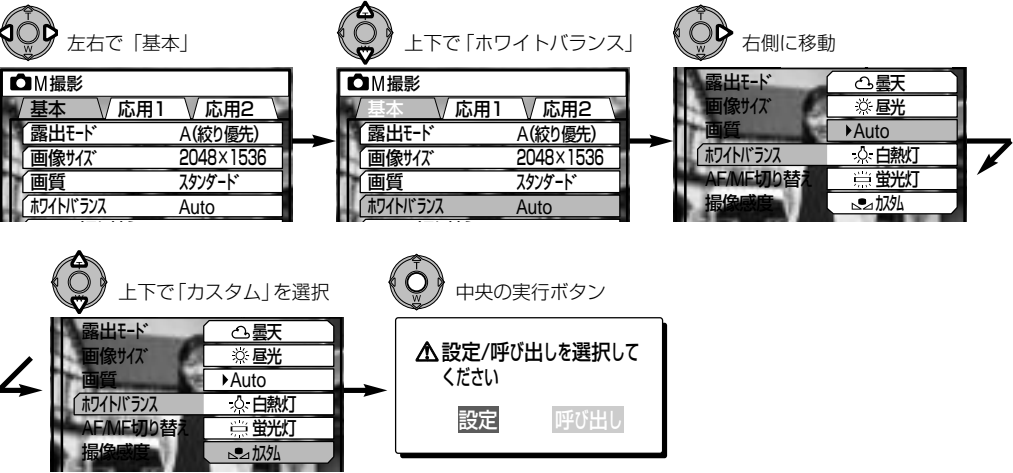
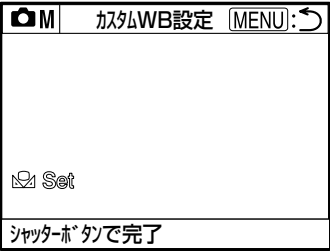
●選んだホワイトバランスの絵記号が、液晶モニター画面左下に表示されます。
●オート（自動設定）は、設定メニュー中には現れますが、撮影中の表示はありません。

●オート（自動設定）以外のホワイトバランスを選んだときは、上面データパネルにWB表示が現れます。

●水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

ホワイトバランス

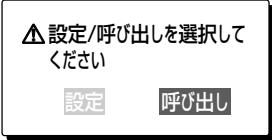
カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押し、十字キーでホワイトバランスのカスタムを選びます。

2. 左の十字キーで 設定 を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

3. 白く写したいものが画面いっぱいになるような構図にして、シャッターボタンを押し込みます。

- ピントを合わせる必要はありません。
- 撮影はされません。ここで画面に入れたものが白く写されるようなホワイトバランスに設定されます。
- 設定後はカスタムホワイトバランスでの撮影になります。

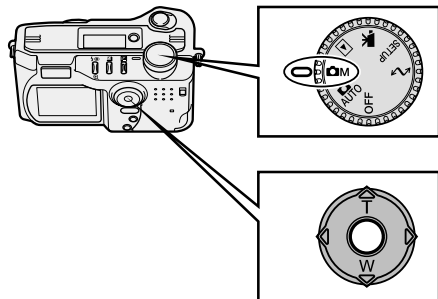
4. シャッターボタンを押して撮影します。

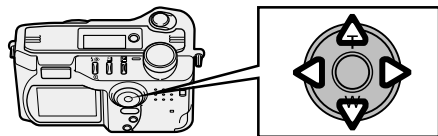
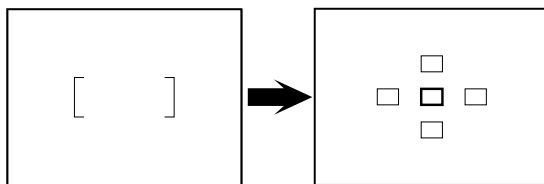
- この操作で設定されたカスタムホワイトバランスは、次に同じ操作で別のカスタムホワイトバランスを設定するまで有効です(デジタルカメラの電源を切ってもキャンセルされません)。
- いったん他のホワイトバランスに切り替えた後、再びカスタムホワイトバランスにするときは、以下の画面で右の十字キーで **呼び出し** を選んで、十字キー中央の実行ボタンを押してください。

- 設定時(上記の **3.**の操作の時)にフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが設定されます。実際の撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。
- 「カスタムWB設定エラー」のメッセージが表示されたときは、カスタムホワイトバランスは設定されていません。十字キー中央の実行ボタンを押してメッセージを消し、もう一度設定し直してください。

マニュアル撮影でのピント合わせ

ここでは、マニュアル撮影でのみ可能な、2つのピント合わせの方法（フォーカスエリアセレクト機能、マニュアルフォーカス）について説明します。

5つのフォーカスフレームの中からピントを合わせたい所を選ぶ（フォーカスエリアセレクト機能）

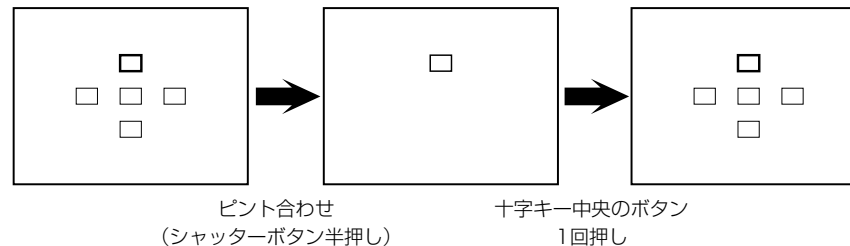
5つのローカルフォーカスフレームの中からピントを合わせたいフレームを選ぶことができます。ワイドフォーカスフレームよりも細かいピント合わせにご利用ください。

1. マニュアル撮影モード（メインスイッチ/モード切り替えダイヤル M 位置）で、十字キー中央のボタンを約1秒間押し続けます。

- ワイドフォーカスフレームから5つのローカルフォーカスフレームに切り替わります（下図）。
- （光学）ファインダーのフォーカスフレームは切り替わりません。

2. 上下左右の十字キーで、ピントを合わせたいローカルフォーカスフレームを選びます。

- 選ばれたフォーカスフレームは枠線がやや太く表示されます。

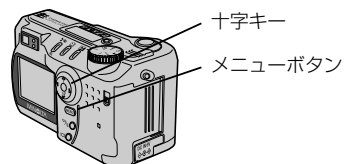
3. シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

- いったんシャッターボタン半押しでピント合わせを行うと、操作**2.**で選んだローカルフォーカスフレームのみ表示されます。十字キー中央のボタンを1回押すと、再び5つのローカルフォーカスフレーム表示となり、上下左右の十字キーでピントを合わせたいローカルフォーカスフレームを選べるようになります。

ピント合わせ（シャッターボタン半押し）　　十字キー中央のボタン1回押し

- ローカルフォーカスフレーム表示のときに、十字キー中央のボタンを約1秒間押し続けると、ワイドフォーカスフレームにもどります。
- デジタルズーム（→ P. 48）時には、フォーカスエリアセレクト機能は使用できません。逆に、フォーカスエリアセレクト機能で中央以外の4つのローカルフォーカスエリアのいずれかを選択していたときにデジタルズームにすると、中央のローカルフォーカスエリアのみ表示されます。
- 液晶モニター消灯時は、フォーカスエリアセレクト機能は使用できません。逆に、フォーカスエリアセレクト機能で5つのローカルフォーカスエリアのいずれかを選択していたときに液晶モニターを消灯させた場合は、再度液晶モニターを点灯させると、消灯時に選んでいたローカルフォーカスフレームが表示されます。

マニュアル撮影でのピント合わせ

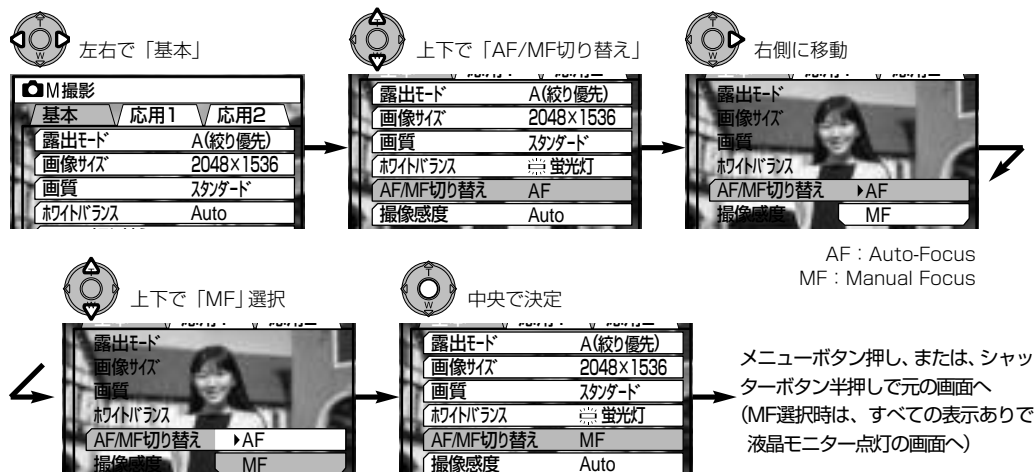
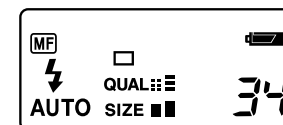
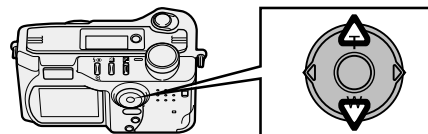
手動によるピント合わせ（マニュアルフォーカス）

オートフォーカスを使わずに、被写体までの距離を手動で設定することができます。初期設定はAFです。

1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

M撮影	
基本 / 応用1 / 応用2	
露出モード	P(プログラム)
画像サイズ	2048×1536
画質	スタンダード
ホワイトバランス	Auto
AF/MF切り替え	AF
撮像感度	Auto

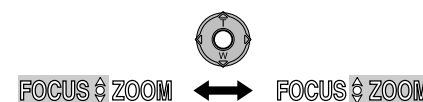
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

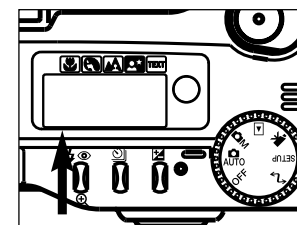
AF：Auto-Focus
MF：Manual Focus

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ
(MF選択時は、すべての表示ありで液晶モニター点灯の画面へ)

●マニュアルフォーカスを選んだときは、上面データパネルにMF表示が現れます。液晶モニター画面右下にはMFと現在のピント位置までの距離の目安が表示されます。距離に∞が表示されたときは無限遠を表します。

撮りたいものが液晶モニターにもっともはっきり見えるように、上下の十字キーで距離を設定します。

●液晶モニター画面の距離表示は目安の値です。フォーカスの確認は、液晶モニターの画像で行ってください（撮りたいものが液晶モニターにもっともはっきりと見えるように）。

●液晶モニター画面上部中央で、ZOOMの背後が青色で表示されているときは、上下の十字キーはレンズのズーム操作キーとなります。十字キー中央のボタンを押して、FOCUSの背後を青色で表示させてください。マニュアルフォーカスでは、十字キー中央のボタンを押すたびに、以下のように上下十字キーの機能が変わります。

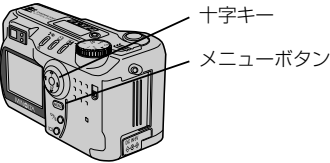
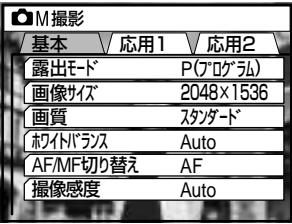
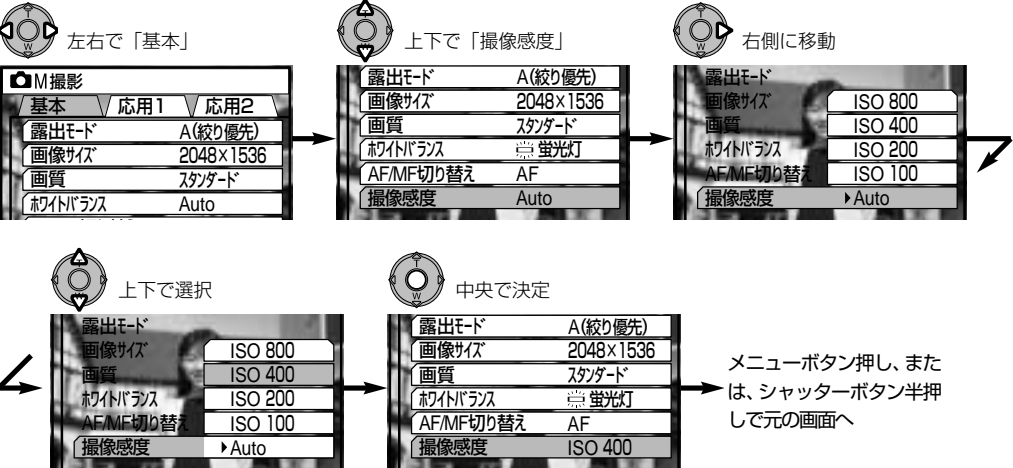
FOCUS ZOOM ⟷ FOCUS ZOOM

●液晶モニター画面に表示される距離はCCD（撮像素子）からの距離です。CCDから被写体までの距離は、右図の矢印の面から被写体までに距離に相当します。

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。初期設定であるAuto（オート）にすると、明るさや撮影状況などに応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときなどには、感度を上げると効果的ですが、画像が粗くなることがあります。

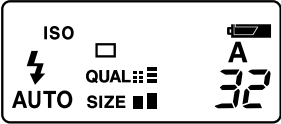
1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

M撮影	
基本 / 応用1 / 応用2	
露出モード	P(プログラム)
画像サイズ	2048×1536
画質	スタンダード
ホワイトバランス	Auto
AF/MF切り替え	AF
撮像感度	Auto

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

●感度は以下の範囲から選べます。
　オート（Auto）、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800

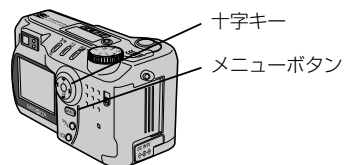
●オート（Auto）は、設定メニュー中には現れますが、撮影中の表示はありません。フラッシュが発光しない場合は、ISO 100〜400の範囲で自動的に設定されます。フラッシュ発光時にはISO 200、Mモード（→P.69）時にはISO 100で固定されます。

●オート（Auto）以外の撮像感度を選んだときは、上面データパネルに **ISO** 表示が、液晶モニター画面左下には**ISO**と選んだ値が表示されます。

撮像感度変更時のフラッシュ調光距離

撮像感度を変更すると、フラッシュ調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。

撮像感度	フラッシュ調光距離	
	広角側	望遠側
オート（Auto）	0.9〜3.5m	0.9〜3.0m
ISO 100	0.7〜2.4m	0.9〜2.1m
ISO 200	0.9〜3.5m	0.9〜3.0m
ISO 400	1.3〜4.9m	1.1〜4.3m
ISO 800	1.8〜7.0m	1.6〜6.0m

フルタイムAF

シャッターボタンを半押ししなくてもフォーカスフレーム内のものに常にピントを合わせ続ける「フルタイムAF」機能を使うか使わないかを選びます。初期設定は フルタイムAF なし です。

1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

M撮影
基本 / 応用1 / 応用2

露出モード	P(プログラム)
画像サイズ	2048×1536
画質	スタンダード
ホワイトバランス	Auto
AF/MF切り替え	AF
撮像感度	Auto

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

フルタイムAF あり

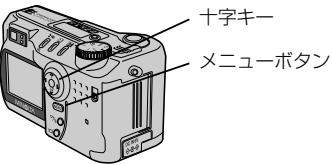
フォーカスフレーム内のものに常にピントを合わせ続けます（コンティニュアスAF）。ピントが合った状態で撮りたい写真の構図の確認がやりやすく、またシャッターボタンの半押しでピント合わせを始めるよりピント合わせを早くすることができます。

- ワイドフォーカスフレーム、ローカルフォーカスフレーム内のものに常に自動的にピント合わせが行われます。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが固定されます。
- ファインダーではフルタイムAFの効果は確認できません。
- 液晶モニターの表示を切り替えて「液晶モニター消灯」にすると（→ P. 36）、フルタイムAFは自動的にキャンセルされます。液晶モニター表示切り替えボタンを押して液晶モニターを再び点灯させると、フルタイムAFも再び動作し始めます。
- フルタイムAF ありにすると、フルタイムAF なしに比べ電池の寿命がやや短くなることがあります。
- ここでフルタイムAF ありに設定しても、AUTO撮影はフルタイムAF なし のままです。

フルタイムAF なし

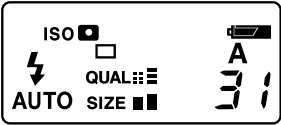
シャッターボタンの半押しでピント合わせを始めます。

測光モード

測光モードを、多分割測光とスポット測光とで切り替えることができます。

1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ(測光モード変更時は、すべての表示ありで液晶モニター点灯の画面へ)

●選んだ測光方式の絵記号が、液晶モニター画面左下に表示されます。またスポット(測光)を選んだ場合は、上面データパネルに ■ が現れます。

多分割

スポット

多分割(測光)

CCDを細かく分割して(256分割)測光を行います。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

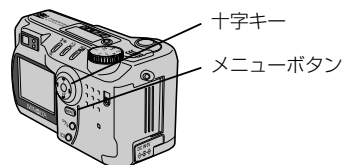
●多分割測光では、シャッターボタン半押しでピントが固定されると、同時に露出(シャッター速度と絞り値)も固定されます。

スポット(測光)

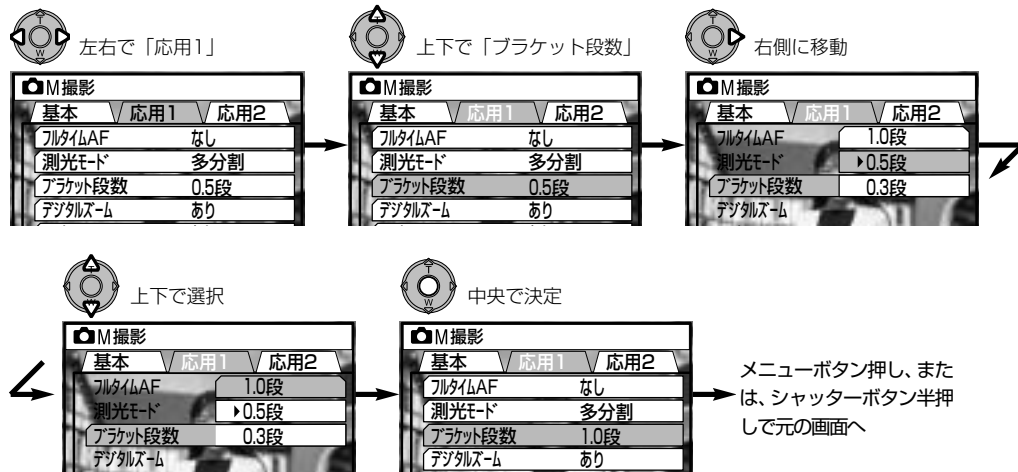
スポット測光にすると、画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光します。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。

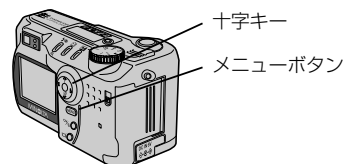
スポット測光サークル

ブラケット段数

ブラケット（露出ずらし）撮影（→ P. 62）時の露出のずらし量（ブラケット段数）を設定します。0.3段、0.5段、1.0段から選びます。初期設定は0.5段です。

1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

M撮影
基本 / 応用1 / 応用2
露出モード　P(プログラム)
画像サイズ　2048×1536
画質　スタンダード
ホワイトバランス　Auto
AF/MF切り替え　AF
撮像感度　Auto

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

カラーモード

カラーの画像を撮影するか、モノクロの画像を撮影するかを設定できます。
カラー　：カラー画像として記録されます。初期設定はカラーです。
モノクロ：白黒画像として記録されます。モノクロに設定しても画像ファイルサイズはカラーと同じです。

1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

M撮影
基本 / 応用1 / 応用2
露出モード　P(プログラム)
画像サイズ　2048×1536
画質　スタンダード
ホワイトバランス　Auto
AF/MF切り替え　AF
撮像感度　Auto

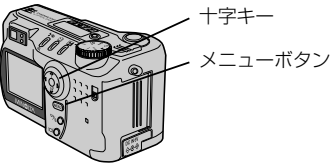
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

シャープネス（デジタルエフェクトコントロール）

撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。

●画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコン等で加工するのと比べるとより画質の劣化を押さえることができます。3段階の調整が可能です。

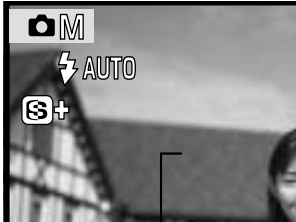
1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

M撮影	
基本 / 応用1 / 応用2	
露出モード	P(プログラム)
画像サイズ	2048×1536
画質	スタンダード
ホワイトバランス	Auto
AF/MF切り替え	AF
撮像感度	Auto

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

以下の3段階の補正から選択します。

ハード（＋）：輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準：　標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
ソフト（−）：輪郭のやわらかな画像になります。

●標準以外に設定すると、液晶モニター画面左上に Ⓢ と＋（ハード設定時）、または、−（ソフト設定時）が表示されます。

コントラスト(デジタルエフェクトコントロール)

撮影する画像のコントラスト(明暗差)を調整することができます。

●画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコン等で加工するのと比べるとより画質の劣化を押さえることができます。3段階の調整が可能です。

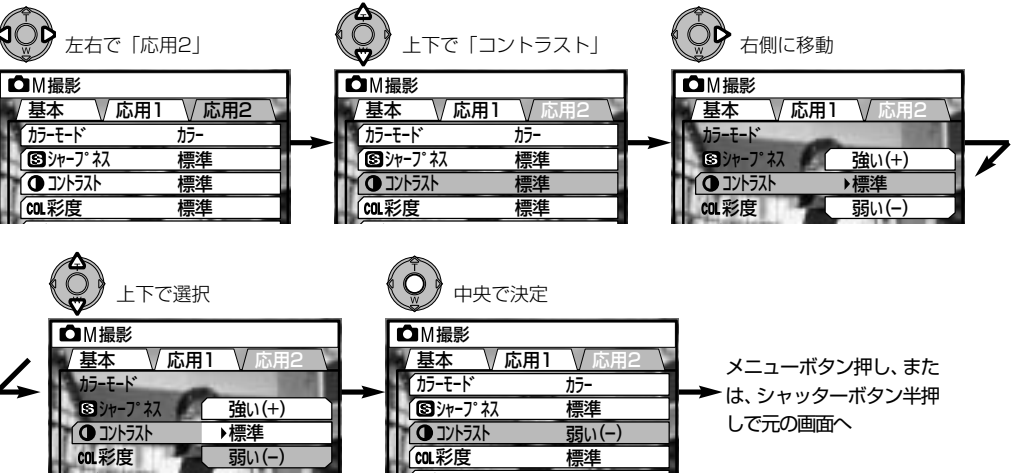
1. マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

M撮影	
基本 / 応用1 / 応用2	
露出モード	P(プログラム)
画像サイズ	2048×1536
画質	スタンダード
ホワイトバランス	Auto
AF/MF切り替え	AF
撮像感度	Auto

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

左右で「応用2」

右側に移動

メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

以下の3段階の補正から選択します。

強い（＋）： コントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりとした画像になります。

標準： 標準的なコントラストの画像になります。初期設定は標準です。

弱い（−）： コントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

コントラスト強

コントラスト弱

●標準以外に設定すると、液晶モニター画面左上に ◐ と＋(強い設定時)、または、−(弱い設定時) が表示されます。

彩度（デジタルエフェクトコントロール）

撮影する画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整することができます。

●画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコン等で加工するのと比べるとより画質の劣化を押さえることができます。3段階の調整が可能です。

1.マニュアル撮影モードで、メニューボタンを押します。

M撮影

基本	応用1	応用2

露出モード	P(プログラム)
画像サイズ	2048×1536
画質	スタンダード
ホワイトバランス	Auto
AF/MF切り替え	AF
撮像感度	Auto

2.十字キーで希望の設定を選びます。

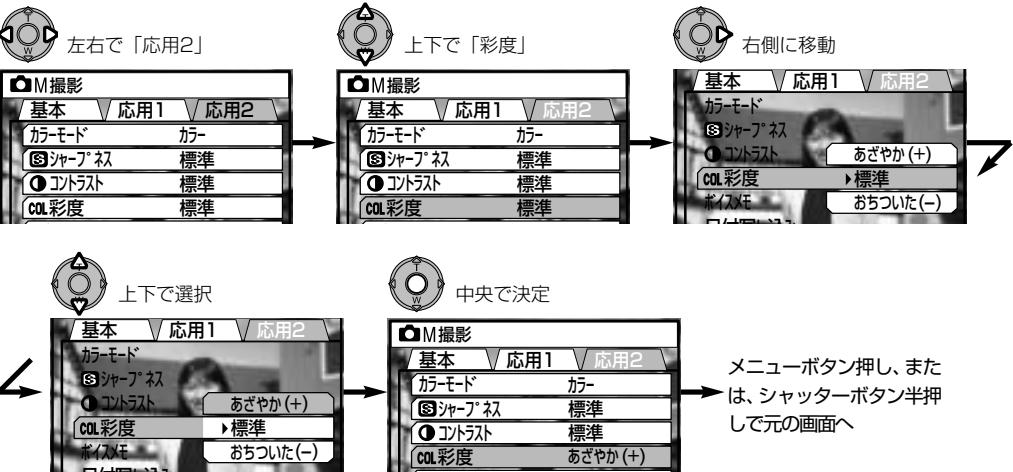
左右で「応用2」

上下で「彩度」

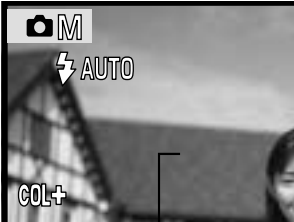
右側に移動

上下で選択

中央で決定

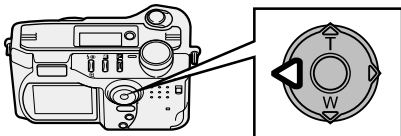
メニューボタン押し、または、シャッターボタン半押しで元の画面へ

以下の3段階の補正から選択します。

あざやか（＋）：　彩度が強くなります。色鮮やかでくっきりとした画像になります。
標準：　標準的な彩度の画像になります。初期設定は標準です。
おちついた（−）：彩度が弱くなります。落ち着いた画像になります。

●標準以外に設定すると、液晶モニター画面左にCOLと＋（あざやか設定時）、または、−（おちついた設定時）が表示されます。

バルブ(長時間露光)撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります(最長15秒)。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。

※ドライブモード(→P.58)が「1コマ撮影」の場合のみ設定できます。他のドライブモードでは bulb は選べません。

1. マニュアル撮影モード(メインスイッチ/モード切り替えダイヤル 📷M 位置)で、露出モードをM(マニュアル)モードにします。→ P.67

2. 左の十字キーを押して、液晶モニター画面左下のシャッター速度が表示されている箇所に bulb を表示させます。

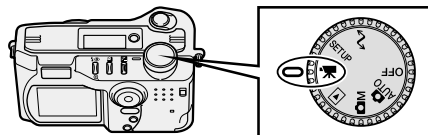
- 4"(4秒)の次に左の十字キーを押すと、bulb(バルブ撮影)が表示されます。
- シャッター速度が青色で表示されていない(左に ◆ が表示されていない)ときは、露出補正ボタンを押して、シャッター速度を青色で表示させて(左に ◆ を表示させて)ください。

3. 露出補正ボタンを押して絞り値を青色表示させ、左右の十字キーで希望の絞り値を選びます。

4. 必要な時間シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 高感度域で長時間露光する場合は、画面内のノイズが一部強調されることがあります。
- 15秒経過すると、シャッターボタンを押し続けていてもバルブ(長時間露光)撮影は終了します。

動画撮影

連続最長60秒までの動画撮影を行うことができます。
被写体によっては、撮影時間が60秒より短くなることがあります。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 🎥 に合わせます。

- 液晶モニター画面右下と上面データパネルに、撮影可能な残り秒数が表示されます。

60s

2. シャッターボタンを押して動画撮影を開始します。

- 撮影中は、液晶モニター画面右下の残り秒数の上に ● Rec が表示され、液晶モニター右下/上面データパネルの残り秒数が減っていきます。

3. 動画撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

- 液晶モニター右下/上面データパネルの残り秒数が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

(次ページに続く ☞)

動画撮影

動画撮影では、設定できる機能に制限があります。以下の機能は、カメラを動画モードにした後でも、実際に動画を撮影する前なら設定可能です。

- ●上下十字キーによるズーム
- ●露出補正
- ●マクロ（デジタル撮影シーンセレクター）

以下の機能は、動画撮影時は設定が固定されます。変更はできません。

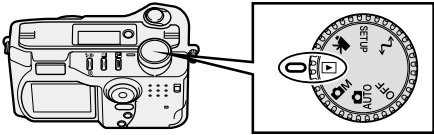
●画像サイズ	：	QVGA（320×240）
●形式	：	Motion-JPEG（AVI）
●フォーカスモード（AF/MF）	：	オートフォーカス（ただし、動画撮影中はオートフォーカスは働かない）
●露出モード	：	P（プログラム）モード
●ホワイトバランス	：	オート（Auto）
●撮像感度	：	オート（Auto）
●フォーカスエリア	：	ワイドフォーカスフレーム
●フラッシュモード	：	発光禁止

以下の機能は、動画撮影中には使用できません。

- ●デジタル撮影シーンセレクター（マクロを除く）
- ●メニュー設定
- ●デジタルズーム
- ●ドライブモードの変更
- ●フラッシュモードの変更

●動画のファイルサイズは、1秒あたり約233KBです。付属の8MBのCFカードには、合計約35秒間記録することができます。
●ピント位置とズーム位置は動画撮影開始時の位置で固定されます。
●同時に音声も記録されます。音声の記録だけをキャンセルすることはできません。

●別売アクセサリーの「IRリモコン RC-3」（→P.60）を使えば、カメラから離れた位置から動画撮影の開始/停止が行えます。リモコンの撮影ボタンを押すと直ちに、2秒後撮影ボタンを押すと約2秒後に、動画撮影が開始されます。停止するときはどちらのボタンを押しても直ちに動画撮影が停止します。
●リモコンで動画撮影を開始したときは、撮影中セルフタイマー/リモコン作動表示ランプが点灯します。

撮った画像を見たり消去したりできます 再生編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが ▶ 位置にあるときの各種設定について説明しています。

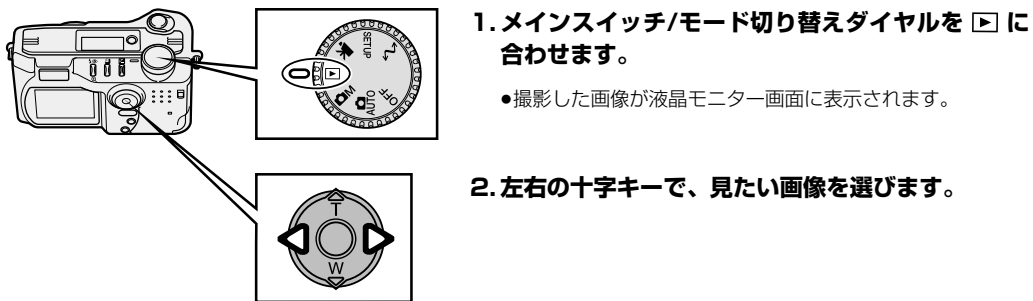
メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを ▶ 位置にしていると、液晶モニター画面左上に ▶ が現れます。

上面データパネルには、PLyの文字が現れます。

1コマ再生

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを ▶ に合わせます。

●撮影した画像が液晶モニター画面に表示されます。

2. 左右の十字キーで、見たい画像を選びます。

●十字キーを押し続けると、画像が早送りされます。
●最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最も古い画像にもどります。逆も同様です。
●動画の場合は、動画開始時の画像が静止画として現れます。

※ボイスメモで音声を付けた画像を表示させたときは、液晶モニター画面下部中央に 🎙 が現れます。十字キー中央のボタンを押すと、記録した音声がデジタルカメラのスピーカーから再生されます。

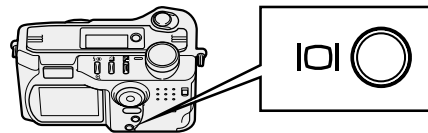
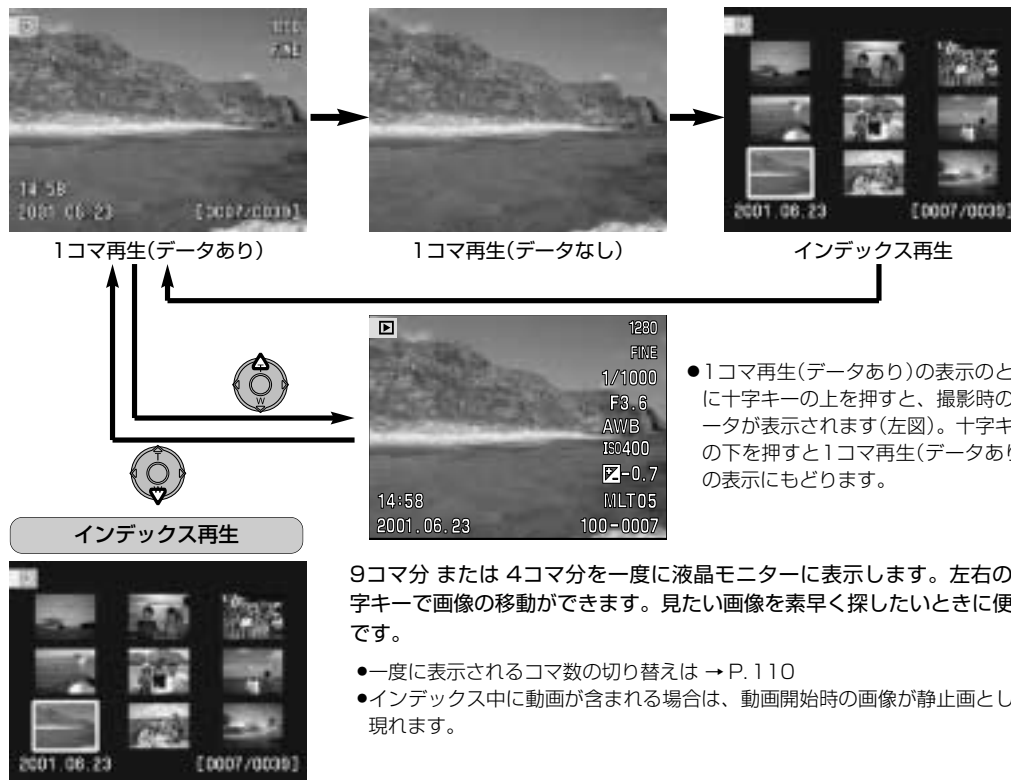
液晶モニター表示の切り替え

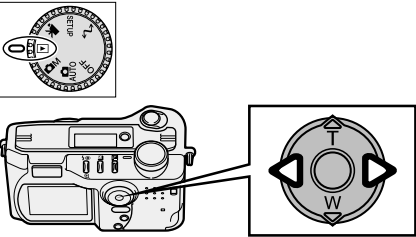
液晶モニター表示切り替えボタンを押します。

●ボタンを押すごとに、液晶モニターの表示が以下の順序で切り替わります。

●1コマ再生(データあり)の表示のときに十字キーの上を押すと、撮影時のデータが表示されます(左図)。十字キーの下を押すと1コマ再生(データあり)の表示にもどります。

インデックス再生

9コマ分 または 4コマ分を一度に液晶モニターに表示します。左右の十字キーで画像の移動ができます。見たい画像を素早く探したいときに便利です。

●一度に表示されるコマ数の切り替えは →P.110
●インデックス中に動画が含まれる場合は、動画開始時の画像が静止画として現れます。

動画再生

撮影した動画を再生します。

1. 再生モード（メインスイッチ/モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、左右の十字キーで再生したい動画を選びます。

●動画開始時の画像が静止画として現れます。

2. 十字キー中央の実行ボタンを押して、動画再生を開始します。

●液晶モニター画面右上の数値は経過秒数です。

3. 動画再生を終えるときは、十字キーの下を押します。

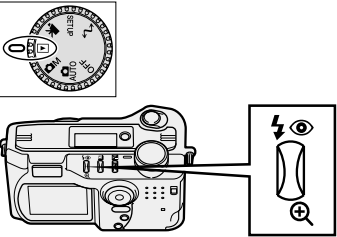
●動画再生開始前の状態にもどります。
●十字キーの下ではなく中央の実行ボタンを押すと、動画再生の一時停止・再スタートを繰り返します。

●動画の画像サイズはQVGA（320×240ピクセル）ですが、実際に記録される範囲は304×240ピクセルです。
●動画再生中は、左右の十字キーでコマを切り替えることはできません。
●撮影時に音声も記録していた場合は、音声付き動画が再生されます。

拡大再生

画像の一部を拡大して再生できます。

再生モード（メインスイッチ/モード切り替えダイヤル ▶ 位置）で、拡大再生ボタンを押します。

●拡大再生ボタンを押すたびに、左の表の通り拡大率が変化します。撮影時の画像サイズによって拡大率は異なります。
●スーパーファイン（TIFF）画像、および動画は拡大再生できません。

画像サイズ	拡大率
2048×1536	2倍/2.5倍/3.2倍
1600×1200	
1280×960	
640×640	2倍

拡大再生中に十字キーを押すと、表示されるエリアを移動させることができます。

画像をテレビに映して見る

付属のAVケーブル AVC-100 でデジタルカメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビに映して見ることができます。

1. テレビとデジタルカメラの電源を切ります。

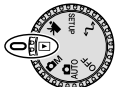
2. デジタルカメラ側面のカードスロットふたを開け、AVケーブルのミニプラグ側をAV出力端子に差し込みます（左図）。

●デジタルカメラ背面の液晶モニターは自動的に消灯します。

3. AVケーブルのもう一方のうち、黄色の方をテレビのビデオ入力端子に差し込みます。白色の方をモノラルの音声入力端子に差し込みます。

4. テレビの電源を入れ、テレビの [テレビ/ビデオ切替] などで、ビデオ/音声入力端子からの入力に切り替えます。

●詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

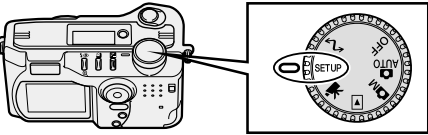
5. デジタルカメラのメンスイッチ/モード切り替えダイヤルを ▶ に合わせます。

●上記の操作で、カメラの液晶モニターに現れる画像が、そのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に表示の切り替え等行うことができます。

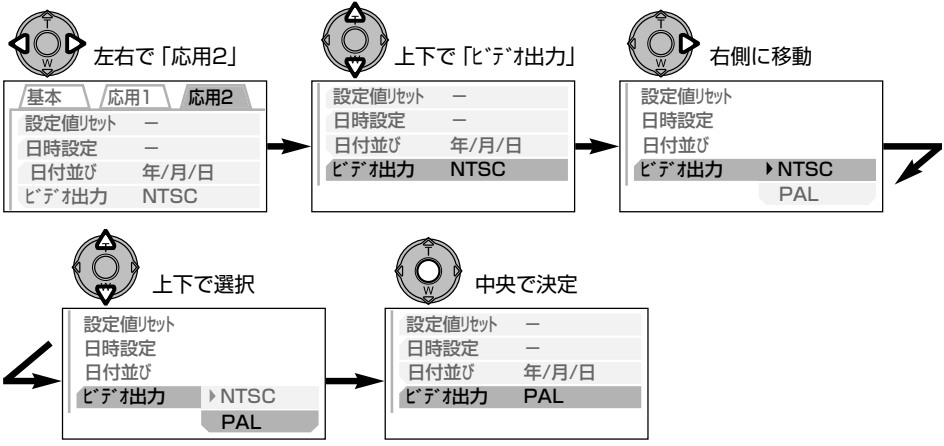
●ボイスメモで音声を付けた画像を表示させたときは（テレビ画面下部中央に が現れます）、十字キー中央のボタンを押すと、記録した音声がテレビ（のスピーカー）から再生されます。動画を再生したときは、動画撮影時に記録された音声がテレビ（のスピーカー）から再生されます。

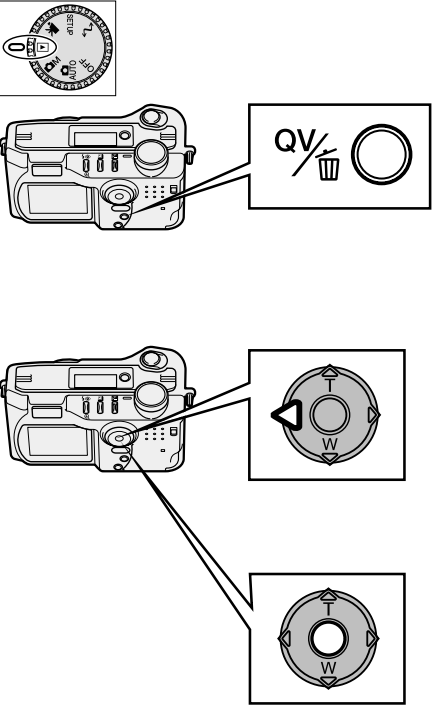
●ボイスメモで付けた音声 および 動画撮影時に記録された音声は、デジタルカメラ本体のスピーカーからも同様に再生されます。

●上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→ 次ページ

ビデオ出力形式の切り替え

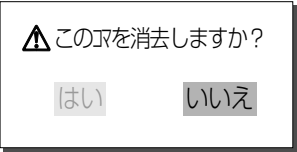
ビデオの信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ、韓国等ではNTSC方式、ヨーロッパの多くの国々やオーストラリア、中国等ではPAL方式が採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

1. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをSETUPに合わせます。

2. 十字キーで、希望の設定を選びます。

画像を手早く消去する

再生モード位置で、画像を簡単に消去することができます。

1. 再生モードで、クイックビュー/消去ボタンを押します。

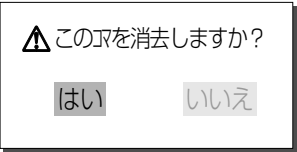
●以下の画面が現れます。

⚠このコマを消去しますか？

はい　いいえ

●消去したくない場合は、上記の状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

2. 左の十字キーで「はい」を選びます。

⚠このコマを消去しますか？

はい　いいえ

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

●選んだ画像が消去され、再生モードにもどります。

※複数の画像をまとめて消去するときは → P. 106

再生モード時のメニュー画面

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが ▶ 位置（再生モード）にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

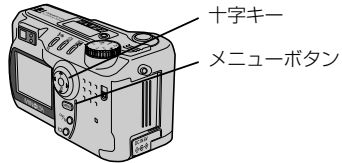
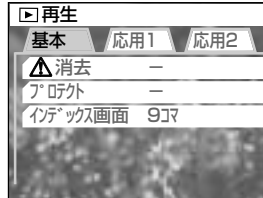
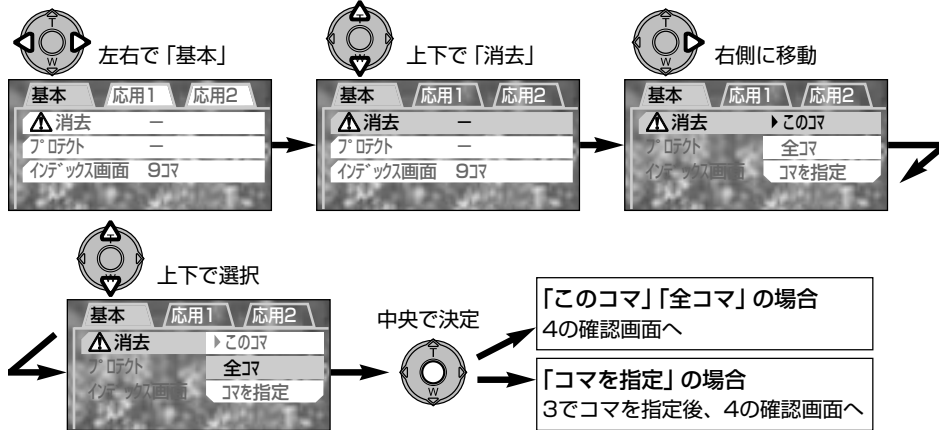
タブ	項目	設定
基本	消去 →P.106	○このコマ、全コマ、コマを指定
	プロテクト →P.108	○このコマ、全コマ、コマを指定、全コマ取り消し
	インデックス画面 →P.110	○9コマ、4コマ
応用1	スライドショー →P.111	実行する
	（スライドショー）再生画像 →P.112	○全コマ、コマを指定
	（スライドショー）間隔 →P.112	1〜4秒、○5秒、6〜60秒
	（スライドショー）繰り返し →P.112	○しない、する
応用2	プリント指定 →P.114	○このコマ、全コマ、コマを指定
	（プリント指定）インデックスプリント →P.117	○しない、する
	（プリント指定）取り消し →P.118	○フォルダ内全コマ、カード内全コマ
	画像コピー →P.119	○このコマ、コマを指定

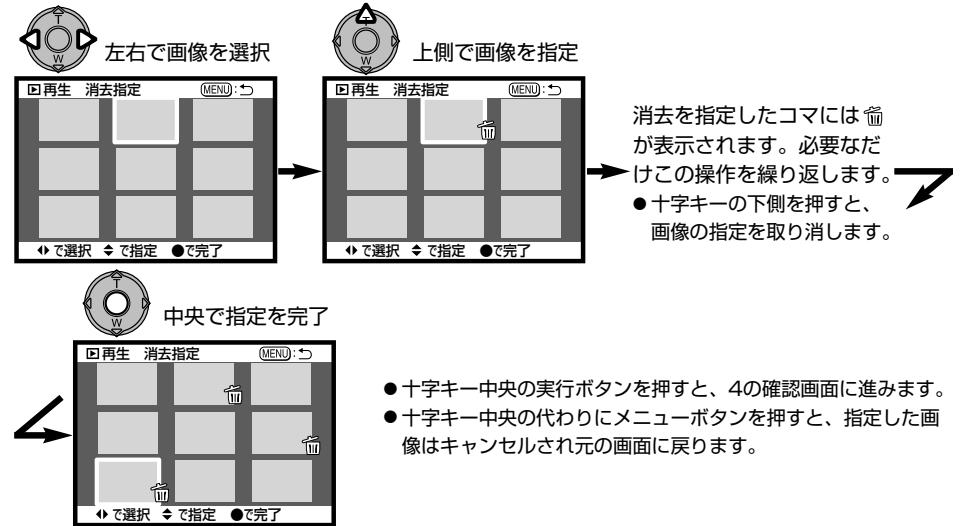
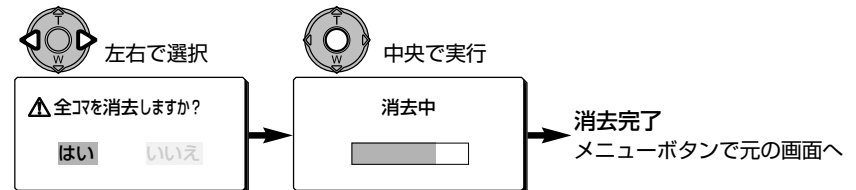
○印は初期設定値です。

画像の消去

画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。

1コマ消去（このコマ）：再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ消去：　フォルダの画像すべてを消去します。
コマを指定：　指定した画像だけを消去します。
※1コマずつ手早く消去する方法もあります。撮影モードでは →P. 34、再生モードでは →P. 104

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

3.「コマを指定」の場合、十字キーで消去するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、4の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

4. 確認後、消去します。（下図は全コマ消去の場合）

- 「プロテクトされています」のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止、→次ページ）されています。該当する画像は消去できません。

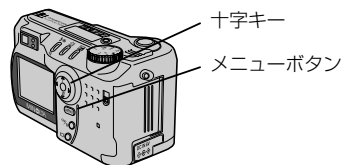
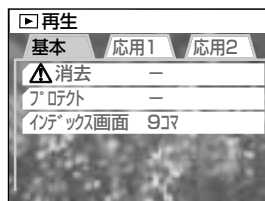
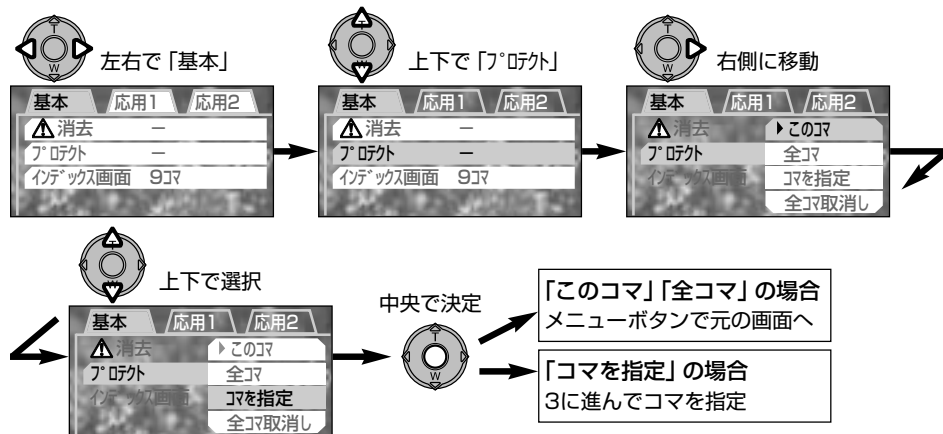
プロテクト（誤消去防止）

撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の4通りのプロテクト方法があります。

1コマプロテクト（このコマ）：再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。
1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。
全コマプロテクト：　フォルダ内の画像すべてにプロテクトをかけます。
プロテクトするコマを指定：　指定した画像だけにプロテクトをかけます。
全コマプロテクト取り消し：　フォルダ内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

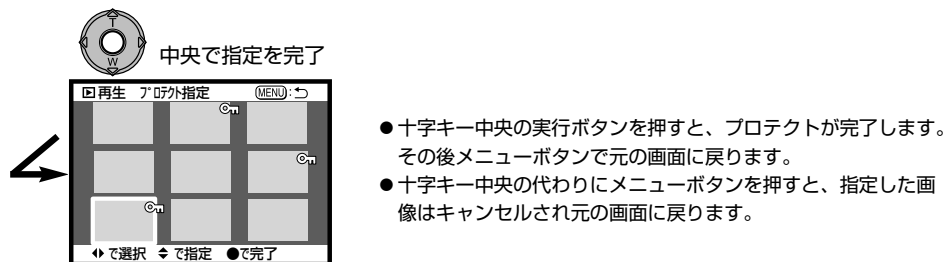
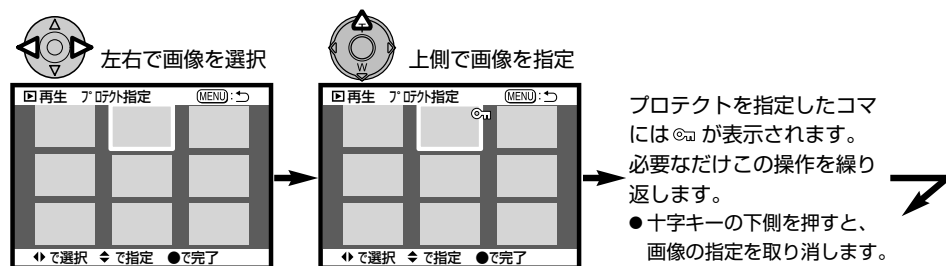
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

「このコマ」「全コマ」の場合
メニューボタンで元の画面へ

「コマを指定」の場合
3に進んでコマを指定

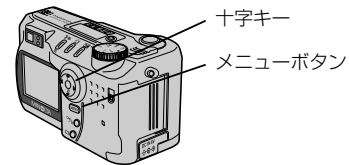
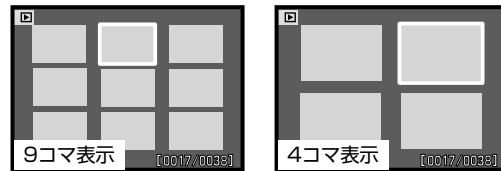
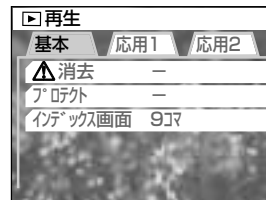
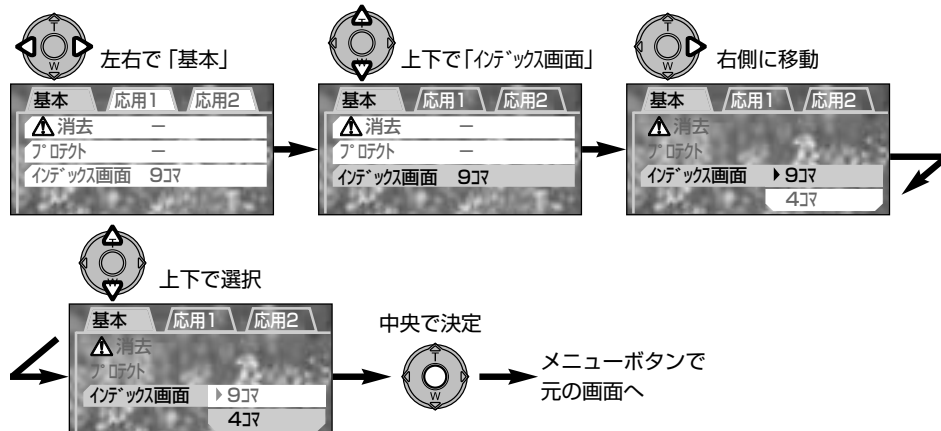
3.「コマを指定」の場合、十字キーでプロテクトをかける（または解除する）コマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

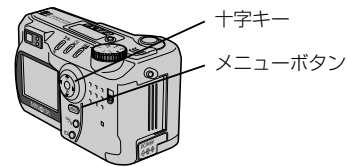
プロテクトを指定したコマには 🔑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

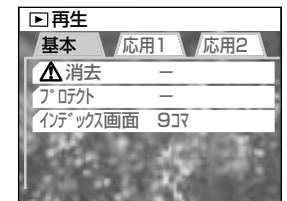
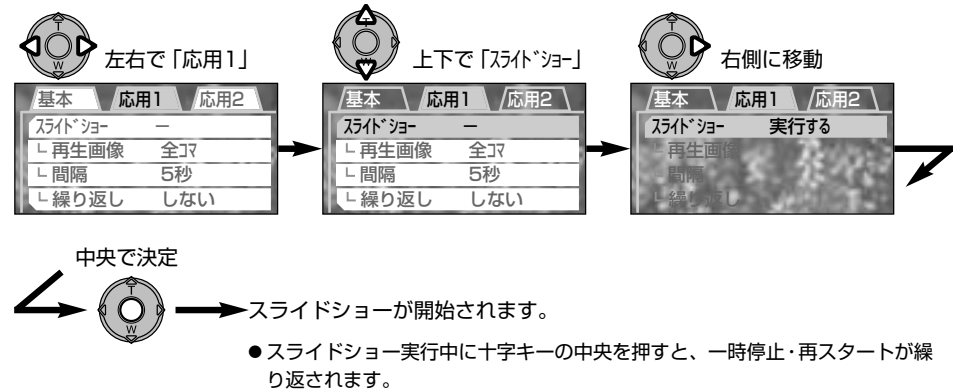
- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

- 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニター画面に 🔑 が表示されます。

インデックス画面の切り替え

インデックス画面を、9コマ表示または4コマ表示に設定することができます。初期設定は9コマ表示です。

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

スライドショー（画像の自動再生）

カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、カード内のすべての画像が最初から順に5秒ずつ表示されます。

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーでスライドショーを開始させます。

● スライドショー実行中に十字キーの中央を押すと、一時停止・再スタートが繰り返されます。

3. スライドショーを終えるときは、十字キーの下側を押します。

● その後メニューボタンを押すと、元の再生モードに戻ります。

● 動画はスライドショーでは再生されません。

スライドショーの設定変更

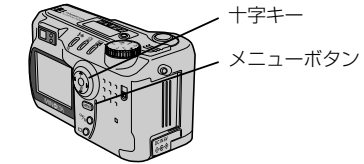
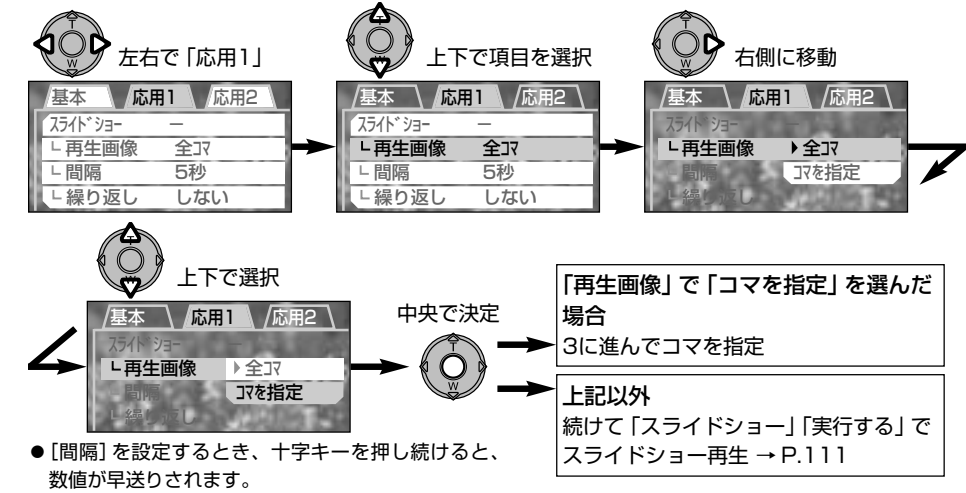
スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。

再生画像：　全コマを再生する／再生するコマを指定する
間隔（画像表示時間）：1秒～60秒の範囲内で、1秒ごと
繰り返し：　する／しない

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

「再生画像」で「コマを指定」を選んだ場合
3に進んでコマを指定

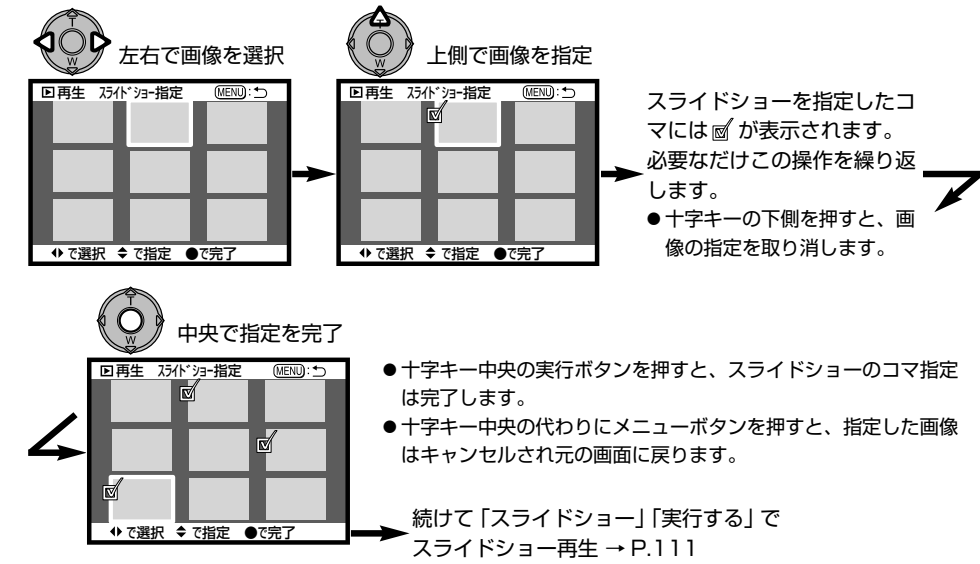
上記以外
続けて「スライドショー」「実行する」でスライドショー再生 →P.111

● [間隔] を設定するとき、十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

3.「コマを指定」の場合、十字キーでスライドショー再生するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

スライドショーを指定したコマには が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定は完了します。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

続けて「スライドショー」「実行する」でスライドショー再生 →P.111

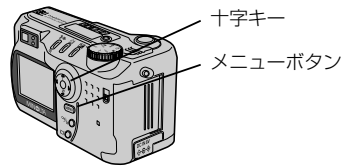
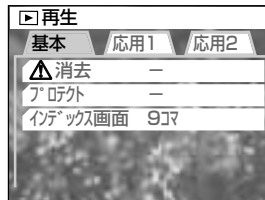
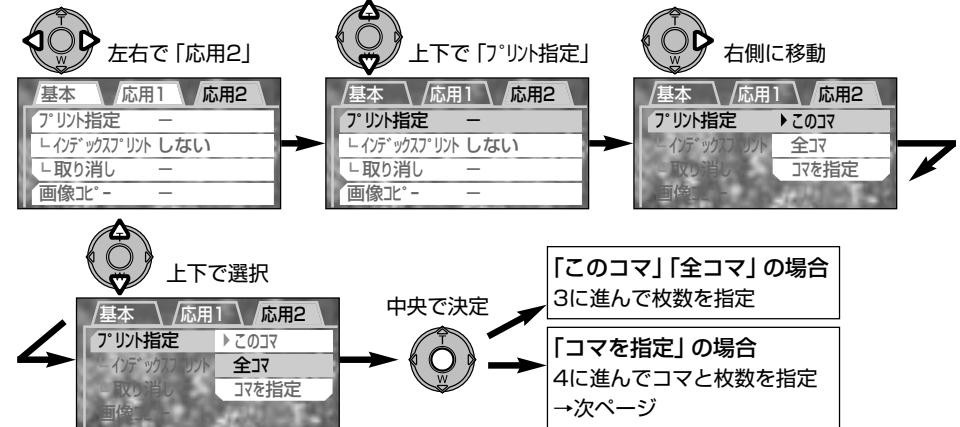
● 動画を指定することはできません。

プリント指定

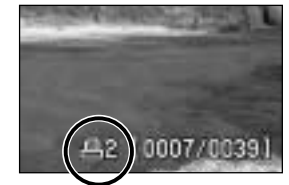
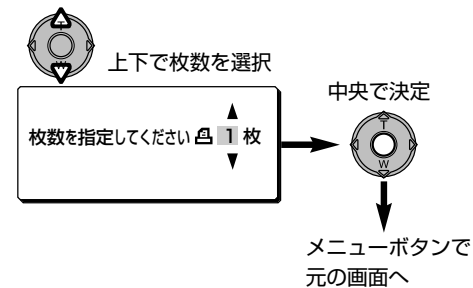
このカメラでプリント指定したコンパクトフラッシュ（CF）カードを、DPOF*対応のプリント店に渡せば、画像のプリントをしてもらうことができます。どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。
同様に、DPOF対応のプリンタにCFカードをセットすると、パソコンを介さずに直接画像をプリントすることができます。この場合も、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。

*DPOF＝ディーポフ、Ditigal Print Order Formatの略。CFカード等のメディアに入っているデータのうち、どれを印刷するのかを指定する方法。

プリント指定

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。
1コマプリント（このコマ）：再生中の画像を1コマだけプリントします。
全コマプリント：　フォルダ内の画像すべてをプリントします。
コマを指定：　指定した画像だけをプリントします。

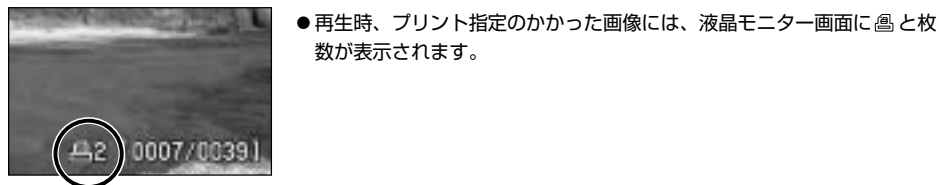
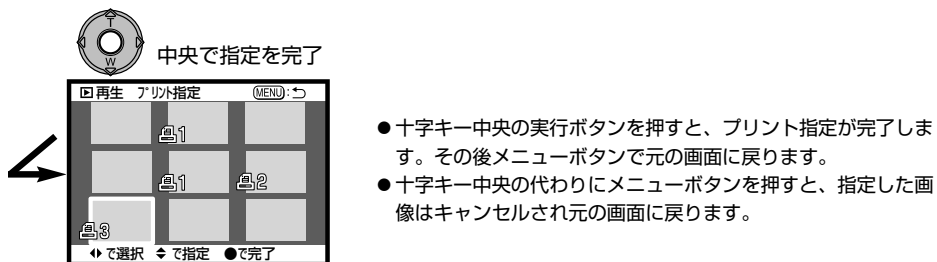
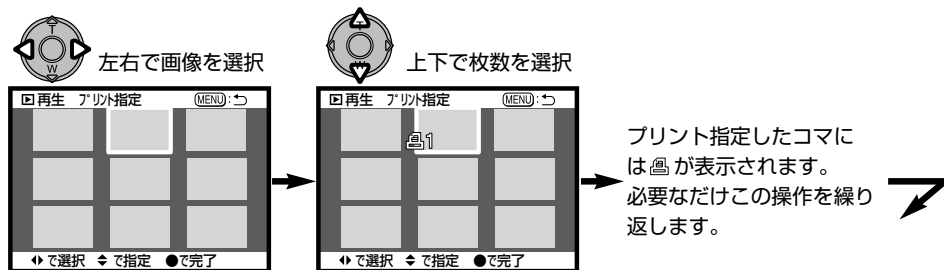
● 動画はプリント指定できません。

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

3.「このコマ」「全コマ」の場合、十字キーで希望の枚数を選んで実行します。

● 1コマ（このコマ）プリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0～9枚）。
● 全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0～9枚）。

● 再生時、プリント指定された画像には、液晶モニター画面に🖶と枚数が表示されます。

4.「コマを指定」の場合、十字キーでプリントするコマを指定して枚数を選び、中央の実行ボタンで実行します。

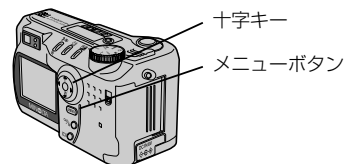
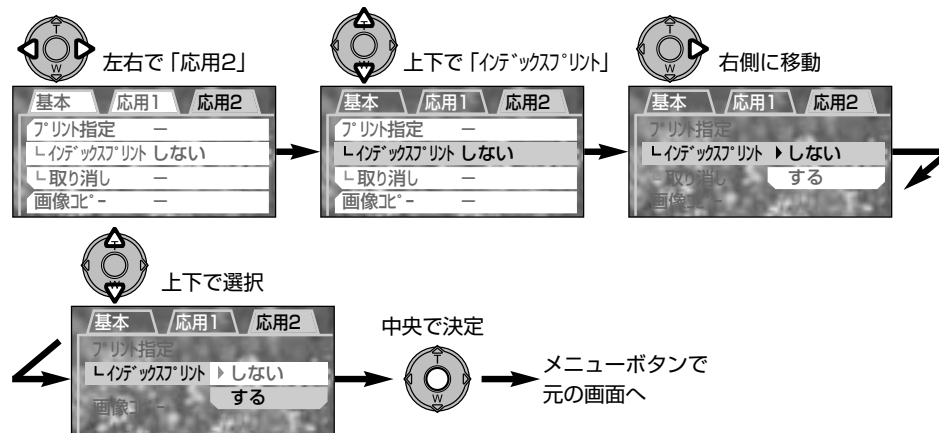
● コマ指定プリントの場合、各コマごとに希望のプリント枚数を選ぶことができます（0～9枚）。

プリント指定したコマには が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プリント指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

● 再生時、プリント指定のかかった画像には、液晶モニター画面に と枚数が表示されます。

インデックスプリント

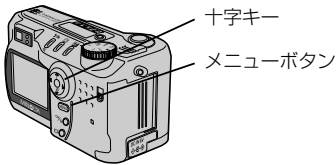
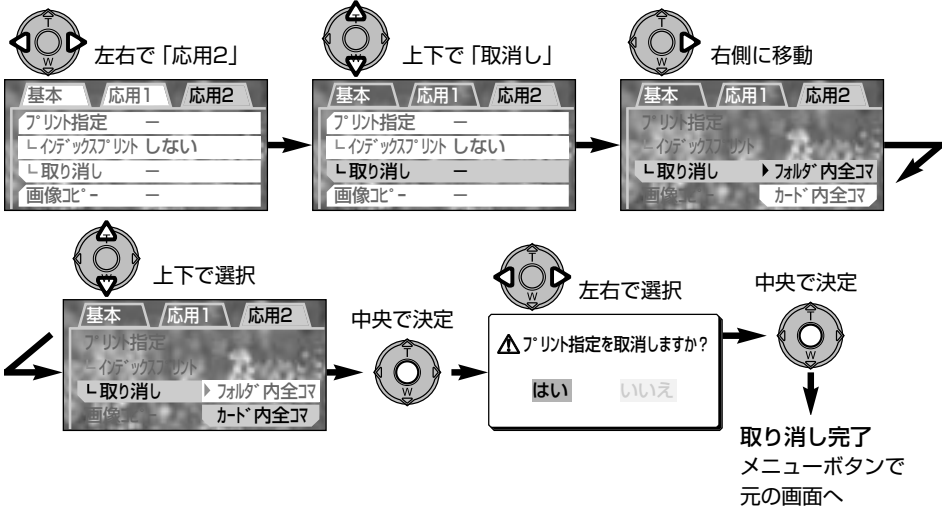
フォルダに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの有無を指定することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

● 1枚のプリントに印刷される画像の数は、プリンタによって異なります。

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

プリント指定

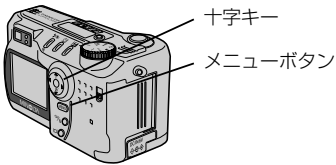
プリント指定の取り消し

114～117ページで指定したプリント指定をすべて取り消すことができます。インデックスプリントも取り消されます。

カード内全コマ：　コンパクトフラッシュカード内のすべての画像のプリント指定を取り消します。
フォルダ内全コマ：フォルダ内のすべての画像のプリント指定を取り消します。
※カードとフォルダの関係については →P. 129

1. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

画像のコピー

あるCFカードに記録された画像を、別のCFカードにコピーすることができます。

1コマコピー（このコマ）：　再生中の画像を1コマだけコピーします。
コマを指定：　指定した画像だけをコピーします。

1. コピーする画像が入ったコンパクトフラッシュカードをカメラに入れます。

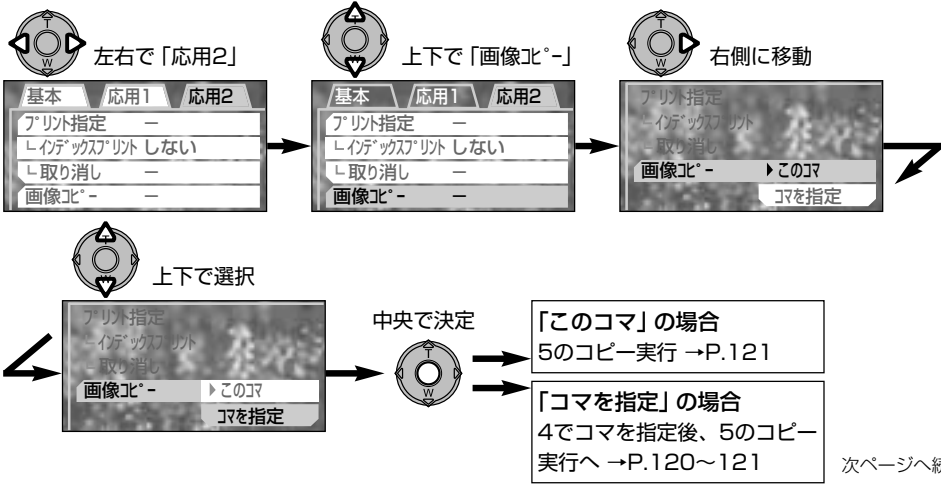
2. 再生モード位置で、メニューボタンを押します。

3. 十字キーで希望の設定をを選びます。

「このコマ」の場合
5のコピー実行 →P.121

「コマを指定」の場合
4でコマを指定後、5のコピー実行へ →P.120～121

次ページへ続く

画像のコピー

4.「コマを指定」の場合、十字キーでコピーするコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

コピーを指定したコマには が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

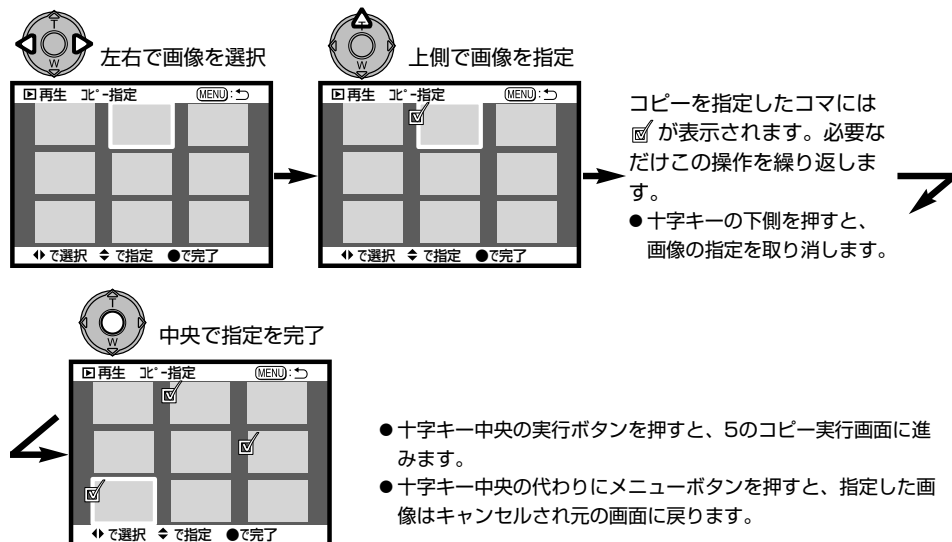
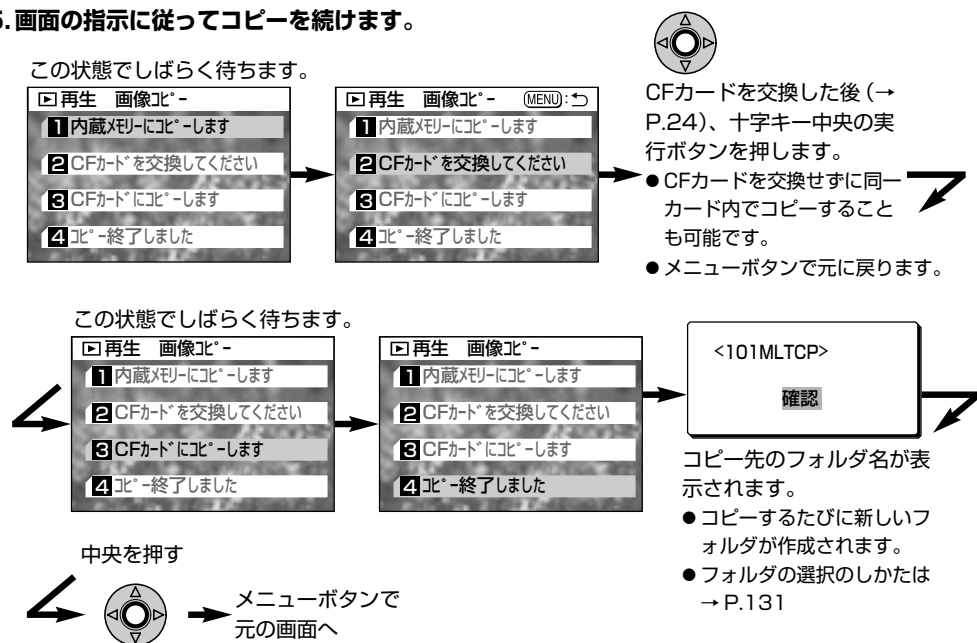
- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、5のコピー実行画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

5.画面の指示に従ってコピーを続けます。

CFカードを交換した後（→P.24）、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- CFカードを交換せずに同一カード内でコピーすることも可能です。
- メニューボタンで元に戻ります。

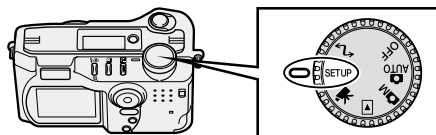
コピー先のフォルダ名が表示されます。

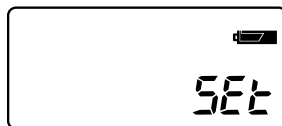
- コピーするたびに新しいフォルダが作成されます。
- フォルダの選択のしかたは→P.131

「画像が多すぎます。」というメッセージが現れた場合

指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリーにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。（内蔵メモリーには約8MBコピーできます。）

「ｻｲｽﾞが大きすぎます。」というメッセージが現れた場合

指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリーからCFカードにすべての画像をコピーすることはできませんでした。（一部コピーされた場合もあります）

カメラの細かな設定を変更できます セットアップ編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが **SETUP**位置にあるときの各種設定について説明しています。

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを **SETUP**位置にしていると、液晶モニター画面左上にSETUPが現れます。

上面データパネルには、SEtの文字が現れます。

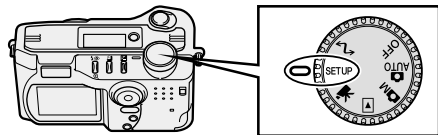
セットアップモード時の設定

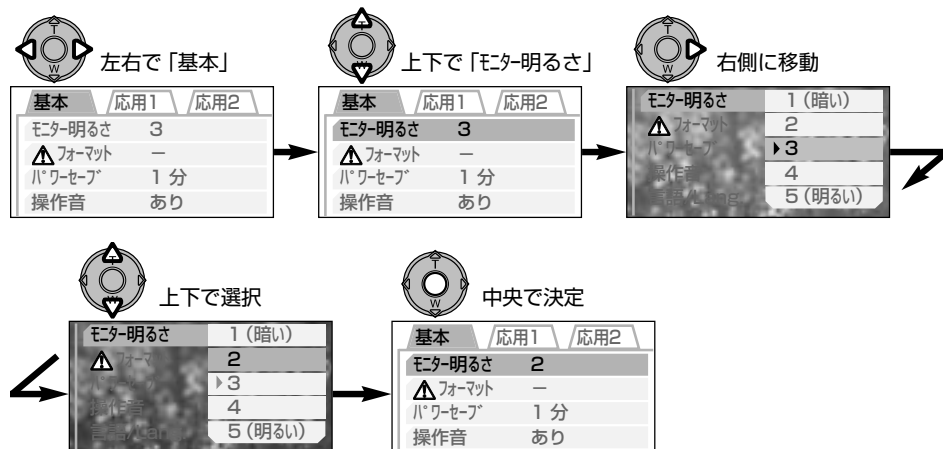
メインスイッチ/モード切り替えダイヤルがSETUP位置（セットアップモード）にあるときは、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

タブ	項目	設定
基本	モニター明るさ →P.124	1、2、○3、4、5
	フォーマット（初期化）→P.125	実行する
	パワーセーブ →P.126	○1分、3分、5分、10分
	操作音 →P.127	○あり、なし、あり：シャッター音
	言語 →P.128	○日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語
応用1	ファイルNo.メモリ →P.132	○しない、する
	フォルダ選択 →P.131	○100MLT05
応用2	設定値リセット →P.133	実行する
	日時設定 →P.136	実行する
	日付並び →P.137	○年月日、月日年、日月年
	ビデオ出力 →P.103	○NTSC、PAL

○印は初期設定値です。

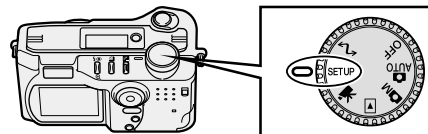
液晶モニターの明るさ調整

液晶モニターの明るさを調整することができます。

1. セットアップモード位置にします。

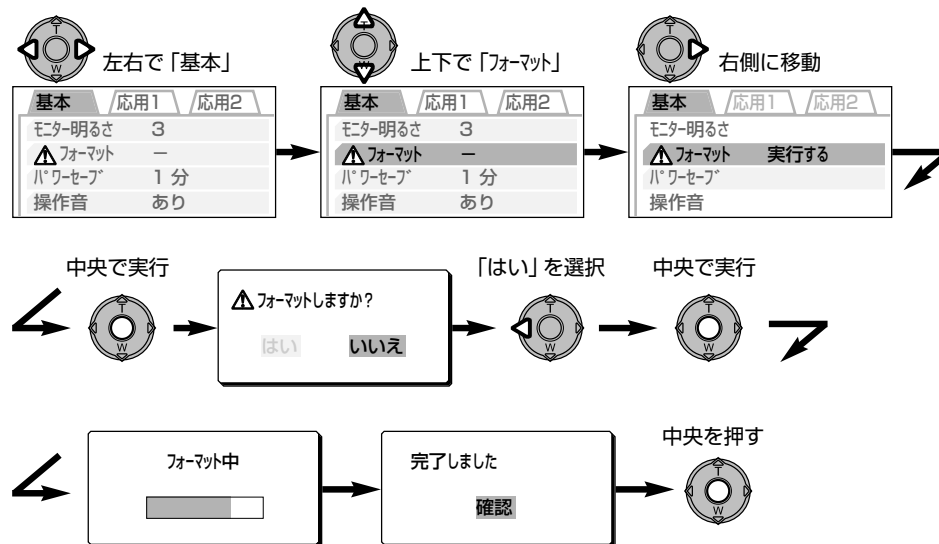
2. 十字キーで希望の設定を選びます。

● 明るさは、1～5の5段階から選択することができます。初期設定は3です。

コンパクトフラッシュカードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、コンパクトフラッシュカード（CFカード、以下カード）のフォーマットが便利です。フォーマットにより、カードはご購入時の状態に戻ります。

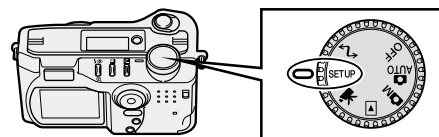
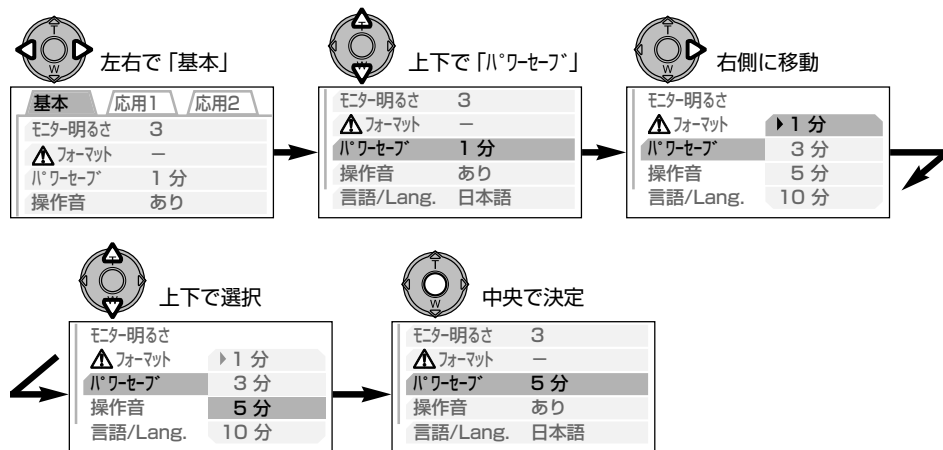
フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

1. フォーマットするカードをカメラに入れます。

2. セットアップモード位置にします。

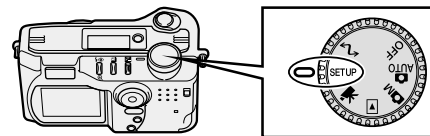
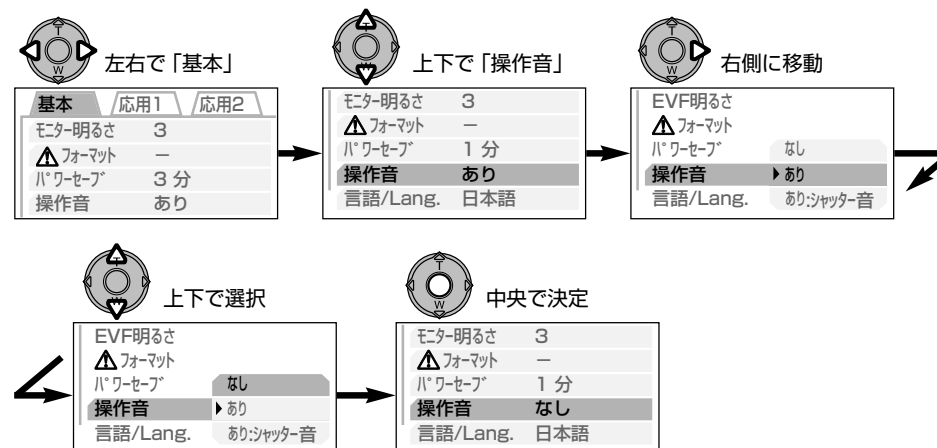
3. 十字キーでフォーマット操作を行います。

● フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はカードを抜かないでください。

パワーセーブまでの時間変更

このカメラは、初期設定では約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、上面データパネルが消灯します（パワーセーブ →P.23）。このパワーセーブまでの時間を、1分、3分、5分、10分のいずれかに変更することができます。

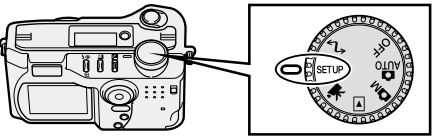
● 液晶モニターは約30秒間何も操作をしなければ消灯します。この時間の変更はできません。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

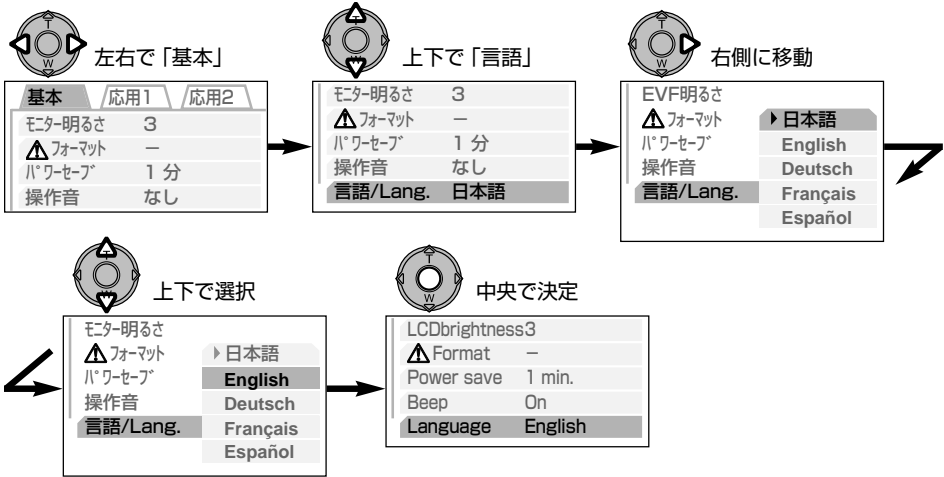
操作音の設定

ボタンを押す等カメラを操作すると、操作音が出ます。以下の手順で［なし］を選ぶと、その音が出ないようになります。［あり:シャッター音］を選ぶと、操作音に加えてシャッターボタンを押したときに「カシャッ」という音が出るようにできます。初期設定は操作音［あり］になっています。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

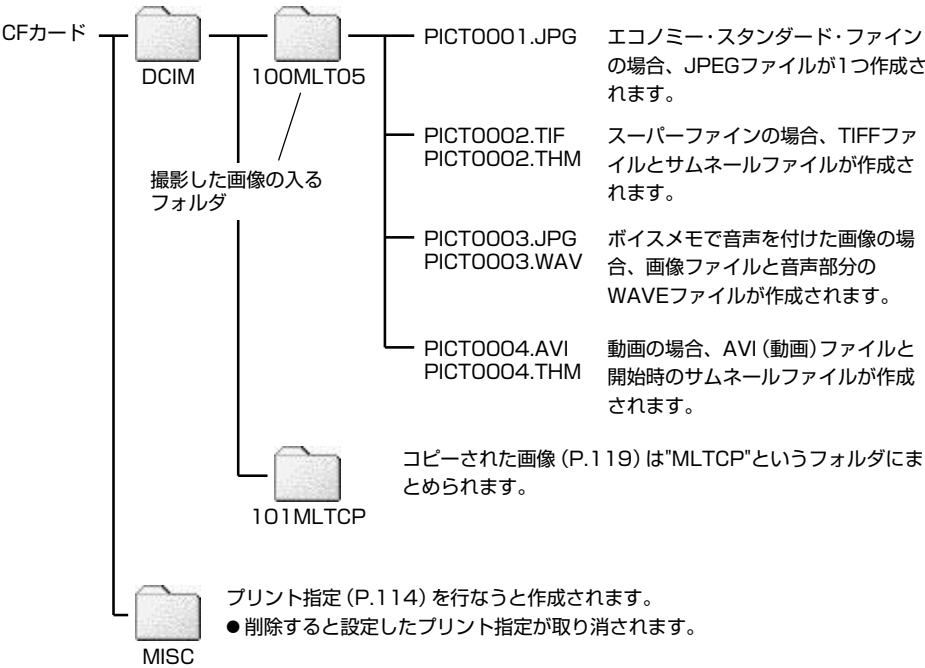
● 音の大きさ（音量）を変更することはできません。

言語設定

液晶モニターに表示される言語を、日本語、英語（English）、ドイツ語（Deutsch）、フランス語（Français）、スペイン語（Español）のなかから選ぶことができます。初期設定は日本語です。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、CFカード内のフォルダに入れられます。カード内のファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

フォルダ名とファイル名

フォルダ名について

例： 100 MLT03

フォルダの通し番号　識別文字
（100〜）

フォルダ名は、フォルダの通し番号3桁＋識別文字5文字、から成り立っています。
通し番号は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
識別文字は"MLT05"、コピーされた画像の入るフォルダの識別文字は"MLTCP"です。

- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（P.139〜）、カードをフォーマットしてください（P.125）。

ファイル名について

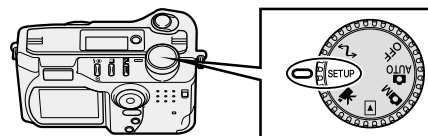
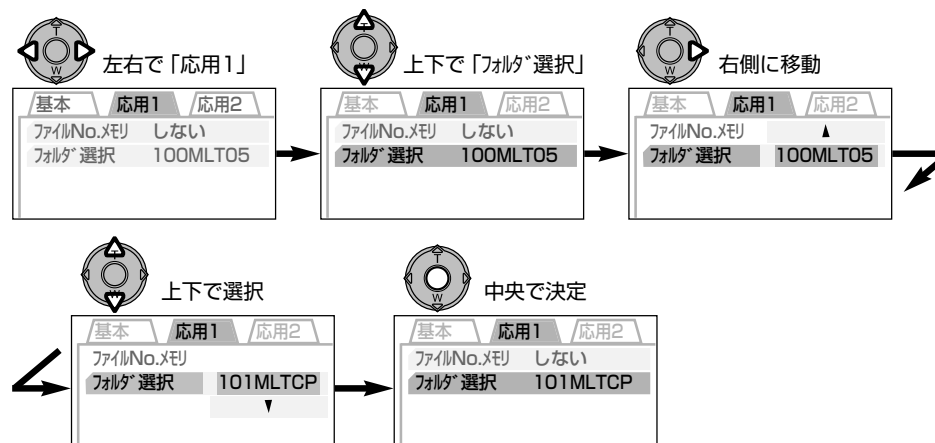
例： PICT 0001 .JPG

ファイルの通し番号　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）
（0001〜）

PICTの後の4桁の通し番号は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。カメラ側で消去された画像の番号は欠番となります。

- "PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと"102MLT05"）、その中で再び"PICT0001"から画像の記録が開始されます。
- フォルダ内の画像をすべて消去すると、通し番号は再び 0001 から始まります（ファイルNo.メモリをしないに設定している場合。→ P. 132）。
- フォルダを変更すると、初期設定では常にファイル名は"PICT0001"から始まります。※変更するには → 次ページ
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

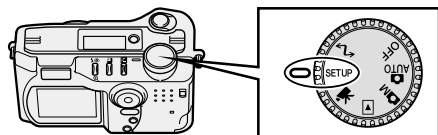
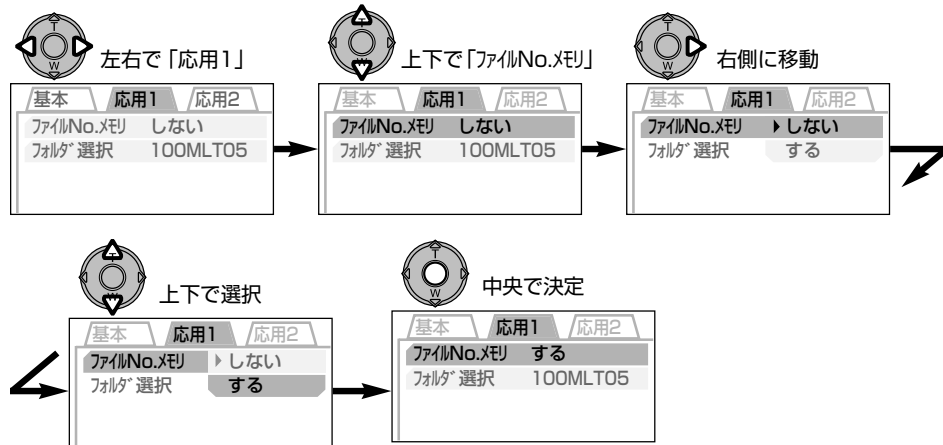
フォルダ選択

フォルダが2つ以上存在する場合、撮影した画像が記録されるフォルダを選ぶことができます。
また通常の再生やスライドショーは、カード単位でなくフォルダ単位で行われます。消去やプロテクト等で全コマを選択した場合も、通常はカード内全コマでなくフォルダ内全コマのことを意味します（プリント指定取り消しのカード内全コマを除く）。以下の方法で撮影・再生等行なうフォルダを選択することができます。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

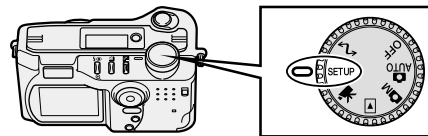
ファイルとフォルダ

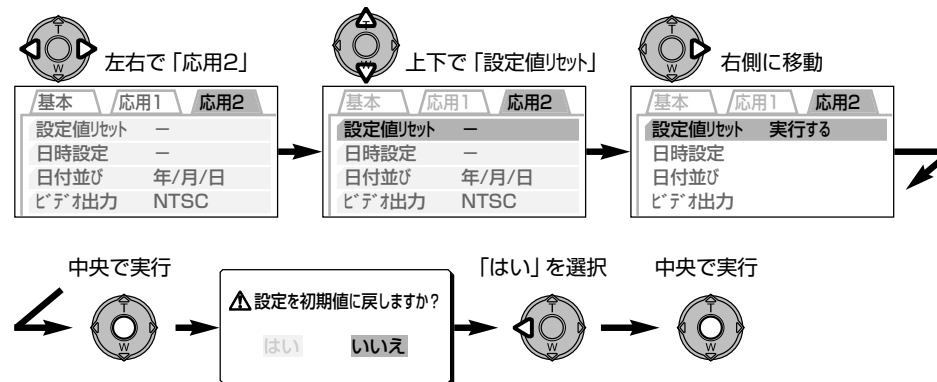
ファイルNo.メモリ

前ページでフォルダを変更すると、ファイル名は再び"PICT0001"から始まります。続き番号から始めるようにすることも可能です。

しない： ファイルNo.メモリはされず、フォルダが変わるとファイル番号は0001から始まります。
する： ファイルNo.メモリが機能し、フォルダが変わってもファイル番号はそのまま続きます。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定にもどすことができます。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

● リセットされる内容は次ページの通りです。

設定値リセット

ボタンで設定するもの

項目	設定	ページ
デジタル撮影シーンセレクター	通常撮影	52
フラッシュモード	自動発光	56
ドライブモード	1コマ撮影	58
露出補正	なし（±0.0）	63

AUTO撮影モードメニュー

項目	設定	ページ
画像サイズ	2048×1536（FULL）	38
画質	スタンダード（STD.）	40
ボイスメモ	なし	44
日付写し込み	なし	46
デジタルズーム	あり	48
アフタービュー	なし	50

マニュアル撮影モードメニュー

項目	設定	ページ
露出モード	P（プログラム）モード	67
画像サイズ	2048×1536（FULL）	38
画質	スタンダード（STD.）	40
ホワイトバランス	Auto（自動設定）	72
AF/MF切り替え	AF（オートフォーカス）	78
撮像感度	Auto（自動設定）	80
フルタイムAF	なし	82
測光モード	多分割（測光）	84
ブラケット段数	0.5段	86
デジタルズーム	あり	48
アフタービュー	なし	50

マニュアル撮影モードメニュー（続き）

項目	設定	ページ
カラーモード	カラー	87
シャープネス	標準	88
コントラスト	標準	90
彩度	標準	92
ボイスメモ	なし	44
日付写し込み	なし	46

再生モードメニュー

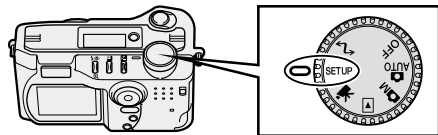
項目	設定	ページ
消去	このコマ	106
プロテクト	このコマ	108
インデックス画面	9コマ	110
スライドショー再生画像	全コマ	112
スライドショー間隔	5秒	112
スライドショー繰り返し	しない	112
プリント指定	このコマ	114
インデックスプリント	しない	117
プリント指定取り消し	フォルダ内全コマ	118
画像コピー	このコマ	119

セットアップモードメニュー

項目	設定	ページ
モニター明るさ	3	124
パワーセーブ	1分	126
操作音	あり	127
ファイルNo.メモリ	しない	132

日時設定

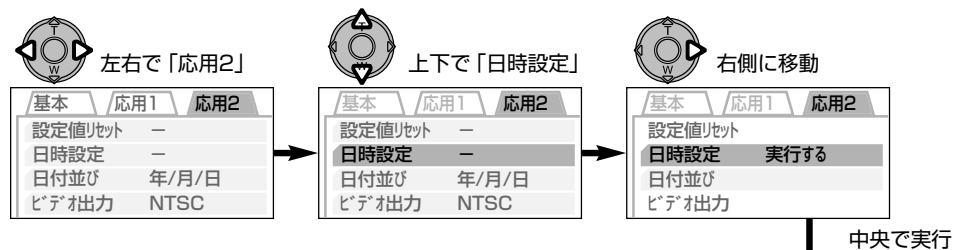
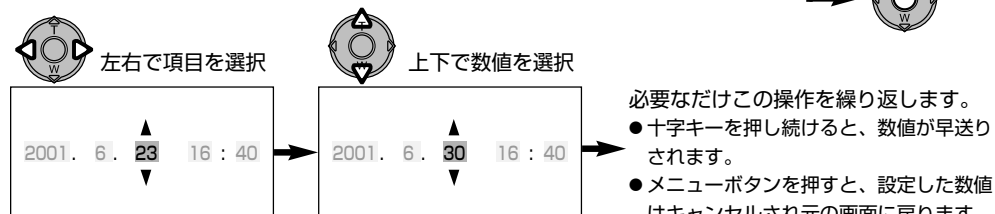
日時の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

●電池を交換したときは、日時が出荷時の状態（2001.01.01　00：00）にリセットされる場合がありますので、日時が正しいか確認してください。

1. セットアップモード位置にします。

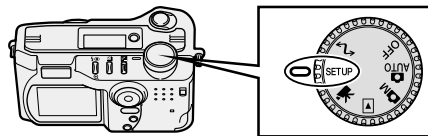
2. 十字キーで日時設定画面を選びます。

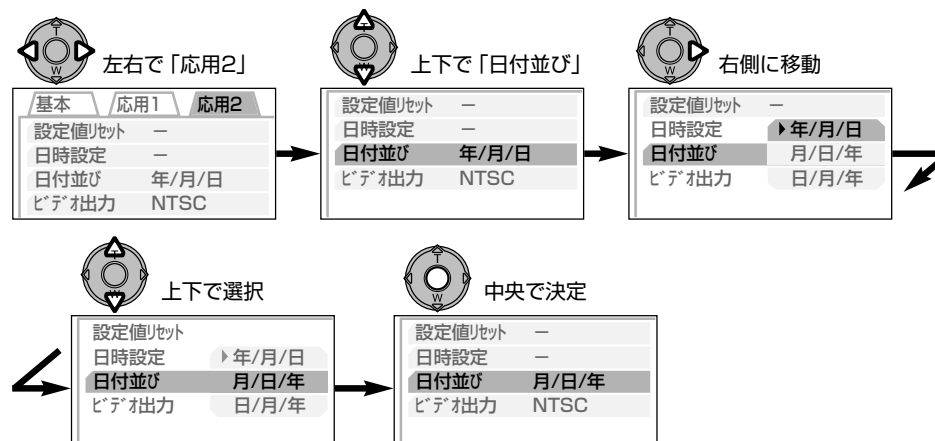
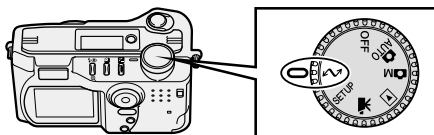
3. 十字キーで日時と時刻を設定します。

必要なだけこの操作を繰り返します。

●十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

●メニューボタンを押すと、設定した数値はキャンセルされ元の画面に戻ります。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、時計がスタートします。

日付並び

「年月日」の並び順を、「月日年」または「日月年」に変えることができます。

1. セットアップモード位置にします。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

PCと接続して、PCに画像を取り込みます パソコン接続（通信）編

この章では、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルが 〜 位置にあるときの各種設定について説明しています。

〜 通信

USB接続できます

メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 〜 位置にしていると、液晶モニター画面左上に「〜 通信」が現れます。

上面データパネルには、USbの文字が現れます。

パソコンに接続する（USB接続）

以下のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続にはUSBケーブルが必要です。別売のディマージュインターフェースキット IF-DG304 に付属のUSBケーブル USB-200 をお使いください。

USB端子を標準装備し、Windows®Me または Windows®2000 Professional がプリインストールされたIBM PC/AT および その互換機

そのままカメラに接続してお使いになれます。→P.142

USB端子を標準装備し、Windows®98 または Windows®98 Second Editionがプリインストールされた IBM PC/AT および その互換機

別売のディマージュインターフェースキット IF-DG304 に付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。その後カメラに接続してお使いください。→P.140

USB端子を標準装備し、Mac OS 9 〜 9.1がプリインストールされたApple Macintosh

そのままカメラに接続してお使いになれます。→P.142

USB端子を標準装備し、Mac OS 8.6がプリインストールされたApple Macintosh

Apple Computer Inc.（米国アップルコンピュータ社）のWebサイトから、ドライバをダウンロードしてインストールする必要があります。その後カメラに接続してお使いください。→P.141

- プリインストールとは、お買い上げ時にすでにインストールされている状態のことを指します。例えばWindows® 95から98にアップグレードしたものなどは動作保証対象外です。
- Mac OS X（テン）（10.0.3）については、Power Mac G4 にて動作確認済みです。
- ハブ接続した場合は正常に動作しない場合があります。そのような場合は、パソコン本体のUSB端子に直接接続してください。
- 自作機、ショップブランドなどの各種ボード類を含めて組み立てられた機種は除きます。
- Windows®95やNT4.0は、USB接続は動作保証対象外ですが、市販のPCカードアダプタやCFカードリーダーを用いて、CFカードの画像を直接パソコンで読み取ることは可能です。

Windows®98/98 Second Editionをお使いの場合

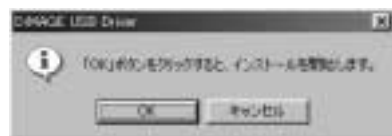
Windows®98/98 Second Editionをお使いの場合、別売りのディマージュインターフェースキット IF-DG304のディマージュソフトウェアCD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。

●デジタルカメラとパソコンとは接続しないで、まずドライバをパソコンにインストールしてください。

1. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

●左の画面が現れます。

2. [USBデバイスドライバ インストーラの起動] をクリックします。

3. 以下のインストール確認画面が出たら、[OK] をクリックします。

●お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュソフトウェアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.142

Mac OS 8.6をお使いの場合

パソコンに接続する前に、米国アップルコンピュータ社のWebサイトからドライバ（USB Mass Storage Support 1.3.5）をダウンロードし、インストールする必要があります。

1. ご使用のパソコンのインターネットブラウザを起動させ、以下に接続してください。
http://til.info.apple.com/techinfo.nsf/artnum/n60394

ここをクリックしてドライバをダウンロードします。

●左記は米国アップルコンピュータ社のWebサイトであり、2001年7月現在日本語のサイトはありません。またWebサイトのURLや構成等は予告なく変更されることがあります。

2. ダウンロードファイルのアイコンをダブルクリックします。

●使用許諾契約画面に続いて、インストーラアイコンが現れます。

3. インストーラアイコンをダブルクリックします。

●後は画面の指示にしたがってインストールを進めてください。インストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.142

●上記の方法でインストールできない場合、該当するサイトが見つからない場合、またさらに詳しい情報については、アップルコンピュータ社にお問い合わせください。

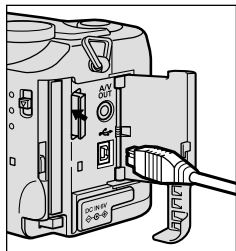
パソコンに接続する（USB接続）

デジタルカメラとパソコンの接続

1. パソコンの電源を入れます。

2. デジタルカメラにCFカードを入れます。

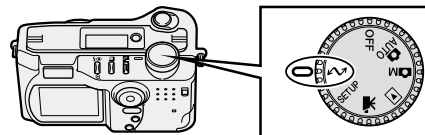
3. カードスロットふたを開け、インターフェースキットに付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタを、USB端子に差し込みます（左図）。

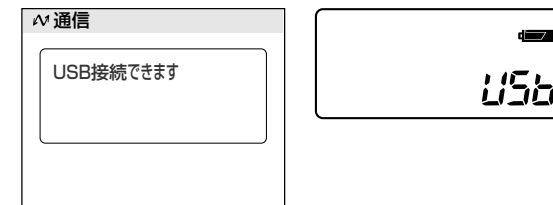
- 奥まで確実に差し込んでください。

4. USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。
- USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際にはP.148の指示にしたがってください。

続いてカメラをUSB接続にします。→次ページ

デジタルカメラをUSB接続にする

デジタルカメラとパソコンの接続が完了すると、続いてデジタルカメラをUSB接続に設定します。

カメラのメインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 位置に合わせます。

- 液晶モニター画面に以下の表示が、上面データパネルには**USb**が表示され、USB接続されたことをお知らせします。

接続後、液晶モニターは消灯し、パソコン上にCFカードのアイコンが表示されます。→次ページ

- USB接続中は、カメラを10分間操作しないでいると自動的にカメラがOFFになります（「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが出ることもあります）。必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、カメラのメインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 以外の位置に回して、USB接続を解除することをおすすめします。
- Windows®98/98 Second Edition使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ P.146

パソコンに接続する（USB接続）

画像ファイルを開く

USB接続が完了すると、カメラ内のCFカードの画像をパソコンで見ることができます。

Windows®では、CFカードがマイ コンピュータ上に「リムーバブルディスク」として現れます。ダブルクリックすると開けることができます。

Macintoshでは、CFカードがデスクトップ上に「名称未設定」として現れます。ダブルクリックすると開けることができます。

カード内の画像は、通常のファイルとしてパソコンの任意の場所にコピーすることができます。またパソコンのハードディスク内の画像をカードにコピーすることも可能です。
カード内のファイルとフォルダの構成についてはP.129をご覧ください。

- カードに該当するアイコンが表示されない場合は、パソコンを再起動してください。
- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプターAC-1Lの使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中には、以下の操作はしないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
  - ・カメラのメインスイッチ/モード切り替えダイヤルを動かす。
  - ・USBケーブルを取り外す。
  - ・カードの出し入れを行なう。
- パソコンでカードのフォーマットをしないでください。フォーマットはカメラ側で行なってください。→ P.125

撮影した画像をパソコンで表示させるのに必要なソフトウェア

このカメラで撮影した画像をパソコンで表示させるには、以下のソフトが必要です。

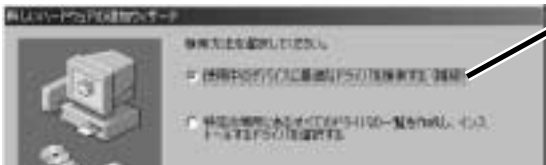
JPEG画像（エコノミー・スタンダード・ファインで撮影された画像）
最後に「.jpg」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフト等で開くことができます。お持ちでない場合は、別売のディマージュインターフェースキット IF-DG304 に付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから「DiMAGE Image Viewer Utility」をインストールしてお使いください。→ DiMAGE Image Viewer Utility 使用説明書参照

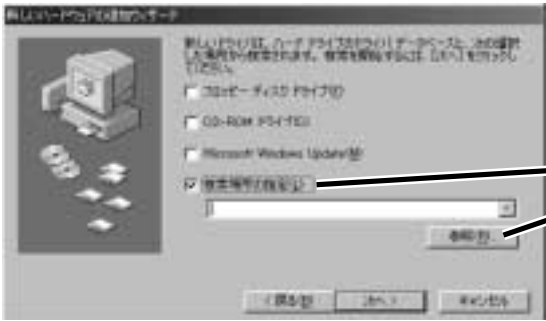
TIFF画像（スーパーファインで撮影された画像）
最後に「.tif」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフト等で開くことができます。お持ちでない場合は、別売のディマージュインターフェースキット IF-DG304 に付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから「DiMAGE Image Viewer Utility」をインストールしてお使いください。→ DiMAGE Image Viewer Utility 使用説明書参照

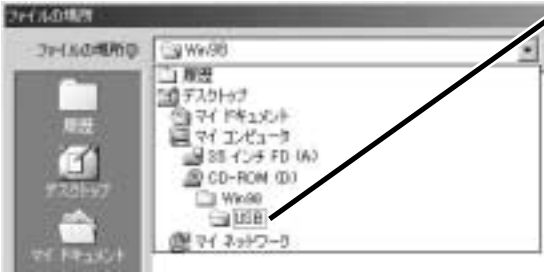
AVIファイル（動画）
最後に「.avi」が付いているファイルで、再生するには QuickTime 等の動画再生ソフトが必要です。Windows®で、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、別売のディマージュインターフェースキット IF-DG304 に付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから QuickTime をインストールしてお使いください。→ P.151
- Macintoshの場合、通常QuickTime はインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

サムネール画像
最後に「.thm」が付いているファイルです。DiMAGE Image Viewer Utility のサムネール表示用です。

Windows®98/98SE接続時に以下の画面が現れた場合は

お使いのパソコンの環境によっては、P.140の要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、以下の要領でドライバを再インストールしてください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4. [検索場所の指定] を選択し、[参照(R)] をクリックします。

5. 検索場所を、[CD-ROM] − [Win98] − [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュソフトウェアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

パソコンに接続する（USB接続）

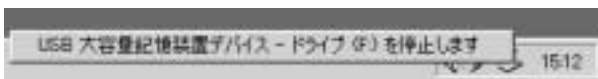
USBケーブルの取り外し・接続中のカードの交換

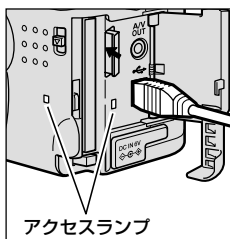
USBケーブルを取り外す場合や、パソコンに接続した状態でカメラ内のCFカードを交換する場合は、先に以下の操作を行なってください。

アクセスランプ

Windows®Me または 2000 Professional の場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USBディスクの停止］（Windows®Me）、または［USB大容量記憶装置デバイスを停止します］（Windows®2000 Professional）を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］をクリックします。

5. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 以外の位置に回します。
   - USB接続が解除されます。
6. USBケーブルを取り外します。（またはCFカードを交換します。）
   - カード交換後は、もう一度カメラのメインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 位置に合わせてください。

- 前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックも可能です。以下の手順に沿ってください。
  1. ハードウェアの取り外し画面が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
  2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
  3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］をクリックする。
  4. USBケーブルを取り外す、またはCFカードを交換する。

Windows®98 または 98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 以外の位置に回します。
   - USB接続が解除されます。
3. ケーブルを取り外します。（またはカードを交換します。）
   - カード交換後は、もう一度カメラのメインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 位置に合わせてください。

Macintoshの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します（ドラッグ＆ドロップします）。
3. ケーブルを取り外します。（またはカードを交換します。）
   - カード交換後は、もう一度カメラのメインスイッチ/モード切り替えダイヤルを 位置に合わせてください。

その他

QuickTimeのインストール

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windows®で、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、別売のディマージュインターフェースキット IF-DG304 に付属のディマージュソフトウェアCD-ROMからインストールしてください。

● Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

1. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [QuickTimeインストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

QuickTime Player の使い方

1. QuickTime Player を立ち上げます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の [スタート] から [プログラム(P)] ー [QuickTime] ー [QuickTime Player] を選択します。

次ページへ続く

QuickTimeのインストール

2. [ファイル (F)] から [ムービーを開く... (O)] を選択します。

3. 再生したい動画を選択します。

4. 動画ファイルを再生します。

一時停止ボタン

このボタンを押すと再生画面の詳細が現れます。

● 動画の画像サイズはQVGA (320×240ピクセル) ですが、実際に記録される範囲は304×240ピクセルです。よって再生時には、画面両端に黒い帯が表示されます。

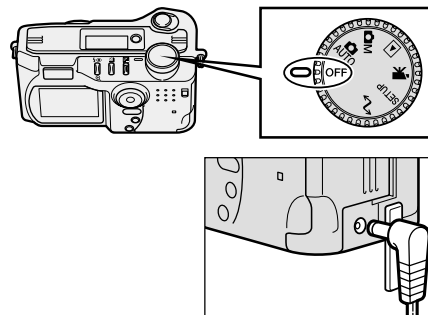
このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー

ディマージュインターフェースキット IF-DG304

ディマージュS304専用のインターフェースキットです。以下の4点が同梱されています。

- ●ディマージュソフトウエアCD-ROM
  画像表示/フォトレタッチ用ソフトウェア DiMAGE Image Viewer Utility (DiMAGE S304用)、Windows®98/98SE用USBドライバ、QuickTime for Windows®の3点のインストールが可能です。
- ●USBケーブル USB-200
- ●DiMAGE Image Viewer Utility (DiMAGE S304用) 使用説明書
- ●フォトレタッチソフトウェア ArcSoft PhotoImpression CD-ROM (Windows®/Macintosh)

ACアダプター AC-1L、外部電源パック EBP-100

屋内などAC電源が使える場合は、ACアダプターの使用が便利です (このカメラには AC-1L 以外のACアダプターは使用しないでください)。またAC電源が使えない場所で長時間の撮影を行う場合は、外部電源パックがご使用になれます。リチウムイオン電池NP-100を2個使用します。

接続するときは、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFに合わせた後、端子カバーを外して、DC電源入力端子にプラグを差し込みます。

- ● 詳しくはそれぞれの使用説明書をご覧ください。
- ● 電池が消耗して(のみ上面データパネルで点滅)、ACアダプター/外部電源パックを接続する場合は、消耗した電池をカメラから抜き、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFにしてから30秒ほど待ってください。すぐにACアダプター/外部電源パックを接続してもお使いになれません。

カメラケース CS-DG304

ディマージュ S304専用のカメラソフトケースです。

IRリモコン RC-3

カメラから離れた位置から撮影することができます。

不具合が生じたときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
液晶モニターが真っ暗になる	スーパーファイン（TIFF）で記録中	CFカードへの記録に数十秒かかることがあります。記録中はアクセスランプが点灯します。	41
	カメラをパソコンまたはテレビに接続している	接続中は液晶モニターの表示は消灯します。	－
	電池が消耗している	電池を交換してください。	22
	パワーセーブが作動した	液晶モニターは30秒以上、上面データパネルは1分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に消灯します。	23
液晶モニターが白黒になる	カラーモードが［モノクロ］になっている	マニュアル撮影モードのメニューの「応用2」タブでカラーモードを［カラー］に設定してください。	87
オートフォーカスでピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体（P.31）を撮ろうとしている	フォーカスロック撮影、フォーカスエリアセレクト機能による撮影のいずれかを行なってください。	32 76
	被写体に近づき過ぎている	広角側でカメラより約50cm以上、望遠側でカメラより約90cm以上離れたものにしかピントが合いません。それ以上近くを撮影する時には、デジタル撮影シーンセレクターのマクロをお使いください。	30 53
000が表示されシャッターが切れない	CFカードがいっぱいである	画像を消去するか、カードを交換してください。	106 24

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
シャッターが切れない	カメラがAUTO撮影モード AUTO、マニュアル撮影モード M、または動画モード 以外になっている	メインスイッチ/モード切り替えダイヤルを AUTO、M、または にしてください。	－
「このｶｰﾄﾞは使えません」のメッセージが出る	コンパクトフラッシュカード（CFカード）以外のカードを入れた	画像の記録にはコンパクトフラッシュカードをお使いください。	－
「ｶｰﾄﾞを認識できません」のメッセージが出る	CFカードのフォーマットが適切でない	カードのフォーマット（初期化）を行なってください。	125
シャッター速度と絞り値が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、カメラの測光範囲またはシャッター速度や絞り値の範囲を超えている	明る過ぎるときは、被写体を暗くします。暗過ぎるときは、フラッシュを発光させるか、被写体を明るくします。	－
Aモードでシャッター速度が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度の範囲を超えている	シャッター速度が点滅しないように絞り値を設定してください。	69
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	33 81
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	－

不具合が生じたときは

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
画像が記録されていない	画像の記録中にCFカードを取り出した	アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。	25
プリント指定ができない	動画を指定しようとしている	動画はプリント指定できません。	114
電池を交換しても ▭ の点滅が消えない	消耗した電池を取り出して、すぐに新しい電池を入れた	電池をが消耗したとき（上面データパネルに ▭ のみ点滅しているとき）は、その消耗した電池を取り出し、メインスイッチ/モード切り替えダイヤルをOFFにして30秒ほど待ってから新しい電池を入れてください。	23
撮影した画像の色がおかしい（パソコンに取り込んだ時）	モニターの設定が最適でない このカメラで撮影した画像は、sRGBの環境で見たときに最適に再現されるよう設計されています。sRGBで規定されている色温度は約6500K、ガンマ（γ）値は2.2です。	色温度の設定 6500Kに設定してください。設定方法はモニターの使用説明書をご覧ください。 ガンマ（γ）値の設定 Macintoshの場合は「モニタ調整アシスタント」で2.2にしてください。設定方法はMac OS ヘルプ等をご覧ください。 Windows®では標準が2.2なので、変更の必要はありません。	
パワーセーブでもないのに上面データパネルの表示が消える	一度カメラの電源をOFFにして再度ONにしてください。 カメラをバッグ等に入れて持ち運ぶ際に、予期せずカメラの電源が入ってしまい、レンズの初期リセット操作が正常に行われなかった場合などにこの現象が起きることがあります。		
Err が表示される、またはカメラが正常に作動しない	一度カメラの電源をOFFにして再度ONにしてください。それでも直らない場合は、カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、Err 表示が消えてから入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度プラグを抜いて、Err 表示が消えてから差し込み直してください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。		

取り扱い上の注意

電池について

- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
  ニッケル水素電池は低温での性能低下が少ないので、寒冷地ではニッケル水素電池の使用をおすすめします。また、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
- 長期間使用しないときは電池を抜き取ってください。入れたままにしておくと、液漏れにより電池室を損傷する原因となります。
- アルカリ乾電池の特性上、温度や保管のしかたによっては、実際の電池容量よりカメラの電池容量表示が低く表示されることがあります。このような場合でも、カメラをしばらく使用すると電池容量が回復し、正常な電池容量表示が行われます。
- いったん容量切れになった電池はかならず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

プリント指定（DPOF）について

- 他のデジタルカメラでDPOF設定したCFカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。
- 他のDCF対応のデジタルカメラで撮影した画像の入ったCFカードをこのカメラに入れた場合、他のカメラで撮影した画像（他のDCF対応デジタルカメラによって作成されたフォルダ内の画像）に対してはDPOFの設定はできません。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられていますが、極めてわずかながら画素欠けや常時点灯するものがあります。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

取り扱い上の注意

コンパクトフラッシュ等記録メディアについて

●下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。

1. お客様または第三者がメディアの使い方を誤ったとき
2. メディアが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
3. メディアへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
4. 長期間メディアの書き換えがないとき
5. メディアの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき

●メディアをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
●メディアには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
●強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
●曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
●強い静電気や強い衝撃によって記録メディアが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
●端子部に手や金属で触れないでください。
●熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

その他

●カメラに強い衝撃を与えないでください。
●バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
●このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やコンパクトフラッシュカードの出し入れ、カメラの操作をしないでください。
海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
●直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
●あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

●カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
●レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
●シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
●レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

●涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
●長期間使用しないときは、カメラから電池やコンパクトフラッシュカードを取り出してください。
●防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
●保管中も時々電源を入れて、シャッターを切るようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

●前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
●万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

●本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
●製品の修理に関しては、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせいただくか、修理依頼品を「アフターサービスのご案内」に記載のサービスセンター・サービスステーションにお持ち込みください。

主な性能

形式	フラッシュ内蔵コンパクトタイプデジタルカメラ
撮像素子	1/1.8型総画素334万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
有効画素数	317万画素
レンズ構成	9群11枚
開放絞り値	F3.0〜F3.6
設定可能絞り値	広角：F3.0/F6.7、望遠：F3.6/F8.0
焦点距離	7.15〜28.6㎜（35㎜フィルム換算：35〜140㎜相当）
撮影距離	広角：0.5m〜∞（CCD面から）、0.44m〜∞（鏡銅先端から） 望遠：0.9m〜∞（CCD面から）、0.84m〜∞（鏡銅先端から） マクロ時（焦点距離15.5㎜）：16㎝〜60㎝（CCD面から）、10㎝〜54㎝（鏡銅先端から） 最大撮影倍率：0.10（35㎜フィルム換算で0.465倍相当） 最大撮影倍率時の被写体サイズ：約74.3×55.7㎜
ズーム方式	電動ズーム
フィルター径	35.5㎜
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスモード	AF：ワンショットAF、フルタイムAF選択可能、マニュアルフォーカスに切り替え可能
AFフレーム	ワイドフォーカスフレーム、5つのローカルフォーカスフレームに切り替え可能 5つから任意の1つのローカルフォーカスフレームを選択可能
露出モード	P（プログラム）、A（絞り優先）、M（マニュアル）
デジタル撮影シーンセレクター	マクロ、ポートレート、風景、夜景ポートレート・夜景、テキスト
デジタルエフェクトコントロール	シャープネス、コントラスト、彩度補正が可能
測光方式	多分割測光（256分割）、スポット測光
露出制御範囲	広角：EV1.2〜15.4、望遠：EV1.7〜16
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用　シャッター速度：BULB（最長15秒）、4〜1/1000秒
ホワイトバランス	オート、昼光、白熱灯、蛍光灯、曇天、カスタム設定
露出補正	±2EV（1/3EVステップ）

フラッシュ制御方式	ADI調光
フラッシュモード	自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、赤目軽減強制発光、発光禁止
内蔵フラッシュ連動距離	広角：約0.9〜3.5m、望遠：約0.9〜3.0m（CCD位置より、撮影感度オート時）
内蔵フラッシュ充電時間	約7秒
ファインダー形式	実像式光学ズームファインダー
ファインダー視野率	約80%
アイポイント	18.5㎜（最終光学面より）、13㎜（接眼枠より）
ファインダー倍率	0.4〜1.34倍
A/D変換bit数	12 bit
記録媒体	コンパクトフラッシュ（CF）カード TYPE I
記録形式	Exif 2.1（JPEG、TIFF）、Motion JPEG（AVI、音声付き）、WAVE DCF 1.0準拠　DPOF（ver.1.1）のプリント機能に対応
PIM (Print Image Matching)	対応
記録画素数	2048×1536、1600×1200、1280×960、640×480
カラーモード	カラー、モノクロ
画質モード	エコノミー（ECON.）、スタンダード（STD..）、ファイン（FINE）、スーパーファイン（S.FIN）
シャープネス	ソフト、標準、ハード
Exif Tag情報	撮影年月日時刻、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離等）、色空間情報
消去機能	あり（1コマ／全コマ／指定コマ）　クイックビュー時の消去可能 誤消去防止機能：あり（1コマ／全コマ／指定コマ）
フォーマット機能	あり
日付写し込み機能	年月日/写し込みなし選択可能
液晶モニター	46㎜（1.8型）TFTカラー モニター画素数：12.2万画素 視野率：約100% モニター輝度：調整可能（5段階）

主な性能

連続撮影	約1コマ／秒（最速） 連続撮影速度は撮影条件による　スーパーファインは連続撮影不可能
セルフタイマー	約10秒
ブラケット撮影	露出ずらし量：1.0EV、0.5EV、0.3EV　枚数：3枚
リモコン撮影	別売アクセサリー RC-3使用により可能
動画	QVGA：320×240（1フレームあたり）、音声付き、最大60秒
音声	静止画時ボイスメモ選択可能（WAVE形式、最大15秒）
デジタルズーム	2倍
操作音	あり/なし切り替え可
使用電池	単3形 4本（ニッケル水素、アルカリ）　ニッケル水素電池の使用を推奨
外部電源	DC 6V（ACアダプター使用時）
連続動作時間	連続再生：約110分　当社試験条件による（ニッケル水素電池（1600mAh)使用、液晶モニター点灯）
撮影可能コマ数	（下表参照）

	液晶モニターON（点灯）	液晶モニターOFF（消灯）
ニッケル水素電池使用	約150コマ	約280コマ

当社試験条件による（ニッケル水素電池（1600mAh)使用、画像サイズ：2048×1536、画質：スタンダード、アフタービュー：なし、フラッシュ使用：50%）

PC用インターフェース	USB（ver.1.1）
ビデオ出力	NTSC/PAL切り替え可
大きさ	113.5（幅）×64.5（高さ）×58.5（奥行）㎜
質量（重さ）	約335g（電池、CFカード別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引